

担当課 財政課

## 一般会計予算決算常任委員会審査参考資料

(提出資料)

- 1 平成27年度一般会計歳入歳出決算（対前年度比較表）
- 2 一般会計の基金の状況（定額運用基金を除く）

## 平成27年度一般会計歳入歳出決算（対前年度比較表）

歳入

（単位：千円・％）

区 分	H27決算額	H26決算額	差引増減額	伸び率
1 市 税	9,986,336	10,032,765	▲ 46,429	▲ 0.5
2 地 方 譲 与 税	197,402	202,340	▲ 4,938	▲ 2.4
3 利 子 割 交 付 金	19,134	22,560	▲ 3,426	▲ 15.2
4 配 当 割 交 付 金	41,486	58,980	▲ 17,494	▲ 29.7
5 株式等譲渡所得割交付金	40,633	30,219	10,414	34.5
6 地方消費税交付金	1,146,348	662,784	483,564	73.0
7 ゴルフ場利用税交付金	68,075	67,546	529	0.8
8 自動車取得税交付金	40,395	23,599	16,796	71.2
9 地方特例交付金	34,862	32,886	1,976	6.0
10 地 方 交 付 税	5,076,905	5,040,824	36,081	0.7
11 交通安全対策特別交付金	7,585	6,970	615	8.8
12 分 担 金 ・ 負 担 金	297,352	386,376	▲ 89,024	▲ 23.0
13 使 用 料 ・ 手 数 料	579,044	490,379	88,665	18.1
14 国 庫 支 出 金	3,516,220	3,932,241	▲ 416,021	▲ 10.6
15 県 支 出 金	1,640,882	1,573,915	66,967	4.3
16 財 産 収 入	46,262	53,417	▲ 7,155	▲ 13.4
17 寄 附 金	7,683	3,307	4,376	132.3
18 繰 入 金	88,444	180,239	▲ 91,795	▲ 50.9
19 繰 越 金	582,855	570,676	12,179	2.1
20 諸 収 入	621,242	707,155	▲ 85,913	▲ 12.1
21 市 債	2,417,000	5,791,540	▲ 3,374,540	▲ 58.3
合 計	26,456,145	29,870,719	▲ 3,414,574	▲ 11.4

※千円未満端数調整のため、各費目の計と合計等は一致していない

歳出（目的別）

（単位：千円・％）

区	分	H27決算額	H26決算額	差引増減額	伸び率
1	議会費	226,973	219,639	7,334	3.3
2	総務費	4,152,702	4,014,401	138,301	3.4
3	民生費	9,595,338	9,489,686	105,652	1.1
4	衛生費	2,328,864	6,389,622	▲ 4,060,758	▲ 63.6
5	労働費	51,213	53,439	▲ 2,226	▲ 4.2
6	農林水産業費	430,339	445,143	▲ 14,804	▲ 3.3
7	商工費	607,200	533,171	74,029	13.9
8	土木費	2,072,644	2,026,439	46,205	2.3
9	消防費	1,002,100	1,031,099	▲ 28,999	▲ 2.8
10	教育費	1,845,929	1,556,362	289,567	18.6
11	災害復旧費	20,378	1,020	19,358	1,897.8
12	公債費	3,331,254	3,527,844	▲ 196,590	▲ 5.6
合	計	25,664,933	29,287,864	▲ 3,622,931	▲ 12.4

※千円未満端数調整のため、各費目の計と合計等は一致していない

歳出（性質別）

（単位：千円・％）

区 分	H27決算額	H26決算額	差引増減額	伸び率	
1 人 件 費	3,797,095	3,859,937	▲ 62,842	▲ 1.6	
2 物 件 費	2,970,619	2,834,863	135,756	4.8	
3 維 持 補 修 費	132,001	136,571	▲ 4,570	▲ 3.3	
4 扶 助 費	6,031,112	6,073,645	▲ 42,533	▲ 0.7	
5 補 助 費 等	2,687,818	2,352,687	335,131	14.2	
内 訳	(1) 一部事務組合に対するもの	1,008,650	1,058,159	▲ 49,509	▲ 4.7
	(2) (1) 以外のもの	1,679,168	1,294,528	384,640	29.7
6 公 債 費	3,334,879	3,531,433	▲ 196,554	▲ 5.6	
内 訳	(1) 元 利 償 還 金	3,332,153	3,530,877	▲ 198,724	▲ 5.6
	(2) 一時借入金利子	2,726	556	2,170	390.3
7 積 立 金	1,057,374	913,797	143,577	15.7	
8 投資及び出資・貸付金	250,828	1,195,209	▲ 944,381	▲ 79.0	
9 繰 出 金	3,647,491	3,491,953	155,538	4.5	
10 前年度繰上充用金	0	0	-	-	
計 (1~10)	23,909,217	24,390,095	▲ 480,878	▲ 2.0	
11 投 資 的 経 費	1,755,716	4,897,769	▲ 3,142,053	▲ 64.2	
	(1) 普通建設事業費	1,729,517	4,896,698	▲ 3,167,181	▲ 64.7
	(2) 災害復旧事業費	26,199	1,071	25,128	2,346.2
	(3) 失業対策事業費	0	0	-	-
合 計	25,664,933	29,287,864	▲ 3,622,931	▲ 12.4	

※決算統計における分類による

# 一般会計の基金の状況(定額運用基金を除く)

(単位:円)

No.	基金の名称	26年度末 残高	27年度決算額		27年度末 残高
			積立額	取崩額	
1	新幹線厚狭駅整備基金	60,172,825	23,949	0	60,196,774
2	地域福祉基金	63,906,681	16,325	0	63,923,006
3	労働施設積立基金	46,241,449	9,397	0	46,250,846
4	新山野井工業団地かんがい 揚水施設維持管理基金	18,097,516	3,680	57,467	18,043,729
5	津布田一丁田地区かんがい 排水施設維持管理運営基金	58,023,865	11,804	300,000	57,735,669
6	公共施設整備基金	22,984,061	6,745	0	22,990,806
7	退職手当基金	527,428,125	70,101,117	0	597,529,242
8	交通遺児基金	13,239,624	2,784	2,784	13,239,624
9	教育文化振興基金	153,852,725	91,319	91,319	153,852,725
10	電源立地振興基金	6,393,442	1,870	2,798,472	3,596,840
11	一般廃棄物処理施設等整備基金	889,158	721	0	889,879
12	まちづくり魅力基金	1,511,276,043	3,308,657	47,686,177	1,466,898,523
13	ふるさと支援基金	22,067,862	4,705,349	0	26,773,211
14	江汐公園施設整備基金	30,002,851	15,005,909	0	45,008,760

特目基金の合計	2,534,576,227	93,289,626	50,936,219	2,576,929,634
---------	---------------	------------	------------	---------------

No.	基金の名称	26年度末 残高	27年度決算額		27年度末 残高
			積立額	取崩額	
15	財政調整基金	2,853,172,286	963,965,000	0	3,817,137,286
16	減債基金	623,527,399	119,185	37,508,000	586,138,584

一般会計基金の合計	6,011,275,912	1,057,373,811	88,444,219	6,980,205,504
-----------	---------------	---------------	------------	---------------

平成28年第3回定例会  
一般会計予算決算常任委員会資料  
(平成27年度一般会計決算審査資料)

# 事業一覧表

No.	事業名	款	項	目	担当課	ページ
1	山口東京理科大学公立化準備事業	2	1	1	成長戦略室	1 ~ 5
		2	7	1		
2	新市誕生10周年記念事業「出張！なんでも鑑定団」	2	1	1	総務課	6 ~ 8
3	移住用プロモーションビデオ作成事業	2	1	5	総務課	9 ~ 9
4	第二次総合計画策定事業	2	1	9	企画課	10 ~ 11
5	防犯外灯助成事業	2	1	20	生活安全課	12 ~ 13
6	厚狭地区複合施設整備事業	2	1	23	企画課	14 ~ 14
7	絵画展開催事業	2	1	24	文化振興課	15 ~ 17
8	主催文化事業 「歌ごえコンサート」	2	1	24	文化振興課	18 ~ 20
9	主催文化事業 「展覧会事業」	2	1	24	文化振興課	21 ~ 23
10	主催文化事業 「サンタクロース派遣事業」	2	1	24	文化振興課	24 ~ 26
11	新市誕生10周年記念事業「NHK公開番組のど自慢」	2	1	24	文化振興課	27 ~ 29
12	新市誕生10周年記念事業「セルゲイ・ナカリヤコフ・リサイタル」	2	1	24	文化振興課	30 ~ 32
13	きららガラス未来館維持整備事業	2	1	27	文化振興課	33 ~ 35
14	レノファ山口とのパートナーシップ事業	2	1	28	文化・スポーツ 政策室	36 ~ 37
15	ふれあいスポーツ推進事業	2	1	28	スポーツ振興課	38 ~ 47
16	新市誕生10周年記念事業「JFAこころのプロジェクト「夢の教室」事業」	2	1	28	成長戦略室	48 ~ 49
17	新市誕生10周年記念事業「実行委員会負担金」	2	1	30	総務課	50 ~ 58
18	通知カード・個人番号カード関連事務委任事業	2	3	1	市民課	59 ~ 61
19	生活困窮者自立支援事業	3	1	1	社会福祉課	62 ~ 65

No.	事業名	款	項	目	担当課	ページ
20	新市誕生10周年記念事業「ねんりんピック特別表彰事業」	3	1	3	高齢障害課	66 ~ 66
21	地域子育て支援センター事業費	3	2	2	こども福祉課	67 ~ 68
22	私立幼稚園運営費負担事業	3	2	2	こども福祉課	69 ~ 70
23	放課後児童対策事業(放課後児童クラブ)	3	2	6	こども福祉課	71 ~ 72
24	子ども医療費助成事業	3	2	1 2	こども福祉課	73 ~ 74
25	就労自立給付金事業	3	3	2	社会福祉課	75 ~ 76
26	妊婦健康診査事業	4	1	1	健康増進課	77 ~ 77
27	二次救急医療体制の充実 (救急医療体制の充実)	4	1	1	健康増進課	78 ~ 78
28	地域医療連携情報ネットワーク運営負担事業	4	1	1	健康増進課	79 ~ 79
29	新市誕生10周年記念事業「第6回SOS健康フェスタ」	4	1	1	健康増進課	80 ~ 80
30	健康診査事業	4	1	1 2	健康増進課	81 ~ 84
31	新火葬場建設事業	4	1	7	環境課	85 ~ 86
32	JR小野田線100周年記念事業	7	1	1	商工労働課	87 ~ 89
33	地域公共交通網形成計画策定支援事業	7	1	1	商工労働課	90 ~ 90
34	デマンド型交通運営事業	7	1	1	商工労働課	91 ~ 92
35	地方バス路線維持対策事業	7	1	1	商工労働課	93 ~ 94
36	地域通貨導入事業	7	1	2	商工労働課	95 ~ 97
37 38	観光交流促進事業・観光パンフレット作成事業	7	1	4	観光課	98 ~ 98
39	小規模土木事業	8	2	1	土木課	99 ~ 100
40	通学路安全対策事業	8	2	4	土木課	101 ~ 102



No.	事業名	款	項	目	担当課	ページ
41	コンパクトなまちづくりモデル推進事業	8	5	1	都市計画課	103 ~ 103
42	小野田駅前土地地区画整理区域整備事業	8	5	1	都市計画課	104 ~ 105
43	江汐公園管理運営事業	8	5	2	都市計画課	106 ~ 120
44	都市公園施設整備事業	8	5	2	都市計画課	121 ~ 122
45	住宅リフォーム資金助成事業	8	6	1	建築住宅課	123 ~ 123
46	知的障害特別支援学級設置事業	10	2 3	1 2 3	教育総務課 学校教育課	124 ~ 125
47	小学校タブレット端末整備事業	10	2	2	学校教育課	126 ~ 127
48	学校施設非構造部材耐震化事業	10	2 3	3	教育総務課	128 ~ 130
49	多子世帯応援保育料等軽減事業	10	4	1	学校教育課	131 ~ 132
		12 13	1 1	1 2	こども福祉課	133 ~ 134
50	新市誕生10周年記念事業「花いっぱい運動」	10	5	1	社会教育課	135 ~ 137
51	新市誕生10周年記念事業「ぐるーっと山陽小野田ウォーク」	10	5	1	社会教育課	138 ~ 140
52	新市誕生10周年記念事業「幕末の女(ひと)と男(ひと)山陽小野田編」	10	5	4	歴史民俗資料館	141 ~ 143
53	学校給食共同調理場建設事業	10	6	3	教育総務課	144 ~ 148

施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	14 意欲のある人づくり	3 高等学校・高等教育機関との連携・活用	2 高等教育機関との連携・活用
	実施計画名		事務事業名
山口東京理科大学公立化準備事業		山口東京理科大学公立化準備事業1	

事業概要	現在の山口東京理科大学を公立大学法人へ移管するため、山口県、文部科学省への認可申請等に係る事務を行うとともに、開学後の公立大学を滞りなく運営するための準備事務(定款、財務シミュレーション等の作成)を行う。	対象	山口東京理科大学
		手段	山口東京理科大学の公立化及び薬学部の設置
		意図	産学官連携による地域経済の発展

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	旅費(一般管理費)	1,761,000	593,240
	旅費(大学費)	1,936,800	786,090
合計		3,697,800	1,379,330

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	3,697,800	1,379,330
合計		3,697,800	1,379,330

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	2.3	13,267,539

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		※上段:目標		中段:実績		下段:達成率		
		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)		
1	受験者数		1200 1474 122.83%	1300 4600 353.8%	良い	1300		
2	公立化及び薬学部の設置		公立化準備 公立化準備 100.00%	公立化 公立化 100.00%			薬学部申請	
3								

妥当性	目的の妥当性	妥当である	
	自治体関与の妥当性	妥当である	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の設置者(市)として事業を実施する。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の設置者(市)として事業を実施する。
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	



課題	平成28年4月に公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学を設置し、山陽小野田市立山口東京理科大学を開学することができた。今後は、円滑な大学運営、そして、平成30年4月の薬学部設置に向けて、学校法人東京理科大学、公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学と連携し、薬学部校舎の建設、薬学部教員リクルート等に取り組み、平成29年3月末までに文部科学省に学部新設の認可申請ができるよう事務を進めていく。(文部科学省への申請は、公立大学法人が行う。)		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--

平成27年度 事務事業評価シート 課・局・室・所(係) 成長戦略室 No 1-2

施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	14 意欲のある人づくり	3 高等学校・高等教育機関との連携・活用	2 高等教育機関との連携・活用
	実施計画名		事務事業名
	山口東京理科大学公立化準備事業		山口東京理科大学公立化準備事業2

事業概要	学校法人東京理科大学が設置する山口東京理科大学を平成28年4月に公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学が設置する市立大学へ移行するため、公立化後の大学運営がスムーズに行えるよう、大学職員の採用試験(筆記試験、グループワーク、個人面接)を行う。	対象	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学
		手段	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学職員採用試験の実施
		意図	公立化後の大学運営をスムーズに行うため

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	493,600	298,485
	役務費	20,800	1,886
	職員健康診断委託料	60,000	0
合計		574,400	300,371

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	574,400	300,371
合計		574,400	300,371

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.7	3,431,455

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	職員採用試験の実施			150人	普通	
				86人		
				57.3%		
2					普通	
3					普通	

妥当性	目的の妥当性	概ね妥当である	
	自治体関与の妥当性	妥当である	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の設置者(市)として事業を実施する。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の設置者(市)として事業を実施する。
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	



課題	職員採用に当たっては、薬学部設置を踏まえ、円滑な大学運営が行えるよう、適正な人員確保をするため、計画的に職員採用をしていかなければならない。ただし、平成28年4月以降は、公立大学法人が設立されているため、当該法人において実施する。 ○平成28年度職員採用の状況 大学卒業程度 採用予定人員:2人程度、応募者数:46人、受験者数:41人、最終合格者数:3人、採用者数:3人 社会人経験者 採用予定人員:5人程度、応募者数:50人、受験者数:45人、最終合格者数:6人、採用者数:6人		
今後の方向性	事業の終了	改善時期	

特記事項	
------	--

実施体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	14 意欲のある人づくり	3 高等学校・高等教育機関との連携・活用	2 高等教育機関との連携・活用
	実施計画名		事務事業名
	公立大学法人山口東京理科大学運営事業		公立大学法人山口東京理科大学運営事業

事業概要	地方独立行政法人法(H15.7.16 法律第118号)に基づき、山陽小野田市公立大学法人評価委員会の設置者である市が山陽小野田市公立大学法人評価委員会を設置し、中期計画、各事業年度における業務実績についての評価事務を行う。	対象	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学
		手段	山陽小野田市公立大学法人評価委員会の開催
		意図	公立大学法人の運営状況等を評価委員会を開催してチェックする

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報酬(委員報酬)	48,000	36,000
	役員費	5,760	492
合計		53,760	36,492

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	53,760	36,492
合計		53,760	36,492

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.25	1,442,124

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	評価委員会開催回数			4回 3回 75.0%	目標達成度 普通	6
2						
3						

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

妥当性	目的の妥当性	妥当である	地方独立行政法人法、山陽小野田市公立大学法人評価委員会設置条例(H27.9.30)に基づき設置された委員会
	自治体関与の妥当性	妥当である	地方独立行政法人法、山陽小野田市公立大学法人評価委員会設置条例(H27.9.30)に基づき設置された委員会
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	地方独立行政法人法に基づき、審議の対象となる事項について審議を行う。
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	山陽小野田市公立大学法人評価委員会設置条例に基づき、設置者である市において公立大学法人に関する事務を行う。
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	

課題	評価委員会は、公立大学法人による自己点検・評価をもとに、各事業年度における業務の実績に関する評価と中期目標の期間における業務の実績に関する評価等を行っていくことになるが、評価を通じて公立大学法人の状況を分かりやすく示し、市民への説明責任を果たしていくことが必要になる。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	14 意欲のある人づくり	3 高等学校・高等教育機関との連携・活用	2 高等教育機関との連携・活用
	実施計画名		事務事業名
	山口東京理科大学公立化準備事業		山口東京理科大学公立化施設整備事業

事業概要	学校法人東京理科大学が設置する山口東京理科大学を平成28年4月に公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学が設置する市立大学へ移行するため、それまでに必要な施設環境整備等を行い、公立化後の大学運営をスムーズに行えるようにする。	対象	山口東京理科大学
		手段	インターネット回線工事
		意図	公立化後の大学運営をスムーズに行うため

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	役務費	50,149	50,149
	工事請負費	618,000	538,920
	合計	668,149	589,069

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
一般財源	668,149	589,069	
合計	668,149	589,069	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.05	288,425

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	インターネット回線の設置			設置 設置 100.0%	普通	
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	概ね妥当である	
	自治体関与の妥当性	妥当である	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の設置者(市)として事業を実施する。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の設置者(市)として事業を実施する。
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	



課題	
今後の方向性	事業の終了 改善時期

特記事項	
------	--

実施体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	14 意欲のある人づくり	3 高等学校・高等教育機関との連携・活用	2 高等教育機関との連携・活用
	実施計画名		事務事業名
	山口東京理科大学公立化準備事業	公立大学法人山口東京理科大学校歌・校章等制作事業	

事業概要	学校法人東京理科大学が設置する山口東京理科大学が、平成28年3月に公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学が設置する市立大学へ移行するため、山陽小野田市立山口東京理科大学としての校歌、校章、ロゴマークを公募等により制作する。	対象	山陽小野田市立山口東京理科大学
		手段	校歌(作詞、作曲、録音)は依頼し、ロゴマーク、校章は公募する
		意図	幅広い方のデザインを募り、新しい公立大学のイメージを作る

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	旅費	63,200	42,960
	報償費	140,000	0
	役務費	138,451	0
	校歌制作委託料	1,280,000	1,280,000
合計		1,621,651	1,322,960

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	1,621,651	1,322,960
合計		1,621,651	1,322,960

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.15	865,274

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		※上段:目標		中段:実績		下段:達成率		
		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)		
1	ロゴマーク・校章の応募数			500	59.2%			
				296		悪い		
2								
3								

妥当性	目的の妥当性	妥当である	
	自治体関与の妥当性	概ね妥当である	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の設置者(市)として事業を実施する。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	検討が必要	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の設置者(市)として事業を実施する。
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	

課題	校章・ロゴマークについては、公募を行い全国から多くの募集があったが、山口東京理科大学と協議を行った結果、平成28年4月から市立大学となることから在大学生からの募集や意見を聴いて決めることとした。このため、開学当初に校章・ロゴマークが決まらなかった。このため、校章・ロゴマークは、今後、公立大学法人で決めるとした。ただし、公募のあった作品を含めて、審査を行う。 ○公募の状況 校章 応募作品数 116点 応募者数 71人 ロゴマーク 応募作品数 180点 応募者数 106人		
今後の方向性	事業の終了	改善時期	

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	5	市民が主役の地域づくり	3	市民と行政との協働のまちづくり	1	市民参加の機会づくり
	実施計画名		事務事業名			
4	市誕生10周年記念事業	2	新市誕生10周年記念事業「出張！なんでも鑑定団 in 山陽小野田」			

事業概要	○平成27年11月1日(日)に不二輸送機ホールで、開運なんでも鑑定団(テレビ東京系のバラエティ番組)のコーナーである「出張！なんでも鑑定団 in 山陽小野田」の公開収録を行う。		対象	市民ほか
			手段	不二輸送機ホールで公開収録を行う。広く観覧者を募集する。放送の中で、市のPRを行う。
			意図	10周年記念事業として当該事業を行うことにより市の知名度アップを図る。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	257,332	257,332
	役務費	439,668	432,000
	音響照明委託料	135,000	135,000
合計		832,000	824,332

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	基金繰入金	832,000	824,332
	一般財源			
合計		832,000	824,332	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.4	2,307,398

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	入場者数			満席 ほぼ満席	良い	
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	市をPRする絶好の機会であり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	市誕生10周年を記念し、市が実施する事業である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	全国に山陽小野田市を発信でき、費用対効果は大きい。



課題			
今後の方向性	事業の終了		改善時期

特記事項			
------	--	--	--

山陽小野田市誕生10周年記念市主催事業 実施報告書

事業所管課 [ 総務課 ]

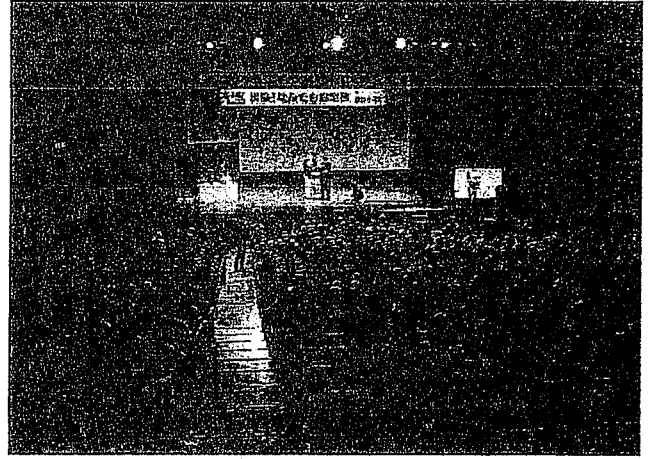
1 事業名	出張！なんでも鑑定団 in 山陽小野田
2 市誕生10周年の趣旨	①一体感の醸成      ②躍動感あふれるまちづくり ③知名度アップ      ④10年の軌跡をたどる
3 事業の目的	開運なんでも鑑定団は、テレビ東京をキーステーションに全国37局とBSジャパンで放送されている人気バラエティである。当該番組を本市の招聘し、公開収録を行って全国放送することで、本市の魅力を全国に発信する。
4 事業の概要	(1) 内容 「出張！なんでも鑑定団」の公開収録を不二輸送機ホールの大ホールで行った。鑑定士3人、司会者1人、アシスタント1人を迎え、6人の鑑定依頼人が出場した。
	(2) 実施体制 (共催・後援・協力団体など) 後援：山陽小野田観光協会、KRY山口放送
5 事業費	(1) 予算額 総事業費 832,000円 需用費 257,332円 (消耗品費、印刷製本費) 役務費 439,668円 (広告料、手数料) 委託料 135,000円 (音響照明委託料)
	(2) 決算額 総事業費 824,332円 需用費 257,332円 (消耗品費、印刷製本費) 役務費 432,000円 (広告料) 委託料 135,000円 (音響照明委託料)
6 実施状況	(1) 日時・場所 平成27年11月1日(日)13時30分開場、14時30分開演、16時30分終演 不二輸送機ホール (2) 対象者・参加人数 鑑定依頼人6人(市内1人、市外4人、県外1人) 観覧予定数379通(1通当たり2人まで観覧可能)、当日入場は約700人。 鑑定士3人(安河内真美さん、増田孝さん、森由美さん) 司会者1人(原口あきまささん)、アシスタント1人(新妻さと子さん) 運営スタッフ29人 (3) 具体的な内容・状況 番組収録に係る打合せ：5/14・9/29(番組制作会社、総務課、観光課、文化会館) 鑑定出場者募集：7/1～8/31、応募総数347点(215人) 観覧募集：7/1～10/2、応募総数1,809通(当選379通、当選率21%) スポットCM：7/8～10/1(KRY山口放送) 鑑定品：①九谷焼の大鉢、②酒井抱一の掛軸、③大久保利通の書、④川端玉章の絵、 ⑤高杉晋作の書、⑥染付大皿 以上6点 (4) 成果・効果 収録は鑑定品一つにつき15分で、司会者と鑑定依頼人のコミカルな問答などで、会場は大いに盛り上がった。 収録の様子は、12月12日(12時～13時)にKRY山口放送で放送された。 コーナーの前に山陽小野田市の紹介映像が放映され、本市の知名度アップにつながった。 当日は、観光協会が会場ロビーで本市の観光名産品の紹介・販売を実施し、大変好評だった。 市誕生10周年事業として非常に有効であったと考える。
7 その他(今後の取組など)	今後も、周年記念行事の折には、同種の公開収録番組を是非招聘したいと考える。



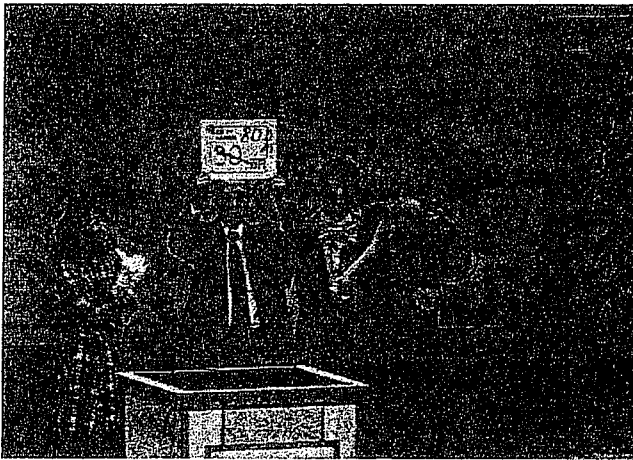
出張！なんでも鑑定団 in 山陽小野田



〈満員の会場〉



〈会場の様子〉



〈驚きの鑑定結果〉



〈司会者と鑑定依頼人のコミカルな問答〉



〈鑑定士によるお宝の説明〉



〈本市の観光名産品の紹介・販売〉

施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)		小項目(基本事業)
	13 活気にみちた往来の盛んなまちの基盤づくり	6	定住促進	1 転入者の定住促進
	実施計画名		事務事業名	
8	転入促進事業	1	移住用プロモーションビデオ作成事業	

事業概要	総務省が所管する全自治体の協働データベース内に創設するポータルサイト「全国移住ナビ」にアップロードする3分間のプロモーションビデオを作成し、市をPRする。	対象	不特定多数の人
		手段	「全国移住ナビ」を利用し市をPR
		意図	転入者の定住を促進

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	ビデオ制作委託料	4,644,000	4,644,000
合計		4,644,000	4,644,000

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	4,644,000	4,644,000
合計		4,644,000	4,644,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	1,730,549

交付税算入	有	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	プロモーションビデオ作成			1本	良い	
				1本		
				100.0%		
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である
	自治体関与の妥当性	妥当である
	対象(受益者)の妥当性	妥当である
有効性	目標達成度	達成している
	類似事業の存在	存在しない
	上位施策への貢献度	貢献している
効率性	実施主体の適正化	適正である
	受益者負担の適正化	適正である
	コスト効率	適正である



課題	
今後の方向性	事業の終了 改善時期

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	7	効率的で健全な行財政基盤づくり	3	財政運営の健全化	1	財政の効率的運営
	実施計画名			事務事業名		
9	総合計画等策定事業		1	第二次山陽小野田市総合計画策定事業		

事業概要	本市第一次総合計画の期間がH29年度満了のため、市人口ビジョンを踏まえ、第二次の総合計画を策定する。H27年度に策定作業に着手し、H28年度に委託業者を決定し、市民まちづくり会議等を開催して原案を作成し、H29年度にパブリックコメントを経て、議会議決を得る。	対象	第二次山陽小野田市総合計画
		手段	公募委員を含めた会議において計画を策定
		意図	計画に基づき、重点事業を着実に実施し、効率的な市政運営を行う

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	普通旅費	141,280	135,300
	消耗品費	108,141	108,141
	通信運搬費	540,615	540,615
	通行料	12,570	12,570
	研修負担金	34,560	34,560
合計		837,166	831,186

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	837,166	831,186
合計		837,166	831,186

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.45	2,595,823

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)	
1	第二次山陽小野田市総合計画策定			策定作業着手	100.0%	素案作成完了	
2				策定作業着手		普通	
3							

妥当性	目的の妥当性	妥当である	総合計画は、市政の総合的かつ長期的な指針であり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	



課題	第二次総合計画は、第一次総合計画による市政運営の検証及び総括を行い、市民アンケートや市民まちづくり会議などで得られた市民の意見を検討し、市人口ビジョンを踏まえて策定する。今後の本市の財政状況として、多様化する市民ニーズへの対応に要する経費や扶助費、施設の維持管理経費・更新経費の増加が予想される一方で、市税の増加が望めないため、市総合計画は、重点的に取り組むべき事業を定め、効率的な市政運営を行うことのできる実効性のある計画とする必要がある。このため、計画期間12年間(平成41年度まで)において実施を予定する事業及び事業費をとりまとめ、財政見込と照らし合わせながら、重点的の事業を定めていくこととなるが、具体的作業について財政課ともよく協議して進めていく必要がある。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--

## アンケートの実施及び回収結果について

### 1 調査目的

本市では、第二次山陽小野田市総合計画の策定に当たり、総合計画の推進やまちづくりを進めていく上での市民意識を把握し、計画策定の基礎資料として活用することを目的として実施した。

### 2 市民アンケートの概要

- ①実施時期 平成 28 年 2 月～3 月
- ②調査対象者 市内在住の 18 歳以上の 3,500 人  
(住民基本台帳から無作為抽出)
- ③調査方法 郵送による配布・回収
- ④回収結果
  - a 発送数 3,500 件
  - b 到達数 3,478 件
  - c 有効回収数 1,151 件
  - d 回収率 33.1%

### 3 中学生アンケートの概要

- ①実施時期 平成 28 年 2 月～3 月
- ②調査対象者 市内の中学 2 年生 564 人
- ③調査方法 学校に依頼
- ④回収結果
  - a 有効回収数 539 件
  - b 回収率 95.6%

### 4 職員アンケートの概要

- ①実施時期 平成 28 年 2 月～3 月
- ②調査対象者 市職員（宇部・山陽小野田消防局を除く） 751 人
- ③回収結果
  - a 有効回収数 622 件
  - b 回収率 82.8%

平成27年度 事務事業評価シート 課・局・室・所(係) 生活安全課 防犯交通係 No 5

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	4	市民が安心して暮らせる環境づくり	5	交通安全と治安の確保	3	地域防犯対策の推進
	実施計画名			事務事業名		
3	防犯灯整備事業		1	防犯外灯助成事業		

事業概要	防犯外灯の新設経費及び修理経費の一部を補助することにより、自治会の防犯活動を支援し、地域の安全の確保を図る。 平成25年度から10年間を目途にLED化を促進する。		対象	自治会等
			手段	器具の新設、修理に対して補助をする。
			意図	自治会の負担を軽減し、防犯外灯が適切に維持されることより、地域の安全の確保を図る。

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	消耗品費	6,099	6,061
	防犯外灯設置補助金	9,687,000	9,645,900
	合計	9,693,099	9,651,961

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他	地域づくり推進事業	1,800,000
一般財源		7,893,099	7,834,961
合計		9,693,099	9,651,961

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.75	4,326,372

交付税算入	無	会計種別	一般	経常・臨時
-------	---	------	----	-------

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標	H25		H26		H27		目標達成度	H28(目標)
1 防犯外灯助成新設・修理灯数	470灯	582灯	633灯				良い	
2 防犯外灯助成修理灯数(促進分)	314灯	337灯	380灯					
3 LED化率	10%	20%	30%					40%
	14%	24%	35%					
	140.00%	116.67%	116.67%					

妥当性	目的の妥当性	妥当である	自治会等の負担を軽減することにより、防犯環境の整備を促進するものである。
	自治体関与の妥当性	妥当である	地域の安全確保のための自治会等への補助であり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	自治会等の防犯灯への補助であり、妥当である。
有効性	目標達成度	達成している	10年間でLED100%をめざす。目標 1年10% 3年目はLED化30%
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	自治会等への補助であり、適正である。
	受益者負担の適正化	適正である	設置、修理費の60%又は上限額までの補助であり、適正である。
	コスト効率	適正である	

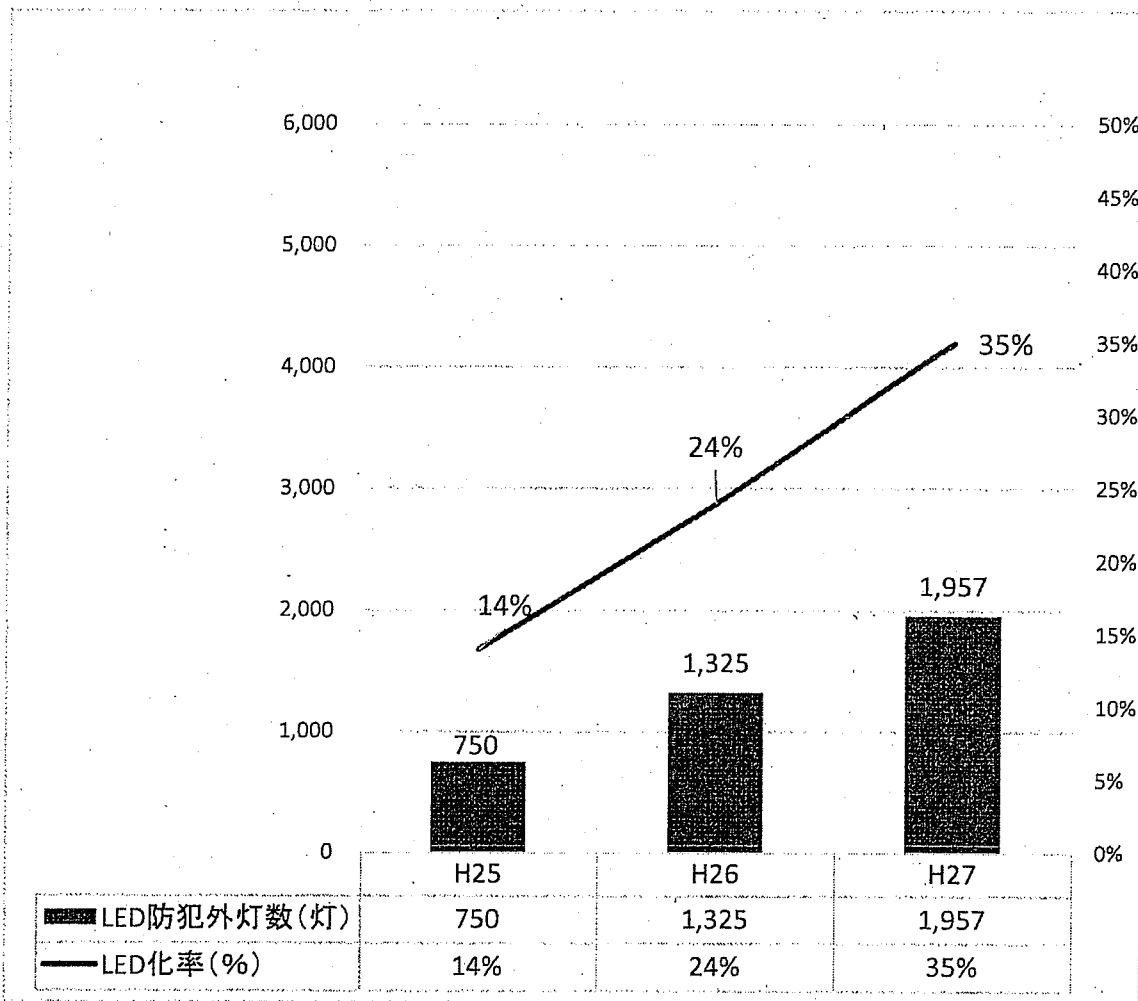


課題 防犯外灯のLED化は、自治会等の電気料金の負担軽減、また、電力消費が抑えられることから地球温暖化対策にも貢献できるため、蛍光灯からLED灯に取り替える自治会が増えており、LED灯の早期設置を希望する自治会が多い。平成25年度から10年間でLED化率100%を目指し、計画の早期実現に努める。

今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期
--------	------------------	------

特記事項	
------	--

# 防犯外灯助成事業



年度	H25	H26	H27
予算額(千円)	7,050千円	9,050千円	9,687千円
決算額(円)	7,046,100円	9,049,400円	9,645,900円
LED化率(%)	14%	24%	35%
防犯外灯助成新規・修理灯数	470灯	582灯	633灯
LED工事数(灯)	449灯	575灯	632灯
防犯外灯数(灯)	5,344灯	5,596灯	5,664灯
LED防犯外灯合計(灯)	750灯	1,325灯	1,957灯

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	7	効率的で健全な行財政基盤づくり	1	効率的な行政運営の推進	1	行政改革の推進
	実施計画名			事務事業名		
3	公共施設再編整備事業		1	厚狭地区複合施設整備事業		

事業概要	厚狭地区にある山陽総合事務所、厚狭公民館、厚狭図書館はいずれも老朽化しているため、再編し複合施設として整備する。平成25年度は実施設計を完了、事業に着手し、平成26年度は体育館棟が完成した。平成27年度に主棟及び外構整備を完了し、2月8日に供用を開始した。	対象	老朽化した公共施設(山陽総合事務所、厚狭公民館、厚狭図書館)
		手段	再編による施設整備及び特定財源の確保
		意図	施設の複合化による行政改革の推進及び公共施設の安全性確保

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	修繕料	2,571,480	2,571,480
	手数料	3,029,360	2,601,570
	工事請負費	460,192,760	449,249,180
	庁用器具費	16,777,505	13,856,710
	その他	7,904,895	7,636,505
合計		490,476,000	475,915,445

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債	95%	429,700,000	427,600,000
	その他	まちづくり魅力基金	15,000,000	0
	一般財源		45,776,000	48,315,445
合計		490,476,000	475,915,445	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	2.5	14,421,237

交付税算入	有	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	合意形成に向けた市民への説明会等の開催	(随時) 3回	(随時) 1回	(随時) 1回		
2	工程の進捗状況	体育館棟着手 着手済 100.00%	体育館棟完成 体育館棟完成 100.00%	主棟完成・オープン 主棟完成・オープン 100.00%	普通	解体工事完了
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	複合施設整備は行政改革の推進に寄与するものであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	公共施設は市が整備すべきであり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	老朽化した公共施設の再編整備であり、妥当である。
有効性	目標達成度	達成している	工程に沿った形で進んでおり、達成している。
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	公共施設整備は市が主体で実施すべきであり、適正である。
	受益者負担の適正化	適正である	施設整備は市の負担で行うものであり、適正である。
	コスト効率	概ね適正である	工事経費が高騰しているが全国的な傾向であり、概ね適正である。



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	
------	--

平成27年度 事務事業評価シート 課・局・室・所(係) 文化振興課 No 7

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
	実施計画名			事務事業名		
	文化によるまちづくり推進事業			絵画展開催事業		

事業概要	市内在住の画家(プロ、セミプロ等)の作品を集め、絵画展を開催することで、地元の画家に作品の発表の場を提供できるとともに市民にとっても芸術に触れる機会を創出することにより、芸術文化活動の推進および活性化を図る。	対象	市民
		手段	地元の画家の絵画展の開催
		意図	発表の場を提供することにより、文化振興を推進する

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	287,000	100,247
	役務費	20,000	0
合計		307,000	100,247

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	販売手数料	0	5,000
	一般財源		307,000	95,247
合計		307,000	100,247	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.15	865,274

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	入場者数			452人	普通	
2	画家の出品者数			27人		
3	満足度(アンケート調査による)			78.40%		

妥当性	目的の妥当性	妥当である	芸術文化を育む環境づくりに寄与するものであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	芸術文化を育む環境づくりのための市としての取組みの一つである。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	芸術文化の振興に貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	市が主催する文化事業であり、適正である。
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	必要最小限の経費負担であり、適正である。



課題	
今後の方向性	事業の終了 改善時期

特記事項	
------	--



平成 27 年度山陽小野田市主催文化事業

## 山陽小野田絵画展 実施報告

### 開催趣旨

市内出身・在住の画家の絵画展を開催することで、地元の画家に作品の発表の場を提供するとともに、市民にとっても芸術に触れる機会を創出することにより、芸術文化活動の推進および活性化を図る。

**開催期間** 平成 28 年 2 月 13 日 (土) ~ 2 月 21 日 (日) [8 日間]

※ 2 月 16 日 (火) は休館日のため除く

10:00~17:00 (入場は 16:30 まで)

※ 最終日は 16:00 で終了 (入場は 15:30 まで)

**会 場** 不二輸送機ホール (山陽小野田市文化会館) 小ホール

**観 覧 料** 無料

**主 催** 山陽小野田市

**共 催** 山陽小野田市文化協会

**後 援** 宇部日報社・FMサンサンきらら

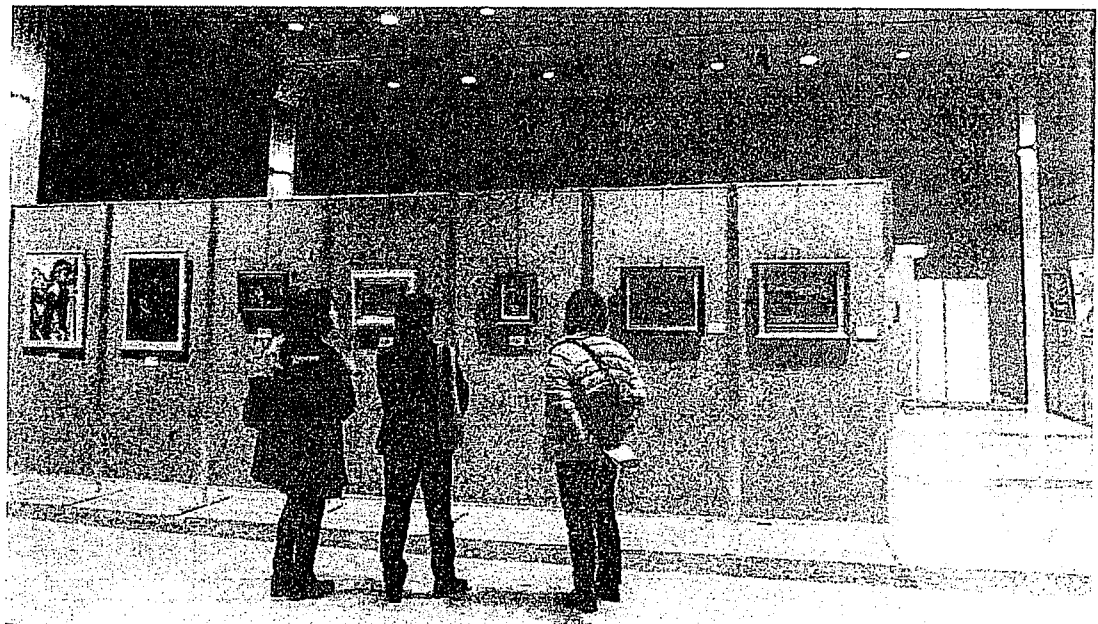
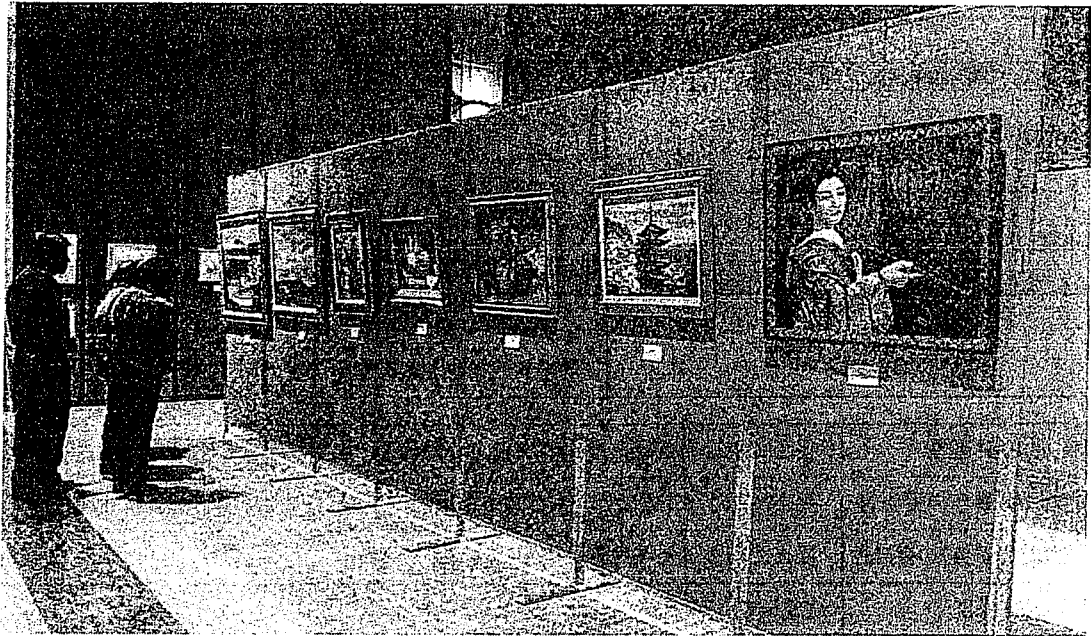
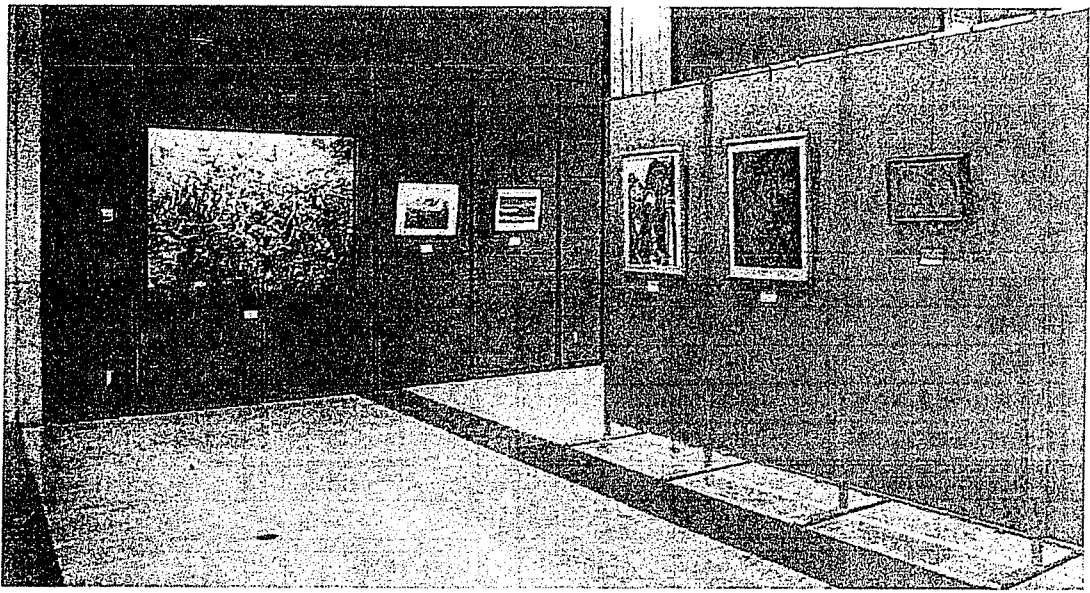
**出 品 者** 公募による募集

**出品作品数** 61 作品

**観覧者数** 452 人

**作品購入申込** 2 件 (成立 1 件)

山陽小野田絵画展



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
	実施計画名		事務事業名			
3	芸術文化の鑑賞機会の充実事業1	10	芸術文化を育む事業(⑦歌ごえコンサート)			

事業概要	市民が気軽に芸術文化に触れ、親しむことを目的とした「市民参加型コンサート」を実施。ゲストにプロの歌手を招き、会場一体となって歌い、楽しいひとときを過ごす。 開催日 平成27年10月11日(日) ゲスト ボニージャックス	対象	市民ほか
		手段	プロのアーティストを迎え、参加できるコンサートを実施する。
		意図	芸術文化を育む環境づくり

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	80,000	42,688
	役務費	195,000	98,574
	委託料(公演業務委託)	850,000	850,000
	委託料(音響委託等)	665,000	527,400
	使用料及び賃借料	41,000	40,284
合計		1,831,000	1,558,946

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	入場料	800,000	506,500
	一般財源		1,031,000	1,052,446
合計		1,831,000	1,558,946	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.2	1,153,699

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	公演回数			1回	良い	1回
				1回		
				100.0%		
2	満足度(アンケートによる)			80%	良い	80%
				93%		
				116.25%		
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	当事業は芸術文化を育む環境づくりに寄与するものであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	市としての芸術文化を育む環境づくりのための市としての取組みの一つである。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	全市民を対象としている。
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	音楽公演の категория には存在するが、プロの歌手と市民参加型のコンサートは存在しない。
	上位施策への貢献度	貢献している	芸術文化の振興に貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	入場料収入があり、適正である。
	コスト効率	適正である	



課題	
今後の方向性	事業の終了 改善時期

特記事項	
------	--

## 市民参加型 歌ごえコンサート 実施報告書

### 開催趣旨

アーティストと観客が一緒に歌い、みんなで楽しめる市民参加型のコンサート。プロのアーティスト（コーラスグループ等）によるステージの後、第2部では客席も一緒に歌って楽しめる「歌声喫茶風」コンサートとし、聴くだけでなく、アーティストと観客が一体となって幅広い世代の市民が楽しめるコンサートを実施する。

### 事業名 市民みんなで歌おう 歌ごえコンサート

ゲスト：ボニージャックス

開催日 平成27年10月11日（日）

開場13時30分 開演14時00分

会場 不二輸送機ホール（山陽小野田市文化会館）大ホール

入場料 一般 前売2,000円（当日2,500円） 高校生以下無料

### 内容

第1部

☆ボニージャックスコンサート（約30分）

☆ボニージャックスと地元合唱団の共演

・空とぶうさぎ ・翼をください ・いい日旅立ち ・オブラディ

### オブラダ

第2部

☆みんなで歌おう 歌ごえコンサート

主催 山陽小野田市

共催 山陽小野田市文化協会

後援 宇部日報社・FMサンサンきらら・小野田音楽連盟

プレイガイド 不二輸送機ホール（山陽小野田市文化会館）・市民館・協働推進課・

仮設山陽総合事務所・市内各公民館

問合せ 不二輸送機ホール（山陽小野田市文化会館） 電話 0836-71-1000

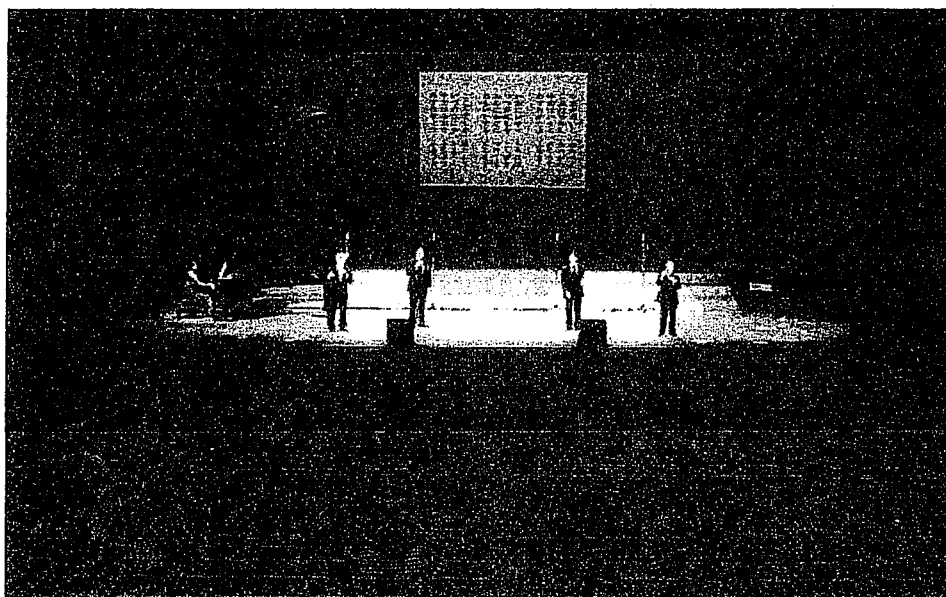
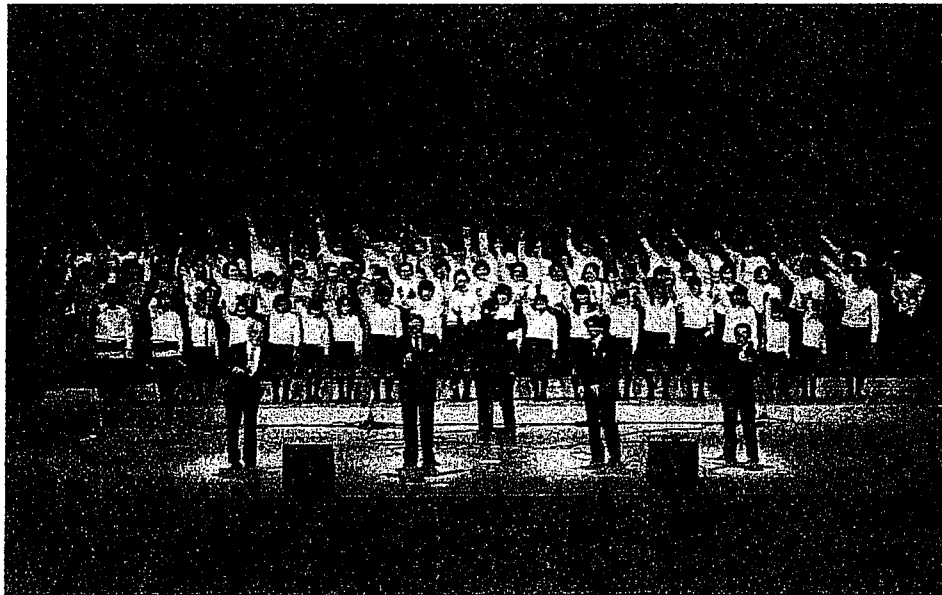
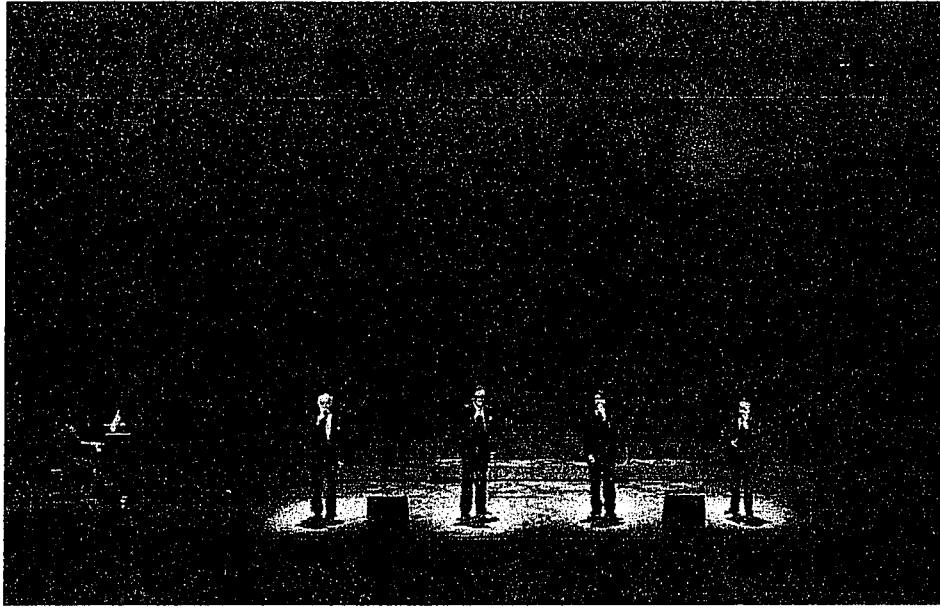
当日入場者 一般 243人（前売 234人、当日 9人）

高校生以下 2人

招待券 1人

合唱団 65人 合計 311人

# 歌ごえコンサート



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
	実施計画名			事務事業名		
3	芸術文化の鑑賞機会の充実事業1		8	展覧会事業		

事業概要	芸術の美術分野における鑑賞機会の充実を図るため、役者・演出家・画家と幅広く活躍された米倉斉加年氏の絵画展を開催する。 開催期間 平成27年9月19日(土)～9月30日(水) 12日間、会場 文化会館小ホール		対象	市民ほか
			手段	米倉斉加年氏の絵画作品の展示
			意図	芸術文化に親しむ環境をつくる

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	99,000	98,205
	役務費	210,000	209,210
	委託料(公演)	650,000	650,000
	委託料(実行委員)	16,000	14,000
	使用料及び賃借料	25,000	21,600
合計		1,000,000	993,015

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	入場料等	300,000	446,184
	一般財源		700,000	546,831
合計		1,000,000	993,015	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.45	2,595,823

交付税 算入	無	会計種別	一般	臨時
-----------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	展示日数			12日間	良い	
				12日間		
				100.0%		
2	満足度(アンケートによる)			80%	良い	
				91%		
				113.75%		
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	当事業は芸術文化を育む環境づくりに寄与するものであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	新市誕生10周年を記念行事として開催する。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	全市民を対象としている。
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	絵画展としては存在するが、10年記念事業では存在しない。
	上位施策への貢献度	貢献している	芸術文化の振興に貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	入場料を設定している。
	コスト効率	適正である	tysテレビ山口の共催を得ることで、PRにかかる経費を削減できている。



課題			
今後の方向性	事業の終了	改善時期	

特記事項			
------	--	--	--

## 米倉齊加年 遺作原画展 実施報告書

### ◆開催趣旨

山陽小野田市においては、絵画などを専門に展示する美術館やギャラリーがなく、美術分野での芸術鑑賞機会が限られている。そこで、美術分野における鑑賞機会の充実を図るため、文化会館小ホールにおいて展覧会事業を開催する。

今回は、役者・演出家でありながら、画家（絵師）としても幅広く活躍し、平成 26 年に他界された米倉齊加年（よねくらまさかね）氏の絵画展を開催し、芸術的価値の高い作品を市民に鑑賞していただくとともに、役者・演出家としての米倉氏の活躍を紹介し、在りし日の米倉氏を偲ぶ。

また、山陽小野田市は平成 27 年に市誕生 10 周年を迎えるため、展覧会事業の開催により市の一体感の醸成を図るとともに、芸術文化鑑賞機会の充実による文化の浸透と向上を図る。

◆開催期間 平成 27 年 9 月 19 日（土）～9 月 30 日（水）[12 日間]

9：00～17：00（入場は 16：30 まで）

◆会場 不二輸送機ホール（山陽小野田市文化会館）小ホール

◆観覧料 一般 500 円 高校生以下無料

◆主催 山陽小野田市

◆共催 tys テレビ山口・山陽小野田市文化協会

◆後援 宇部日報社・FMサンサンきらら・中国新聞社・山口宇部経済新聞

◆協力 偕成社

◆フリーガイド 不二輸送機ホール（文化会館）・市民館・協働推進課・仮設山陽総合事務所・

市内各公民館・宇部井筒屋

◆問合せ 不二輸送機ホール（山陽小野田市文化会館） 電話 0836-71-1000

◆当日入場者 一般 788 人

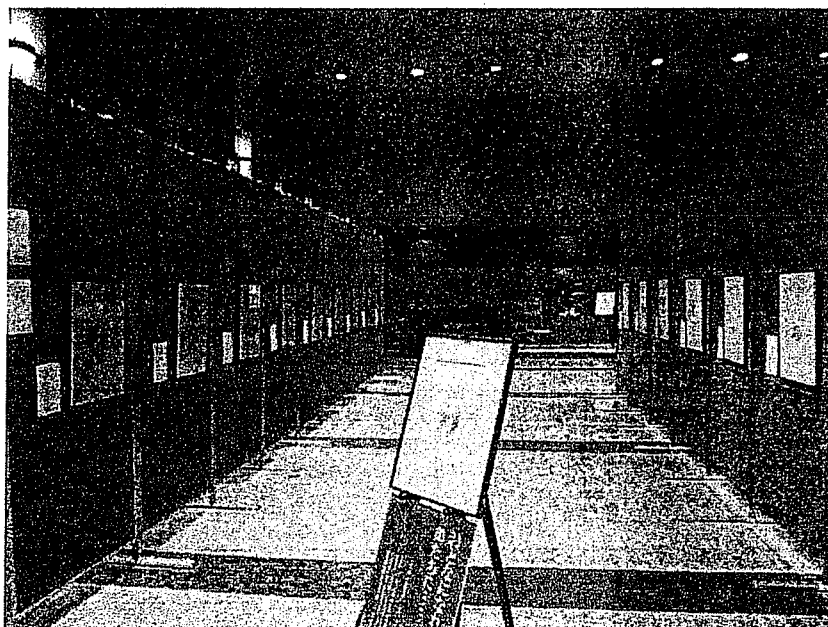
高校生以下 20 人

招待券 44 人

その他 4 人

合計 856 人

米倉齊加年 遺作原画展





施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	i	芸術文化を育む環境づくり
	実施計画名		事務事業名			
3	芸術文化の鑑賞機会の充実事業2	3	サンタクロース派遣事業			

事業概要	フィンランドから本場のサンタクロースが山口県を訪れている状況下において、市内の子どもたちに本場のサンタクロースに接してもらい、交流し異国文化を感じる環境をつくる。 訪問日 平成27年12月13日(日)		対象	市内の子どもたち
			手段	市内保育園・幼稚園や養護施設などを訪問する。
			意図	本場のサンタクロースに接することで異国文化を感じさせる。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	9,000	9,000
	需用費	5,000	4,617
	委託料(公演業務)	200,000	132,536
合計		214,000	146,153

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	214,000	146,153
合計		214,000	146,153

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.1	576,850

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	訪問日数			1日	良い	
				1日		
				100.0%		
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	当事業は芸術文化を育む環境づくりに寄与するものであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	山口県とのコネクションが必要。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	市内の子どもたちである。
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	芸術文化の振興に貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	対象者と事業目的から受益者負担を求めることは馴染まない。
	コスト効率	適正である	山口県での他のイベントと日程を合わせることで、低予算で招致ができ適正である。



課題	
今後の方向性	事業の終了
	改善時期

特記事項	
------	--

平成 27 年度山陽小野田市主催文化事業

## サンタクロース派遣事業 「サンタが街にやってくる！」実施報告

◆開催趣旨／フィンランドから本家のサンタクロースが山口市を訪れている状況下において、市内においても本家のサンタと子どもたちがふれあい交流する機会を設けることで、子ども達に夢を与え、情緒豊かな人間性を養うとともに、異国文化を肌で感じる機会を提供する。

◆日時・場所／平成 27 年 12 月 13 日(日)

①16:00～16:30 中央図書館 1 階ロビー付近

②17:30～18:00 厚狭駅在来線口 (イルミネーション前)

◆主 催／山陽小野田市

◆協 力／山陽小野田市教育委員会、FMサンサンきらら、厚狭駅前イルミネーションプロジェクト実行委員会、みつやトロアメゾン、(有)エフェクト、JR厚狭駅

◆内 容／①中央図書館

- ・高泊ハンドベルクラブの演奏、めぐみ幼稚園の歌唱
- ・サンタクロースへの手紙朗読 有帆小・小野田小各 1 名
- ・サンタからのメッセージ
- ・サンタとの交流、集合写真撮影

②厚狭駅在来線口

- ・山陽小野田少年少女合唱団の演奏
- ・サンタからのメッセージ
- ・サンタとの交流、集合写真撮影

◆参加者数／市内外の子どもたち、一般

①中央図書館 約 300 名

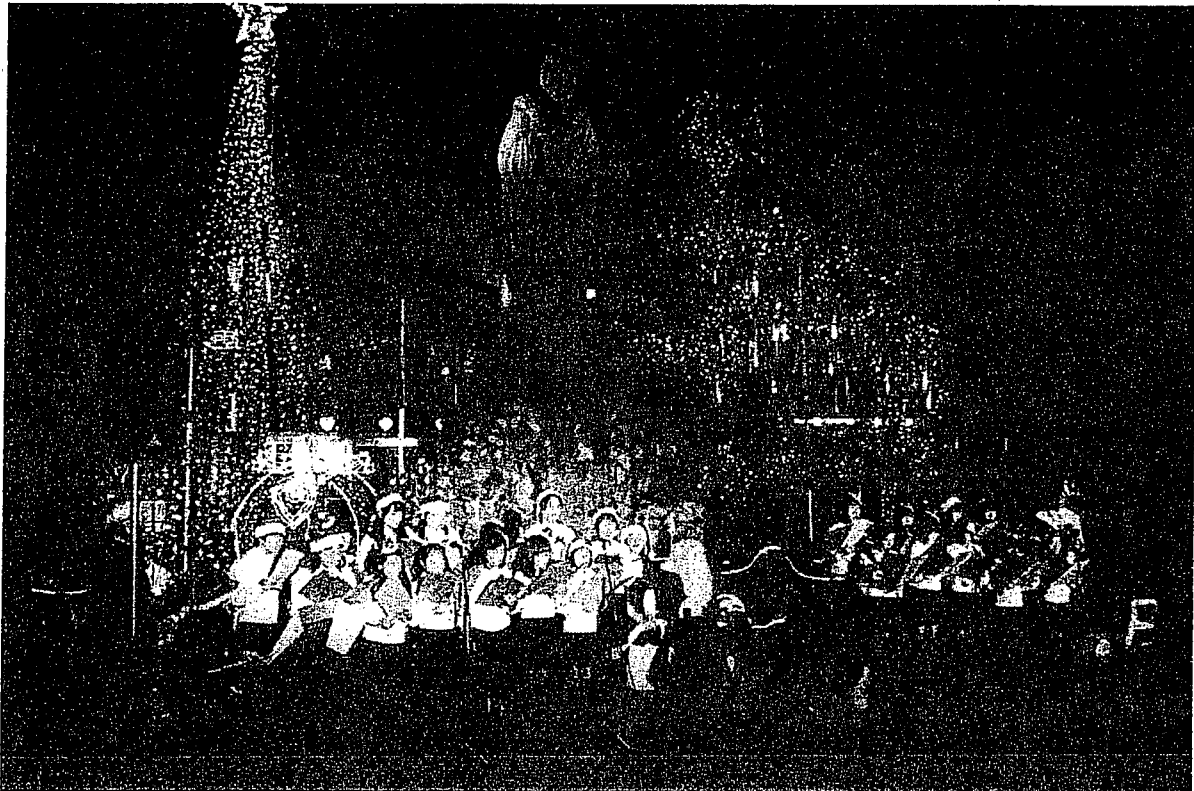
②厚狭駅在来線口 約 360 名

サンタクロース派遣事業 「サンタが街にやってくる！」

(中央図書館)



(厚狭駅在来線口)



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
	実施計画名			事務事業名		
3	芸術文化の鑑賞機会の充実事業2		1	NHK公開番組(市誕生10周年記念事業)		

事業概要	市誕生10周年を記念し、NHKの公開番組(H27年度はNHKのど自慢)を文化会館で行う。協定書を締結し、市でPRや観覧者の募集等の業務を行い、NHKは出場者の募集、番組の制作等を行う。予選会 平成27年11月21日(土)、決勝[全国生放送] 平成27年11月22日(日)		対象	市民ほか	
			手段	NHKのど自慢大会の公開番組	
			意図	芸術文化を育む環境づくり及び当市の全国PR	

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費(印刷製本)	31,000	30,240
	委託料(舞台業務)	230,000	189,000
	委託料(実行委員)	13,000	13,000
	合計	274,000	232,240

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	基金	260,000	232,240
	一般財源		14,000	
合計		274,000	232,240	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.45	2,595,823

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標	※上段:目標		中段:実績		下段:達成率	
	H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)	
1 公演回数			1回	1回	100.0%	
2				かなり良い		
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	当事業は芸術文化を育む環境づくりに寄与するものであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	新市誕生10周年記念行事として開催する。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	全市民を対象としている。
有効性	目標達成度	達成している	満席となった。
	類似事業の存在	存在しない	唯一無二の番組である。
	上位施策への貢献度	貢献している	芸術文化の振興に貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	NHK山口放送局との共同主催であり、適正である。
	受益者負担の適正化	適正である	受益者負担は馴染まない。
	コスト効率	適正である	公演制作費はNHK山口放送局負担である。



課題	
今後の方向性	事業の終了 <span style="float: right;">改善時期</span>

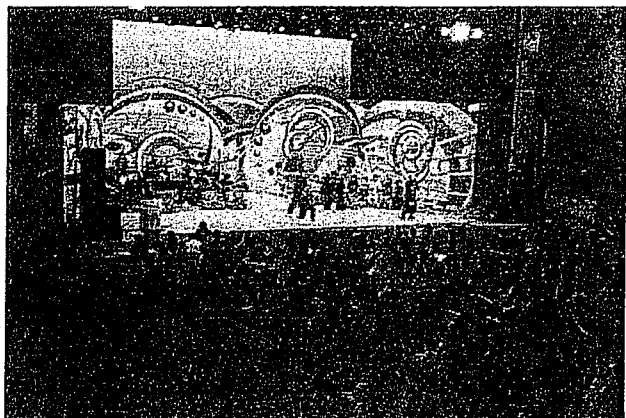
特記事項	
------	--

山陽小野田市誕生10周年記念市主催事業に係る報告書

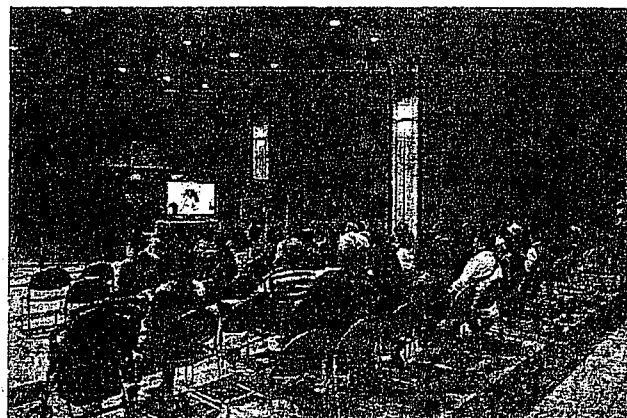
事業所管課〔 成長戦略室文化会館 〕

1	事業名	NHK公開番組「NHKのど自慢」
2	市誕生10周年の趣旨	①一体感の醸成 ②躍動感あふれるまちづくり ③知名度アップ ④10年の軌跡をたどる
3	事業の目的	市民に質の高い芸術文化に接する機会を提供するとともに、山陽小野田市を全国に発信していく。また、市誕生10周年として市民の一体感の醸成を図る。
4	(1) 内容	不二輸送機ホール大ホールにてNHK公開番組「NHKのど自慢」を実施した。
	(2) 実施体制 (共催・後援・協力団体など)	主催：NHK山口放送局、山陽小野田市
5	(1) 予算額	総事業費 274,000円 需用費 31,000円 (消耗品費) 委託料 243,000円 (舞台等管理委託料)
	(2) 決算額	総事業費 232,240円 需用費 30,240円 (印刷製本費) 委託料 202,000円 (舞台等管理委託料ほか)
6	実施状況	(1) 日時・場所 日時：平成27年11月22日(日) 開場11:00 開演11:45 場所：不二輸送機ホール (2) 対象者・参加人数 司会者：1名 ゲスト：2名 出場者：29名 観覧者：601名 (3) 具体的な内容・状況 不二輸送機ホールにて平成27年11月21日(土)に250組による予選会を行い、選出された20組が平成27年11月22日(日)に公開番組「NHKのど自慢」へ出場。ゲストは細川たかしさん、森昌子さん、司会は小田切千アナウンサー。番組はNHK総合テレビ・ラジオ第1・国際放送で同日12:15～13:00に生放送された。また、予選会の模様は平成27年12月7日(月)0:55からNHK総合テレビで山口県内向けに放送された。 (4) 成果・効果 出場の申込は833通、観覧の申込は3013通の応募があり、市外、県外からの応募も数多く見られた。市誕生10周年を祝うための気運を高揚させ、市民の一体感を醸成するとともに、山陽小野田市を全国に発信することができた。
7	その他(今後の取組など)	今後も芸術文化鑑賞機会の充実による文化の向上や市民の一体感の醸成を図る。

# NHKのど自慢



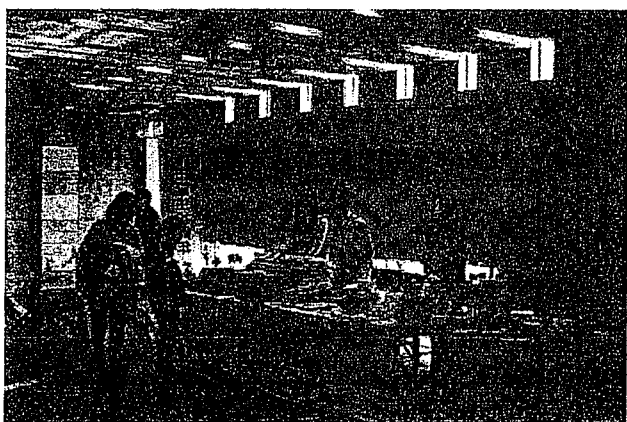
〈予選会会場の様子〉



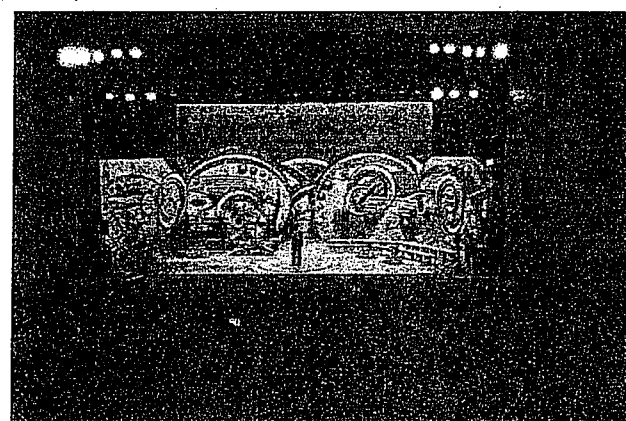
〈小ホールで観覧〉



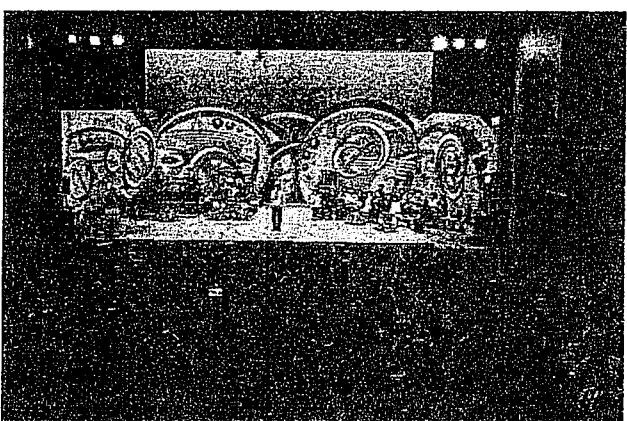
〈ロビーに設置されたモニター〉



〈ロビーでの物販〉



〈開始前にあいさつする市長〉



〈本選の様子〉

平成27年度 事務事業評価シート 課・局・室・所(係) 文化振興課 No 12

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
	実施計画名			事務事業名		
3	芸術文化の鑑賞機会の充実事業1		6	セルゲイ・ナカリャコフ リサイタル(市誕生10周年記念市主催事業)		

事業概要	新市誕生10周年を記念して、市の一体感の醸成を図るため、一流アーティストによる華やかな演奏会を開催する。また、第6回現代ガラス展のオープニングイベントとして関連イベントを開催し連携を図る。開催日 平成27年7月5日(日) 演奏 セルゲイ・ナカリャコフ(トランペット)		対象	市民ほか
			手段	セルゲイ・ナカリャコフを迎えてのリサイタル
			意図	市民に質の高い生の音楽を鑑賞する機会を提供する。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	41,000	40,027
	需用費	60,000	48,372
	役務費	195,000	186,348
	委託料(公演、音響等)	3,245,000	3,180,800
	使用料及び賃借料	20,000	8,056
合計		3,561,000	3,463,603

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	入場料、基金、助成金等	3,520,000	2,907,500
	一般財源		41,000	556,103
合計		3,561,000	3,463,603	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.2	1,153,699

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	公演回数			1回 1回 100.0%	良い	
2	満足度(アンケート調査による)			80% 89% 111.50%		
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	当事業は芸術文化を育む環境づくりに寄与するものであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	新市誕生10周年記念行事として開催する。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	全市民を対象としている。
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	音楽公演としては存在するが、市制10周年事業としては存在しない。
	上位施策への貢献度	貢献している	芸術文化の振興に貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	入場料を設定している。
	コスト効率	適正である	



課題	
今後の方向性	事業の終了 改善時期

特記事項	
------	--

平成 27 年度山陽小野田市主催文化事業／山陽小野田市誕生 10 周年記念 市主催事業

## セルゲイ・ナカリャコフ リサイタル 実施報告書

### ◆開催趣旨

平成 27 年に山陽小野田市誕生 10 周年を迎える。これを華々しく祝うため、華やかな雰囲気クラシックコンサートを開催し、市の一体感の醸成を図るとともに芸術文化鑑賞機会の充実による文化の浸透と向上を図る。

また、第 6 回現代ガラス展のオープニングイベントとして関連イベントを開催するなど連携を図る。

### ◆事業内容

セルゲイ・ナカリャコフによるリサイタル

【演奏】トランペット&フリューゲルホルン：セルゲイ・ナカリャコフ  
ピアノ：ヴェラ・アホトニコワ

◆主催 山陽小野田市

◆共催 山陽小野田市文化協会

◆後援 tys テレビ山口・宇部日報社・FMサンサンきらら・小野田音楽連盟・山口県吹奏楽連盟・厚狭地区吹奏楽連盟

◆助成 芸術文化振興基金助成金

◆開催日時 平成 27 年 7 月 5 日(日) 開場 14:30 開演 15:00

◆入場料 S 席(指定席) 3,000 円

A 席(自由席) 一般 2,000 円、高校生以下 1,000 円

※当日は 500 円増し(高校生以下を除く) ※未就学児の入場不可

◆プレイガイド【山陽小野田市】文化会館・市民館・協働推進課・仮設山陽総合事務所・きらら交流館・おのだサンパーク・イトオ楽器店

【宇部市】宇部井筒屋・フジグラン宇部

◆当日入場者 S 席(指定席) 248 人

A 席(自由席) 128 人

A 席(高校生以下) 68 人

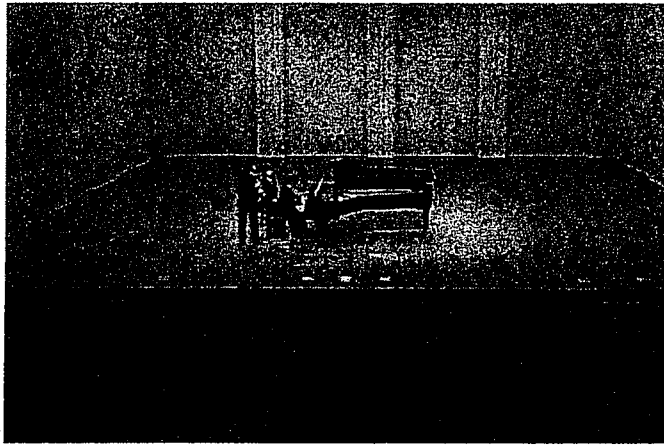
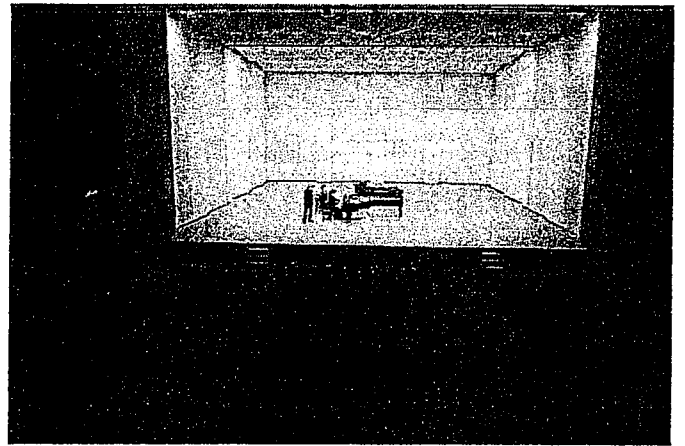
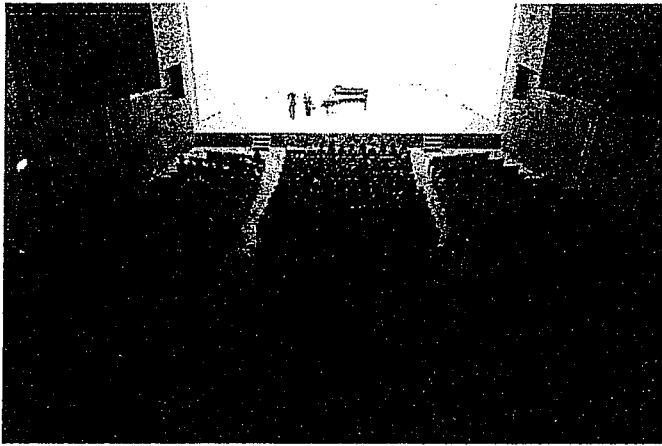
招待券 3 人

合計 447 人



# セルゲイ・ナカリャコフリサイタル

(公演)



(ロビーコンサート)



(交流会)



施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	16 多彩な芸術文化とスポーツの振興	2 芸術文化の振興	1 芸術文化を育む環境づくり
	実施計画名		事務事業名
	きららガラス未来館整備事業	きららガラス未来館維持整備事業	

事業概要	当館は、開館後10年が経過し、施設等に修繕が必要になっている。特に建物の外壁、溶解炉については、劣化が激しくなっており、計画的に修繕を実施する。	対象	きららガラス未来館
		手段	計画的な修繕
		意図	施設の維持管理

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	修繕料	1,597,000	1,508,220
	合計	1,597,000	1,508,220

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他	交付金	1,200,000
	一般財源	397,000	358,020
	合計	1,597,000	1,508,220

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.05	288,425

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25		H26		H27		目標達成度	H28(目標)
1	修繕箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	良い	1箇所
		1箇所	1箇所						
2									
3									

妥当性	目的の妥当性	妥当である	施設の維持、美化につながり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	指定管理者が運営しているが、費用が多額のため、自治体の関与が欠かせない。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	維持管理は市として負担すべきであり、適正である。
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	芸術文化の振興に寄与する。
効率性	実施主体の適正化	適正である	公共施設は市が維持管理すべきであり、適正である。
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	施設の維持管理に必要な費用であり、適正である。

課題	ガラス溶解炉の大規模修繕は構造上に不可能なため、小規模修繕により延命化を図る。炉の更新はH32年度以降を計画しているが、毎年1月に実施している定期検査の結果次第では、更新時期が早まる可能性もある。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--

# きららガラス未来館 修繕計画

修繕箇所	修繕内容	修繕額	修繕計画				
			H27	H28	H29	H30	H31
外壁修繕	外壁が経年劣化により、亀裂が生じている。	3,311,000円	東面(正面) 1,151,000円 (落札額1,150,200円)	北面(側面) 1,080,000円	南面(側面) 1,080,000円		
溶解炉修繕	耐用年数を超えて使用している。大規模修繕は構造上不可能なので小規模修繕をして寿命がくるまで使用する。炉の更新についてはH32年度以降に計画しているが、毎年1月に実施している年に1度の定期検査で更新時期が早くなる可能性もある。		小規模修繕 446,000円 (溶解炉補修358,020円)	小規模修繕 500,000円	小規模修繕 500,000円	小規模修繕 500,000円	小規模修繕 500,000円
その他			LPガス室の扉 扉が腐食して鍵が掛 からない状況である		湯沸かし器 設置後10年が 経過し、常時水 漏れが生じてい る		

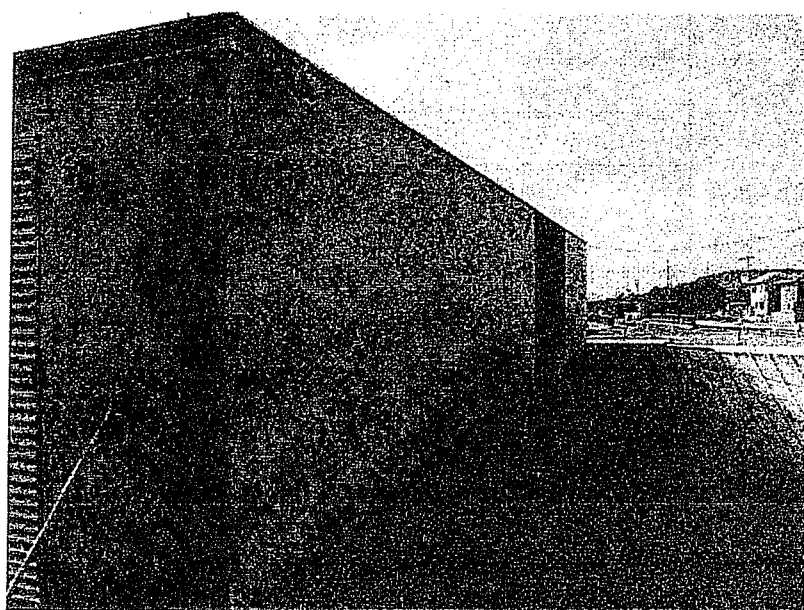
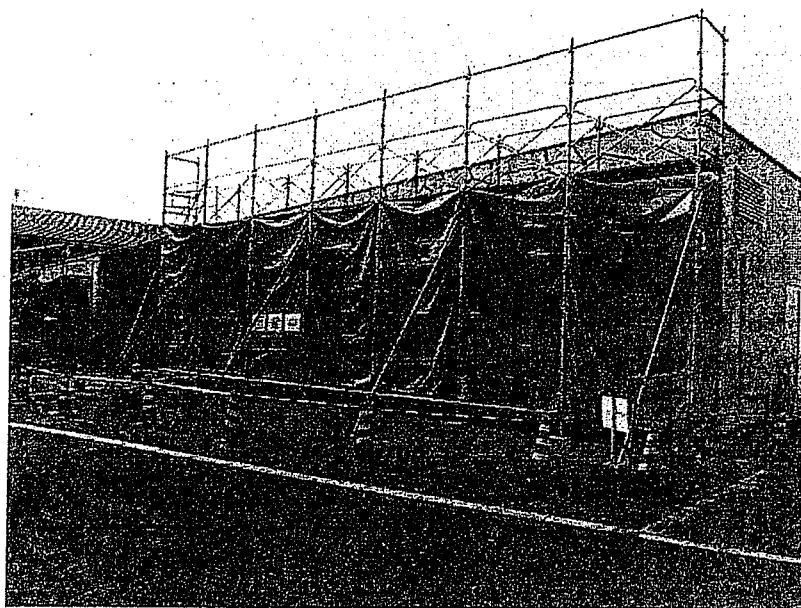
☆金額は税込

☆ガラス溶解炉については、平成25年度2回、経年劣化による部品交換を行った。(工事費：160,650円、522,953円)

☆ガラス溶解炉の耐用年数は概ね7年程度であるとのこと。平成16年に開館したガラス未来館の炉は、すでに耐用年数を超えているが不測の事態を除いて平成31年度までの通常の運転に問題はないと考えるので平成31年度までは劣化部品等の交換等の小規模修繕を実施する。

☆外壁塗装については、平成25年度に公益事業会計で海側の壁の高圧洗浄、防カビ塗装を実施(工事費：966,000円)

平成27年度 きららガラス未来館外壁修繕工事



施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	3 スポーツ・レクリエーションの振興	3 スポーツによるまちづくりの推進
	実施計画名	事務事業名	
	スポーツによるまちづくり推進事業	レノファ山口とのパートナーシップ事業	

事業概要	山口県唯一のプロスポーツチームであるレノファ山口を活用して、スポーツによるまちづくりと市民の一体感を醸成するため、選手・監督に保育園や社会福祉施設への訪問などを行ってもらう。	対象	市民
		手段	市民(保育園、社会福祉施設、学校他)を対象にしたスポーツ交流事業
		意図	スポーツによるまちづくりの推進

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	スポーツ教室事業委託料	360,000	360,000
合計		360,000	360,000

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	360,000	360,000
合計		360,000	360,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.05	288,425

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	交流行事の実施回数		5回	9回	普通	12回
			6回	8回		
			120.00%	88.9%		
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である
	自治体関与の妥当性	妥当である
	対象(受益者)の妥当性	妥当である
有効性	目標達成度	概ね達成している
	類似事業の存在	存在しない
	上位施策への貢献度	貢献している
効率性	実施主体の適正化	適正である
	受益者負担の適正化	適正である
	コスト効率	適正である



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	
------	--

レノファ山口とのパートナーシップ事業実績

●平成27年度(委託料36万円)

	日時	場所	内容	参加者数
1	6月24日	県立おのだサッカー交流公園	ガラス作品制作	0
2	7月8日	県立おのだサッカー交流公園	特別見学会	100
3	7月22日	サンパーク	ガラス作品披露・トークショー	200
4	12月8日	日の出保育園(56)	園児と交流	56
5	12月10日	厚陽保育園(18)、津布田保育園(15)	園児と交流	33
6	12月15日	下津保育園(25)、出合保育園(32)	園児と交流	57
7	3月5日	山陽オートレース場	レノファとあそぼう	30
8	3月29日	県立おのだサッカー交流公園	特別見学会	100
				576

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	3	スポーツ・レクリエーションの振興	3	スポーツによるまちづくりの推進
	実施計画名			事務事業名		
	ふれあいスポーツ推進事業		ふれあいスポーツ推進事業(高校サッカーフェスティバル開催事業)			

事業概要	小野田工業高校の全国大会出場を記念して昭和57年3月に第1回大会を開催。第1回～第9回は小野田工業高校の主催で開催。平成2年、小野田市制50周年記念事業として第10回大会を体育協会主催、市共催で開催し、以降毎年開催。現在市の「スポーツによるまちづくり推進計画」、及び戦略プロジェクト「スポーツまちづくりプロジェクト」で重要な事業として位置づけており、平成27年度で35回を迎えた歴史ある大会である。	対象	京都以西の高校サッカー部
		手段	市内11会場(民間施設を含む)で4日間交流試合を開催する
		意図	サッカーを通じてスポーツによるまちづくりの推進を図る

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	消耗品費	867,780	867,780
	印刷製本費	252,720	252,720
	負担金、補助及び交付金	1,183,000	949,996
合計		2,303,500	2,070,496

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	2,303,500	2,070,496
合計		2,303,500	2,070,496

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.45	1,382,839

交付税算入	無	会計種別	一般	経常
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)	
1 参加校数		50校	55校	55校	良い	55校	
		55校	52校	54校			
		110.00%	94.54%	98.2%			
2 参加者数		1000人	1900人	1900人	良い	1900人	
		1875人	1868人	1904人			
		187.50%	98.31%	100.21%			
3							

妥当性	目的の妥当性	妥当である
	自治体関与の妥当性	妥当である
	対象(受益者)の妥当性	妥当である
有効性	目標達成度	達成している
	類似事業の存在	存在しない
	上位施策への貢献度	貢献している
効率性	実施主体の適正化	適正である
	受益者負担の適正化	適正である
	コスト効率	適正である



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	
------	--

第35回山陽小野田市高校サッカーフェスティバル参加校一覧(県外)

No.	学 校 名	学 校 所 在 地
1	久御山高等学校	京都府久世郡久御山町林
2	京都学園高等学校	京都市右京区花園寺ノ中町8
3	東大阪大学柏原高等学校	大阪府柏原市本郷5-993
4	興國高等学校	大阪市天王寺区寺田町1-4-26
5	三田学園高等学校	兵庫県三田市南が丘2-13-65
6	益田翔陽高等学校	島根県益田市高津3-21-1
7	益田東高等学校	島根県益田市染羽町1-24
8	岡山龍谷高等学校	岡山県笠岡市笠岡874
9	山陽高等学校	広島市西区観音新町4-12-5
10	舟入高等学校	広島市中区舟入南1-4-4
11	広島工業大学高等学校	広島市西区井口5-34-1
12	広島井口高等学校	広島市西区井口明神2-11-1
13	広陵高等学校	広島市安佐南区伴東3-14-1
14	美鈴が丘高等学校	広島市佐伯区美鈴が丘緑2-13-1
15	高陽東高等学校	広島市安佐北区落合南8-12-1
16	広島観音高等学校	広島市西区南観音町4-10
17	呉港高等学校	広島県呉市広大新開3-3-4
18	坂出商業高等学校	香川県坂出市青葉町1-13
19	高松西高等学校	香川県高松市鬼無町山口257-1
20	志度高等学校	香川県さぬき市志度366-5
21	高知高等学校	高知県高知市北端町100
22	高知小津高等学校	高知県高知市城北町1-14
23	三猪高等学校	福岡県久留米市城島町城島59-1
24	九州産業大学付属九州高等学校	福岡市東区香椎駅東2-22-1
25	豊国学園高等学校	北九州市門司区柳町4-5-1
26	東福岡高等学校	福岡市博多区東比恵2-24-1
27	久留米高等学校	福岡県久留米市西町482
28	柳川高等学校	福岡県柳川市本城町125
29	佐賀学園高等学校	佐賀県佐賀市駅前中央2-9-10
30	諫早商業高等学校	長崎県諫早市宇都町8-26
31	長崎総合科学大学附属高等学校	長崎県長崎市宿町3-1
32	長崎南山高等学校	長崎県長崎市上野町25-1
33	島原商業高等学校	長崎県島原市城内1-1231
34	熊本国府高等学校	熊本市中央区国府2-15-1
35	大分工業高等学校	大分県大分市芳河原台12-1
36	大分鶴崎高等学校	大分県大分市南鶴崎3-5-1
37	神村学園高等部	鹿児島県いちき串木野市別府4460



第35回山陽小野田市高校サッカーフェスティバル参加校一覧(県内)

No.	学 校 名	学 校 所 在 地
38	岩国高等学校	岩国市川西4-6-1
39	徳山高等学校	周南市鐘楼町2-50
40	聖光高等学校	光市光井9-22-1
41	宇部高等学校	宇部市寺の前町3-1
42	宇部中央高等学校	宇部市東梶返4-10-30
43	宇部工業高等学校	宇部市北琴芝1-1-1
44	慶進高等学校	宇部市西琴芝2-12-18
45	宇部フロンティア大学付属香川高等学校	宇部市文京町1-25
46	宇部鴻城高等学校	宇部市大字際波の場370
47	豊浦高等学校	下関市長府宮崎町1-1
48	下関西高等学校	下関市後田町4-10-1
49	豊北高等学校	下関市豊北町滝部1003
50	下関工業高等学校	下関市富任町4-1-1
51	下関中央工業高等学校	下関市後田町4-25-1
52	厚狭高等学校	山陽小野田市大字厚狭東の原1660
53	小野田高等学校	山陽小野田市くし山1-26-1
54	小野田工業高等学校	山陽小野田市中央2-6-1

施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	16 多彩な芸術文化とスポーツの振興	3 スポーツ・レクリエーションの振興	3 スポーツによるまちづくりの推進
	実施計画名		事務事業名
	ふれあいスポーツ推進事業	ふれあいスポーツ推進事業(少年サッカーフェスティバル)	

事業概要	平成23年度開催の山口国体の翌年度から始まった県補助事業「我がまちスポーツ推進事業」の後継事業「地域スポーツ人口拡大推進事業」を活用して、本市と下関市で小学生を対象としたサッカーフェスティバルを開催し、広域的な交流を図る。	対象	市内チーム及び県内外チーム(小学生)
		手段	本市と下関市の共同開催で3日間の試合を行い、1~48位を決定する
		意図	参加チームの交流により、スポーツによるまちづくりの推進を図る

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	359,491	359,491
	テント等設営委託料	298,684	298,684
	使用料及び賃借料	130,000	105,220
	報償費	62,000	62,000
	その他	302,370	2,370
合計		1,152,545	827,765

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金	1/2	516,000	
	地方債			
	その他	参加費	120,000	100,000
	一般財源		516,545	364,765
合計		1,152,545	827,765	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.2	749,371

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1 参加チーム数		24チーム	24チーム	48チーム	普通	48チーム
		24チーム	24チーム	40チーム		
		100.00%	100.00%	83.3%		
2 参加者数		480人	480人	1230人	普通	1230人
		447人	426人	721人		
		96.04%	93.13%	58.61%		
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である
	自治体関与の妥当性	妥当である
	対象(受益者)の妥当性	妥当である
有効性	目標達成度	達成している
	類似事業の存在	存在しない
	上位施策への貢献度	貢献している
効率性	実施主体の適正化	適正である
	受益者負担の適正化	適正である
	コスト効率	適正である



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	
------	--

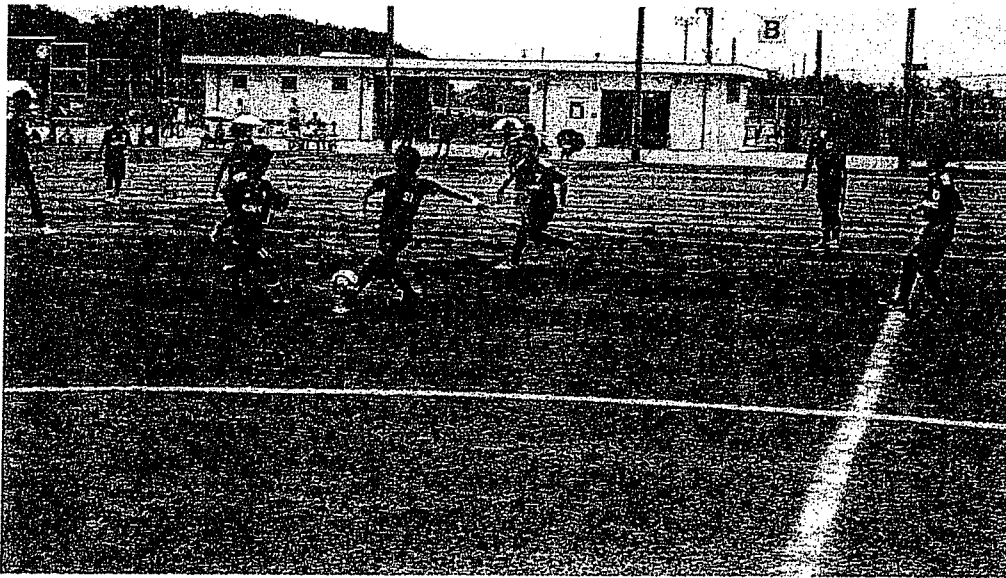
第1回山陽小野田市・下関市 少年サッカー大会 参加チーム一覧

地区	No	チ ャ ム 名	選手	引率	合計
下関	1	FC木屋川レッドスター	16	9	25
	2	セイザンFC U-12	16	3	19
	3	セイザンFC ドリーム	16	2	18
	4	川中西サッカー	14	3	17
	5	彦島 ALL	13	3	16
	6	小月サッカー	16	15	31
	7	安岡FC	13	5	18
	8	一の宮サッカー	15	5	20
	9	豊洋JSC	8	3	11
	10	吉見サッカー	16	6	22
	11	熊野FC	16	4	20
	12	ルーチェフットボールクラブ	17	3	20
	13	FC亀山 A	12	2	14
	14	FC亀山 B	10	2	12
	15	下関EASTサッカースクール	16	2	18
山陽小野田	16	クレフィオ山口FC	16	3	19
	17	山陽JFC	13	2	15
	18	有高FC	11	2	13
	19	竜王FC	16	3	19
	20	厚陽サッカースポーツ少年団	15	3	18
	21	FCケーターなでしこ	11	3	14
	22	高千帆サッカースポーツ少年団	16	3	19
	23	須恵フットボールクラブ	16	3	19
宇部	24	川上フットボールクラブドリームス	11	3	14
	25	川上フットボールクラブエフオーツ	9	3	12
	26	西岐波少年サッカークラブ	16	3	19
	27	常盤サッカースポーツ少年団	18	15	33
	28	神原サッカースポーツ少年団	14	3	17
	29	上宇部サッカースポーツ少年団	19	2	21
	30	藤山サッカースポーツ少年団	16	2	18
防府	31	華城フットボールクラブ	10	2	12
山口	32	湯上サッカースポーツ少年団	16	3	19
	33	レノファ山口FC U-11	16	3	19
岩国	34	和木スポーツ少年団サッカー一部	14	3	17
福岡	35	サイレンドベアーズ カーン	14	3	17
	36	サイレンドベアーズ キリーク	11		11
	37	藤松サッカークラブ	16	3	19
	38	大川レオーネ	16	3	19
韓国	39	梁山初等学校A	11	9	20
	40	梁山初等学校B	11	9	20
合 計			566	158	724

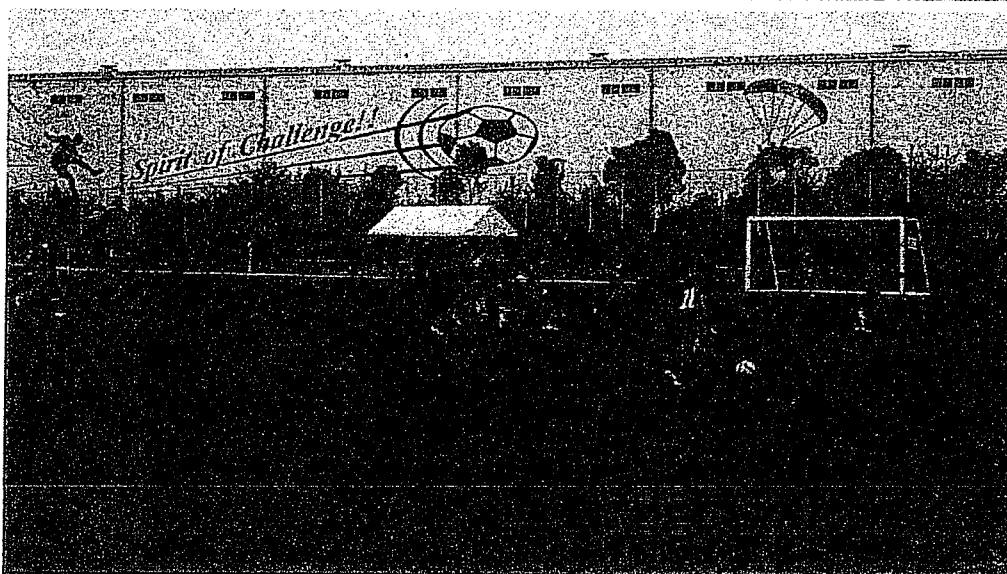
開会式

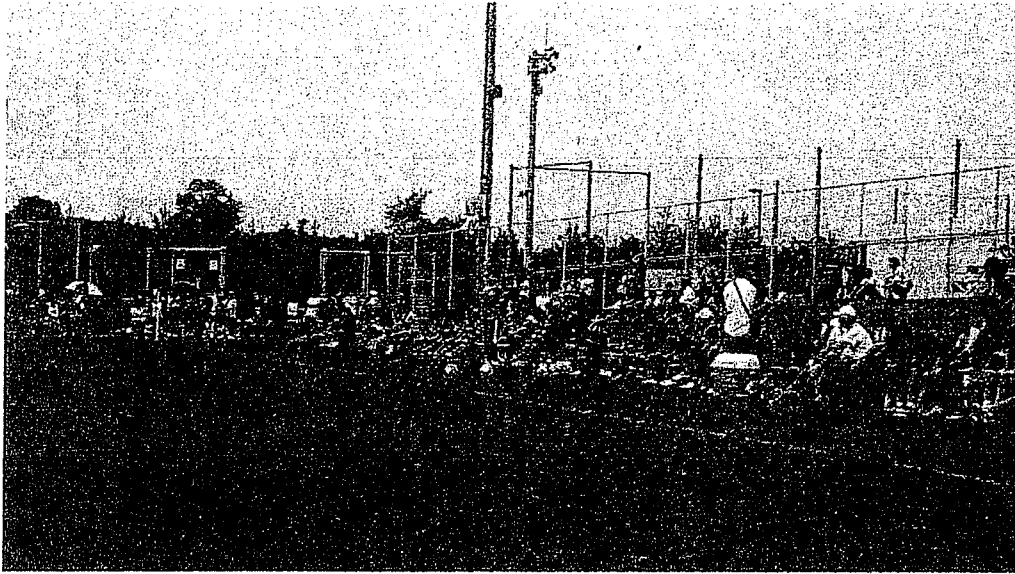


試合



試合





観戦



優勝  
胴上げ



レノファサッカー  
教室

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	3	スポーツ・レクリエーションの振興	3	スポーツによるまちづくりの推進
	実施計画名			事務事業名		
ふれあいスポーツ推進事業			ふれあいスポーツ推進事業(市民ふれあいスポーツ大会)			

事業概要	合併前から山陽地区体育振興協議会を中心として、毎年10月に青年の家を主会場にソフトボール、ソフトバレーボール、トリムバレーボール、グラウンドゴルフ、ペタンクの5競技を開催していた大会を全市的な大会と位置づけ、市民ふれあいスポーツ大会実行委員会へ委託して開催する。チーム編成は、校区または自治会単位。	対象	市民
		手段	ソフトボール、ソフトバレーボール、トリムバレーボール、グラウンドゴルフ、ペタンクの5競技を開催
		意図	スポーツによるまちづくりの推進

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	報酬	150,000	68,000
	保険料	9,096	9,096
	市民ふれあいスポーツ大会委託料	93,420	93,420
	合計	252,516	170,516

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
一般財源	252,516	170,516	
合計	252,516	170,516	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	921,893

交付税算入	無	会計種別	一般	經常
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1 競技数		5競技	5競技	5競技	普通	5競技
		5競技	中止	5競技		
		100.00%		100.0%		
2 参加者数		300人	350人	350人	普通	350人
		328人	中止	342人		
		109.33%		97.71%		
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である
	自治体関与の妥当性	妥当である
	対象(受益者)の妥当性	妥当である
有効性	目標達成度	達成している
	類似事業の存在	存在しない
	上位施策への貢献度	貢献している
効率性	実施主体の適正化	適正である
	受益者負担の適正化	適正である
	コスト効率	適正である



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	16 多彩な芸術文化とスポーツの振興	3 スポーツ・レクリエーションの振興	3 スポーツによるまちづくりの推進
	実施計画名		事務事業名
	ふれあいスポーツ推進事業	ふれあいスポーツ推進事業(市民マラソン大会)	

事業概要	合併前から山陽地区体育振興協議会を中心として、毎年1月に厚陽地区で実施されていた大会を全市的な大会として位置づけ、市民マラソン大会実行委員会へ委託して開催している。平成27年度は荒天により中止。	対象	市民他
		手段	マラソン大会を1.5km親子ペア、3km、5km、10kmの種目に分けて開催
		意図	スポーツによるまちづくりの推進

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報酬	150,000	54,000
	消耗品費	6,357	6,357
	保険料	1,000	1,000
	市民マラソン大会委託料	97,758	80,134
合計		255,115	141,491

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	255,115	141,491
合計		255,115	141,491

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.1	576,850

交付税算入	無	会計種別	一般	経常
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)	
1 種目数		4種目	4種目	4種目		4種目	
		4種目	4種目	中止			
		100.00%	100.00%				
2 参加者数		500人	500人	500人		500人	
		488人	387人	中止			
		97.60%	77.40%				
3							

妥当性	目的の妥当性	妥当である	
	自治体関与の妥当性	妥当である	
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度		荒天により中止
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	
------	--

平成27年度市民マラソン大会 種目別申込数

種目	種別	組数	人数
3km	小学生男子		51人
	小学生女子		46人
	中学生女子		10人
	高校生女子		1人
	一般男子		40人
	一般女子		5人
5km	中学生男子		21人
	高校生男子		4人
	一般男子		39人
	一般女子		4人
10km	一般男子		76人
	一般女子		12人
1.5km	親子ペア	107	214人
合計			523人



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	3	スポーツ・レクリエーションの振興	3	スポーツによるまちづくりの推進
	実施計画名			事務事業名		
	スポーツによるまちづくり推進事業		JFAこころのプロジェクト「夢の教室」事業(市誕生10周年市主催事業)			

事業概要	日本サッカー協会では、地方自治体と協力して「JFAこころのプロジェクト」を実施している。この事業は、サッカーをはじめ他の競技の現役選手やOB/OGを夢先生として中学校に派遣し、「夢の教室」と呼ばれる授業を行い、夢を持つことのすばらしさやあきらめずに夢に向かって努力することの大切さなどが話され、生徒に夢の実現に向かっていこうとする気持ちを育てることを目的としている。		対象	市内全中学校(6校)の2年生	
			手段	「夢の教室」の開催	
			意図	プロスポーツ選手に触れ合う機会を設けることにより、夢を持つことの大切さを知る	

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	夢の教室事業委託料	3,083,000	3,083,000
合計		3,083,000	3,083,000

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	魅力基金	3,083,000	3,083,000
	一般財源			
合計		3,083,000	3,083,000	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	1,730,549

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	「夢の教室」で講師をする夢先生の人数			4人	かなり良い	4人
				10人		
				250.0%		
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	スポーツ振興や子どもの教育の充実に寄与する
	自治体関与の妥当性	妥当である	日本サッカー協会と地方自治体が協力して実施する事業であり、妥当である
	対象(受益者)の妥当性	概ね妥当である	継続的に実施することにより、児童生徒が参加する機会を増やす
有効性	目標達成度	達成している	市内6中学校で実施
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	学校の授業の一環として行うため、適正である
	受益者負担の適正化	適正である	日本サッカー協会が示す実質的な経費を負担する
	コスト効率	適正である	必要最低限の経費負担であり、適正である



課題	授業を受けることができるのは、中学2年生の生徒に限られるが、「夢の教室」の授業を受けた生徒のみならず担当した先生も当該事業を評価していることから、今後も継続していく必要がある。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	平成27年度の事業実施後、中学校の校長、先生にアンケートを行った結果、「悪かった」と回答した人はおらず、「とても良かった」「良かった」と回答した人が95%であった。
------	--

JFAこころのプロジェクト「夢の教室」事業(市誕生10周年市主催事業)

○市内全中学校の2年生を対象に実施

○夢先生 10人

月 日	時限	学校名	学年	夢先生
6月12日 (金)	5・6	厚陽中学校	2	片岡安祐美 (茨城ゴールデンゴールズ監督)
6月29日 (月)	3・4	高千帆中学校	2	大山加奈 (元バレーボール選手)
	5・6	高千帆中学校	2	
6月30日 (火)	3・4	高千帆中学校	2	戸田和幸 (元サッカー選手)
	5・6	高千帆中学校	2	
7月1日 (水)	3・4	高千帆中学校	2	永田克彦 (元レスリング選手)
	5・6	高千帆中学校	2	
7月2日 (木)	3・4	小野田中学校	2	富平辰文 (元プロキックボクサー)
	5・6	小野田中学校	2	
7月3日 (金)	3・4	小野田中学校	2	前田治 (元サッカー選手)
	5・6	小野田中学校	2	
7月7日 (火)	3・4	竜王中学校	2	古木克明 (元プロ野球選手)
	5・6	竜王中学校	2	
7月8日 (水)	3・4	竜王中学校	2	
7月9日 (木)	3・4	埴生中学校	2	川上直子 (元サッカー選手)
	5・6	埴生中学校	2	
7月13日 (月)	3・4	厚狭中学校	2	東俊介 (元ハンドボール選手)
	5・6	厚狭中学校	2	
7月14日 (火)	3・4	厚狭中学校	2	越本隆志 (元プロボクサー)
	5・6	厚狭中学校	2	

「JFAこころのプロジェクト」は、子どもの心身の健全な成長に寄与することを目的に取り組んでいる活動で、Jリーガーやなでしこジャパン、日本代表として活躍している新旧選手が「夢先生」として小学校の教壇に立ち、「フェアプレー精神」や「夢を持つことの素晴らしさ」、「それに向かって努力することの大切さ」、「失敗や挫折に負けない心の強さ」を子どもたちに伝えています。

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	5	市民が主役の地域づくり	3	市民と行政との協働のまちづくり	1	市民参加の機会づくり
	実施計画名		事務事業名			
4	市誕生10周年記念事業	1	新市誕生10周年記念事業「実行委員会負担金」			

事業概要	○市誕生10周年の節目を迎えるに当たり、市民主体による記念事業を実施する。市民団体や公募市民から成る実行委員会に負担金を交付する。実行委員会は市誕生10周年の趣旨に沿った市民主催事業に対し補助金を交付する。		対象	市民
			手段	実行委員会に負担金を交付し、市民目らが行う市民主催事業を支援する。
			意図	市民の一体感の醸成・躍動感あふれるまちづくり・知名度アップを図る。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	負担金、補助及び交付金	1,230,000	1,230,000
合計		1,230,000	1,230,000

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	基金繰入金	1,230,000	1,230,000
	一般財源			
合計		1,230,000	1,230,000	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.1	576,850

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		※上段:目標 中段:実績 下段:達成率				
		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	進捗状況		設置・審査・実施 設置・審査・実施	実施 実施	良い	
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	一体感の醸成、躍動感あふれるまちづくり、知名度アップが主な目的であり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	市誕生10周年を記念して実施する市民主催事業に対する支援であり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	市民を対象とした事業であり妥当である。
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	市が実行委員会を通して市民主催事業の経費の一部を負担する。
	コスト効率	適正である	いずれも総合的・全市的な事業であり、コスト効率は適正である。



課題	
今後の方向性	事業の終了 改善時期

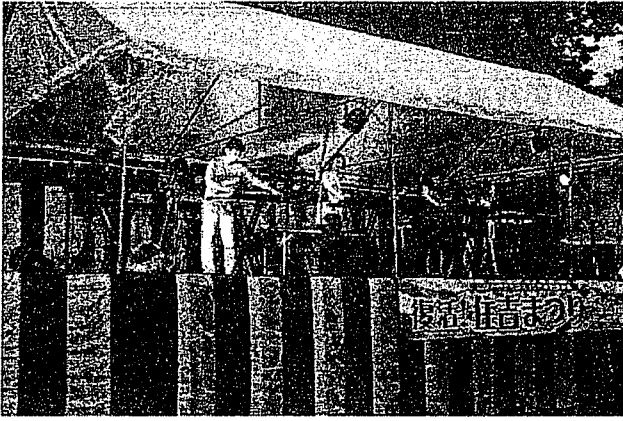
特記事項	
------	--

山陽小野田市誕生10周年記念市民主催事業 実施報告書

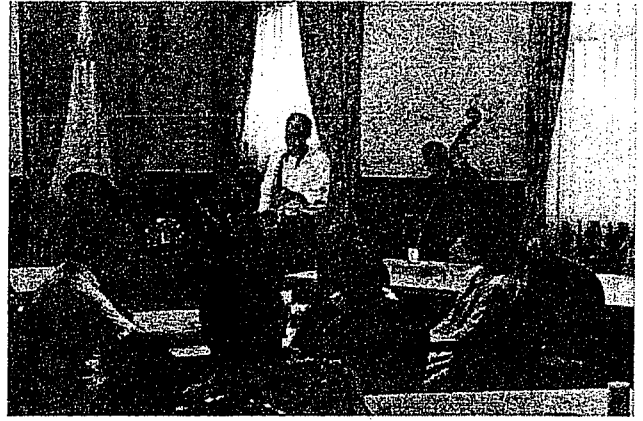
市民活動団体名 [ 住吉まつり復活委員会 ]

1	事業名	『復活！住吉まつり』																	
2	市誕生10周年の趣旨	①一体感の醸成 ③知名度アップ	②躍動感あふれるまちづくり ④10年の軌跡をたどる																
3	事業の目的	住吉まつりは、小野田セメント創設者で名誉市民第1号者である笠井順八翁がセメント会社の守護神として建立した住吉神社の祭りであり、かつて市の振興に多大な貢献があった。長らく途絶えていた祭りを復活することにより地域コミュニティの向上や次世代を担う青少年の郷土意識を育み、市の発展に寄与するとともに、郷土の誇れる伝統文化行事として末永く継承する。																	
4	事業の概要	(1) 内容	幼稚園児から大学生・一般団体による演舞・演奏等をメイン会場で開催。会場周辺沿道では郷土に縁のある偉人行列やセメント縁のセメント樽型みこし、徳利窯型みこし、竜舞等がパレード。山陽小野田の伝統芸能でもある「小野田音頭」を、複数団体にて総踊りを展開。山手倶楽部・龍遊館・いつは等でコンサート・バザー・フリマ・地元の歴史パネル展示等で楽しむ。																
		(2) 実施体制 (共催・後援・協力団体など)	主催 住吉まつり復活委員会 共催 小野田商工会議所、須恵ふるさとづくり協議会、小野田ふるさとづくり協議会、須恵地区自治会協議会、小野田地区自治会協議会、須恵地区社会福祉協議会、小野田地区社会福祉協議会 後援 山陽小野田市、山陽小野田観光協会、山陽小野田市社会福祉協議会、山口東京理科大学、宇部日報社、FMきらら、FMサンきらら																
5	事業費	(1) 予算額	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">(収入)</td> <td colspan="2">(支出)</td> </tr> <tr> <td>10周年補助金</td> <td>300,000円</td> <td>イベント費</td> <td>2,350,000円</td> </tr> <tr> <td>その他の収入</td> <td>4,244,000円</td> <td>運営費</td> <td>2,194,000円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,544,000円</td> <td>合計</td> <td>4,544,000円</td> </tr> </table>	(収入)		(支出)		10周年補助金	300,000円	イベント費	2,350,000円	その他の収入	4,244,000円	運営費	2,194,000円	合計	4,544,000円	合計	4,544,000円
		(収入)		(支出)															
10周年補助金	300,000円	イベント費	2,350,000円																
その他の収入	4,244,000円	運営費	2,194,000円																
合計	4,544,000円	合計	4,544,000円																
(2) 決算額	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">(収入)</td> <td colspan="2">(支出)</td> </tr> <tr> <td>10周年補助金</td> <td>300,000円</td> <td>イベント費</td> <td>2,649,202円</td> </tr> <tr> <td>その他の収入</td> <td>4,547,848円</td> <td>運営費</td> <td>2,198,676円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,847,878円</td> <td>合計</td> <td>4,847,878円</td> </tr> </table>	(収入)		(支出)		10周年補助金	300,000円	イベント費	2,649,202円	その他の収入	4,547,848円	運営費	2,198,676円	合計	4,847,878円	合計	4,847,878円		
(収入)		(支出)																	
10周年補助金	300,000円	イベント費	2,649,202円																
その他の収入	4,547,848円	運営費	2,198,676円																
合計	4,847,878円	合計	4,847,878円																
	うち補助対象経費		3,478,932円																
6	実施状況	<p>(1) 日時・場所 前夜祭 平成27年5月30日(土)午後5時～午後9時 本祭 平成27年5月31日(日)午前10時～午後4時 住吉神社境内・山手倶楽部・龍遊館・いつは・太平洋セメント社宅駐車場・小野田工業高校駐車場及び沿道</p> <p>(2) 対象者・参加人数 山陽小野田市内の団体を中心に38団体・750名が参加</p> <p>(3) 具体的な内容・状況 【5/30 前夜祭】 [メイン会場イベント]須恵太鼓保存会・水本論(ライブ)・あかね(大正琴)・マゴフレイブ(フラグス)・門司のバナナのたたき売り・浅野佑悠輝(ライブ)・童謡連手毬(よさこい)・仁双式心(よさこい) [竹灯籠]住吉神社参道及び山手倶楽部前庭に点灯 [バザー]メイン会場などで地元のバザー、喫茶など [山手倶楽部]飲食、喫茶コーナー、ジャズの生演奏 【5/31 本祭】 [メイン会場イベント]須恵小学校金管バンド・幼稚園児(演舞)・保育園児(太鼓)・古式行事大行司・竜王太鼓・みこし(セメント樽・徳利窯・硫酸瓶)・龍舞・小野田音頭・小野田偉人行列・小野田吹奏楽団・ジャグリング・よさこい・餅まき [パレード]小野田工業高校駐車場から本会場までの600mの間、演舞団体、大行司、保育園児、みこし、小野田偉人行列、竜舞、小野田音頭保存会が練り歩く [山手倶楽部]飲食・喫茶及びジャズの生演奏 [龍遊館]笠井順八翁パネル展・百人一首かるた模範試合・喫茶コーナー [いつは]ゲームコーナー・ジャグリング・子供遊びコーナー等 [セメント社宅駐車場]フリーマーケット・クイズラリー大会</p> <p>(4) 成果・効果 参加者に地元の歴史を理解してもらう場が提供できた。 まつりを通じて地域の方々との交流が図れた。 歴史色を前面に出すことで郷土意識を育むことができた。 今後とも地元の期待に応えるべく伝統的な祭りに育てて行く。</p>																	

復活！住吉まつり



〈前夜祭ステージ〉



〈前夜祭ジャズコンサート〉



〈セメント樽みこし〉



〈硫酸瓶みこし〉



〈華やかな本祭ステージ〉



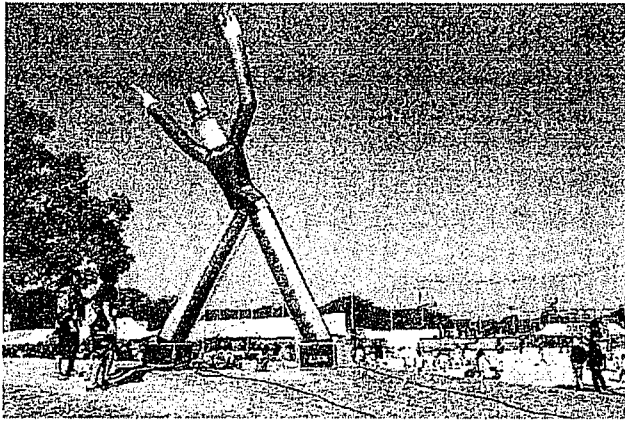
〈小野田偉人行列〉

山陽小野田市誕生10周年記念市民主催事業 実施報告書

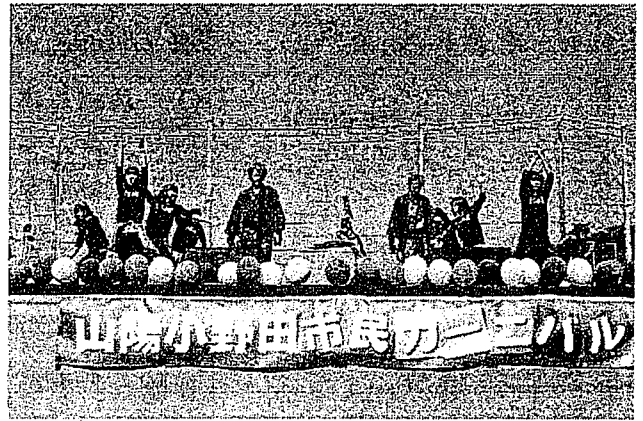
市民活動団体名〔 山陽小野田市民カーニバル実行委員会 〕

1	事業名	第3回山陽小野田市民カーニバル	
2	市誕生10周年の趣旨	①一体感の醸成	②躍動感あふれるまちづくり
		③知名度アップ	④10年の軌跡をたどる
3	事業の目的	<p>「市民が創る市民参加のカーニバル」として平成25年度から実施している。例年、参加者1千人、来場者1万人の全市的なイベントとして定着している。</p> <p>今回は、市誕生10周年を記念し、市民の連帯感と機運の醸成を目的とし、様々な事業を展開する。</p>	
4	(1) 内容	特設ステージ（絆もちまき、「ソルジェンティ」ライブほか） 体験コーナー（消防車・パトカー・自衛隊・山陽オートバザー・どうぶつ愛ランド・空中散歩・風船つりなど）	
	(2) 実施体制 （共催・後援・協力団体など）	主催：山陽小野田市民カーニバル実行委員会 （山陽小野田市自治会連合会・市ふるさとづくり協議会・市女性団体連絡協議会・市子ども会育成連絡協議会・すばる会ほか）	
5	(1) 予算額	(収入)	(支出)
		10周年補助金 300,000円 その他の収入 3,620,000円 合計 3,920,000円	イベント費 2,750,000円 運営費 1,170,000円 合計 3,920,000円
	(2) 決算額	(収入)	(支出)
		10周年補助金 300,000円 その他の収入 3,709,818円 合計 4,009,818円	イベント費 2,182,427円 運営費 1,827,391円 合計 4,009,818円
	うち補助対象経費		3,440,496円
6	実施状況	(1) 日時・場所 平成27年10月25日(日)10時～15時、山陽小野田市サッカー場 (2) 対象者・参加人数 来場者2万人、出演者650人、ボランティア40人 (3) 具体的な内容・状況 10月25日は好天に恵まれ、会場の山陽小野田市サッカー場にはたくさんの市民が詰めかけ、大盛況の裡にカーニバルを終えることができた。 会場には、特設ステージ(幅10.8m×奥行7.2m×高さ1.5m)を設置し、兄弟デュオ「ソルジェンティ」のライブや、山陽小野田音頭総踊り、大龍舞、竜王太鼓、マーチングバンドなどの様々なパフォーマンスを実施した。また、フィナーレとして5(GO!)3(山陽)0(小野田)に因んだ530kgの絆もちまきを実施した。 体験コーナーには、消防・警察・自衛隊の特殊車両やオートレース車の展示、どうぶつ愛ランド、特殊高所作業車による空中散歩、ゲームコーナーなど、多種多様なブースを設置した。 バザーでは、市内各地区のふるさとづくり協議会に参加をいただき、ちらし寿しやカレー、うどんなどの食のコーナー、社会福祉協議会による物販など、各種団体の協力により多彩な模擬店が開催された。 新市10周年記念イベントとしては、「一斉に夢と希望を大空へ!」とのテーマの下、エコロピィ風船1千個を大空へ向けリリースした。また、場内各所に新市10周年ののぼりを掲出し、新市誕生10周年の機運を高揚した。 (4) 成果・効果 第3回を迎える今回の市民カーニバルは、山陽小野田市が10周年を迎えるため、市誕生10周年記念市民主催事業として実施した。 当日は好天にも恵まれ、多くの市民が詰めかけ、大盛況の裡に事故もなく、イベントを終えることができた。 特に新市10周年記念として会場各所にのぼりを掲出するとともに、バルーンリリースを実施した。 このイベントを通じて、市民の交流と絆がより一層深まったと考える。	

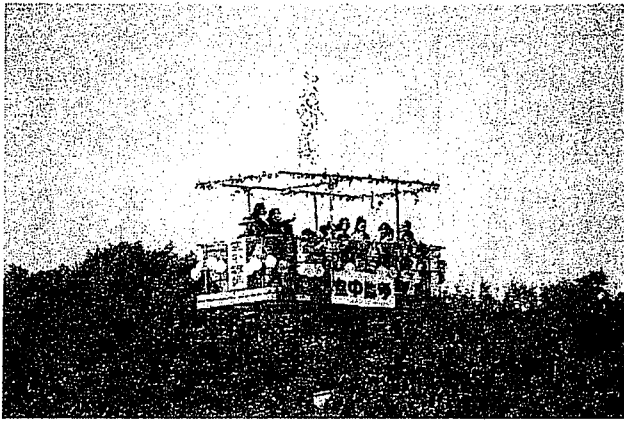
### 第3回山陽小野田市民カーニバル



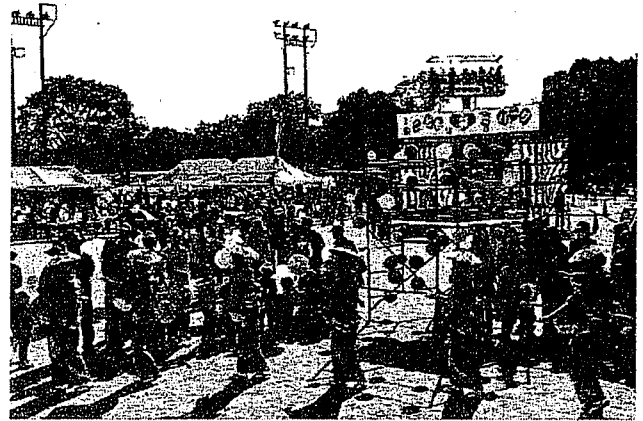
〈巨大風船でお出迎え〉



〈ステージパフォーマンス〉



〈多彩な催し・空中散歩〉



〈山陽小野田音頭総踊り〉



〈エコロヴィ風船リリース〉



〈絆もちまき〉

山陽小野田市誕生10周年記念市民主催事業 実施報告書

市民活動団体名 [ 山陽小野田市総合型スポーツクラブ連合会 ]

1	事業名	㊦誕生10周年10のイベント	
2	市誕生10周年の趣旨	①一体感の醸成 ②躍動感あふれるまちづくり ③知名度アップ ④10年の軌跡をたどる	
3	事業の目的	山陽小野田市誕生10周年を記念して10のイベントを展開することで、スポーツによるまちづくりの核となる2つの総合型スポーツクラブの交流を図る。 その小さな渦に多くの市民を巻き込むことで、大きな渦とし、山陽小野田市民としての一体感を共有する。	
4	事業の概要	(1) 内容	10のイベント ①グランドゴルフ・②硬式テニス・③PK大会・④フリースロー大会・⑤玉入れ・⑥ダンス・⑦太鼓・⑧ソフトバレー・⑨健康麻将・⑩ウォーキング その他の事業 ニュースポーツ、かぼちゃ重量当てクイズ、餅まき
		(2) 実施体制 (共催・後援・協力団体など)	主催：山陽小野田市総合型スポーツクラブ連合会 (すげえちゃ・高泊、出合いちょうクラブ) 後援：山陽小野田市、山陽小野田市教育委員会
5	事業費	(1) 予算額	(収入) 10周年補助金 300,000円 その他の収入 390,000円 合計 690,000円 (支出) イベント費 330,000円 運営費 360,000円 合計 690,000円
		(2) 決算額	(収入) 10周年補助金 300,000円 その他の収入 403,300円 合計 703,300円 (支出) イベント費 366,305円 運営費 336,995円 合計 703,300円
		うち補助対象経費	662,046円
6	実施状況	<p>(1) 日時・場所 平成27年11月7日(土) 各競技9:00~12:00 ステージ13:30~15:45 江汐公園、高泊コミュニティ体育館、すげえちゃ・高泊クラブハウス</p> <p>(2) 対象者・参加人数 競技参加者336人、ステージ参加者80人、来賓10人、スタッフ・ボランティア100人、一般市民400人</p> <p>(3) 具体的な内容・状況          &lt;江汐公園9時競技開始~&gt;          ①グラウンドゴルフ(グリーン広場) 受付8:30、120名、3ラウンド          ②硬式テニス、ソフトテニス(テニスコート) 旧小野田市、旧山陽町チーム対抗戦          ③PK大会 小学生1~3年の部、小学生4~6年・女性の部、一般の部、1チーム3人以上5人以内、各16チーム          ④フリースロー大会 小学生対象、人数制限なし          ⑤玉入れ(100個の玉入れを競うタイムトライアルスポーツ) 中学生以上(中学生のみのチーム編成は不可。但し成人1名以上いる場合は可)、1チーム8名以内(監督を含む)、出場選手4名以上6名以下16チーム          &lt;グリーン広場ステージ13:30~&gt;          ⑥太鼓(寝太郎太鼓14:00~14:20)          ⑦ダンス共演(キッズダンス&amp;リズム体操14:20~14:40)          &lt;高泊コミュニティ体育館9:00~&gt;          ⑧ソフトバレー(雨天順延なし) 高校生以上、1チーム4人(女性2名以上)、12チーム          &lt;すげえちゃ・高泊クラブハウス9:00~&gt;          ⑨健康麻将 先着24名          &lt;高泊公民館・出合公民館 受付8:30~ 出発9:00~&gt;          ⑩ウォーキング 高泊公民館・出合公民館を出発した2つが厚狭川下津河川敷で合流し江汐公園を目指す。各50名 高泊公民館→江汐公園10.9Km 出合公民館→江汐公園8.7km</p> <p>(4) 成果・効果 多くの市民の参加を得て、ほぼ予定通りに実施することができた。2つのクラブが協力して一つのイベントを行うことで相互理解を深めることができた。これからも地域に根ざした活動を続けて行きたい。</p>	



祝 誕生10周年10のイベント



〈キッズダンス〉



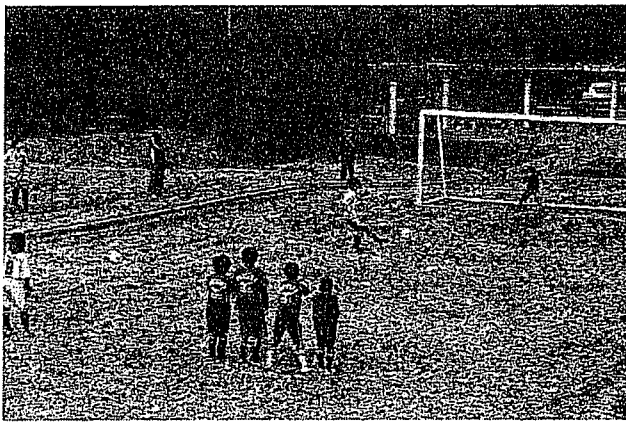
〈会場が一体でフォークダンス〉



〈グラウンドゴルフ〉



〈ニュースポーツ・玉入れ〉



〈PK大会〉



〈フィナーレのもちまき〉

山陽小野田市誕生10周年記念市民主催事業 実施報告書

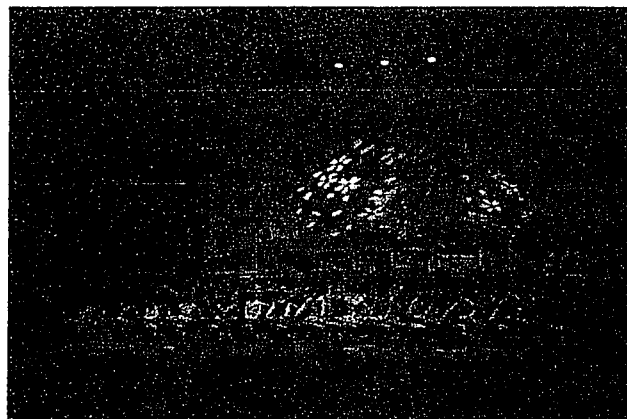
市民活動団体名 [ 山陽小野田市で生まれた音楽を奏でる会 ]

1	事業名	山陽小野田市で生まれた太鼓とガラスのコンサート 「With～心と音をつないで～」	
2	市誕生10周年の趣旨	①一体感の醸成 ③知名度アップ	②躍動感あふれるまちづくり ④10年の軌跡をたどる
3	事業の目的	山陽小野田の伝承芸能、「竜王太鼓」と山陽小野田市で誕生した、「ガラス楽器楽団」のコラボレーションコンサート。山陽小野田市誕生10周年を記念して、異分野の楽団が協同して山陽小野田市オリジナルの音楽を生み出し市民に提供する。郷土の音楽として創作し、広域の方々にも周知し、楽しんでもらうことを目的とする。	
4	事業の概要	(1) 内容	11/15コンサートの内容 I 高泊たけの子オーケストラ【竹楽器】 II ONODAガラスアンサンブル【ガラス楽器】/山口伝承センター箏教室【箏】 III 竜王太鼓保存会【和太鼓】 IV ♪ものけ姫 ～フィナーレ～(初演、山陽小野田市誕生10周年記念委嘱作品) “山陽小野田物語”～ガラスの楽器と和太鼓のアンサンブル～ 作詞/作曲 岡澤理絵
		(2) 実施体制 (共催・後援・協力団体など)	協賛：富士商(株)、(株)ワタ楽器 後援：山陽小野田市、山陽小野田市文化協会、(公財)音楽文化創造、TYS テレビ山口、KRY 山口放送、yab 山口朝日放送、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、中国新聞防長本社、宇部日報社、エムエムきらら、FMサンサンきらら、エフエム山口、山口新聞社
5	事業費	(1) 予算額	(収入) 10周年補助金 300,000円 その他の収入 1,288,000円 合計 1,588,000円 (支出) イベント費 1,335,000円 運営費 253,000円 合計 1,588,000円
		(2) 決算額	(収入) 10周年補助金 300,000円 その他の収入 1,070,000円 合計 1,370,000円 (支出) イベント費 1,157,766円 運営費 430,234円 合計 1,370,000円
		うち補助対象経費	1,283,192円
6	実施状況	<p>(1) 日時・場所 平成27年4月1日(水)～11月15日(日)(コンサート開催)、不二輸送機ホール 大ホール</p> <p>(2) 対象者・参加人数 参加者：出演者57名・スタッフ22名 計79人、来場者：326人</p> <p>(3) 具体的な内容・状況 「山陽小野田 smile プロジェクト」と、「竜王太鼓保存会」、「ONODAガラスアンサンブル」が協同して実行委員会を立ち上げ、企画・運営を行った。舞台進行・構成等は、各出演団体の代表者が協議した。当日(11/15)のスタッフは各団体関係者や地域のボランティアに依頼した。 4月 第1回実行委員会(13日) 作曲依頼、曲目選考、舞台構成の決定 5月 第2回実行委員会(15日) 楽曲練習の開始 6月 実行委員会(4日、19日) チラシ・ポスターの企画 7月 実行委員会(3日) 8月 合同練習会(9日、23日) チラシ・ポスター作成 9月 舞台詳細打ち合わせ(14日) チケット販売開始 合同練習会(13日) 10月 合同練習会(11日、18日、28日) 11月 合同練習会(8日) 11月14日(土) 舞台設営及びリハーサル 11月15日(日) コンサート開催</p> <p>(4) 成果・効果 山陽小野田市を拠点として、それぞれ地域に根づいた音楽活動を行っているジャンルが違う団体が、山陽小野田市誕生10周年記念事業コンサートとして、一丸となって一つの舞台を創り上げた。 今回の事業を通して、新たな絆が生まれ、今後も互いに協力し合い、末永く伝承していきたい音楽ができた。 山陽小野田市誕生10周年記念委嘱作品「山陽小野田物語の第3楽章 山陽小野田風物詩」を来場者の方にも一緒に歌っていただき、会場いっぱいに歌声が響き、盛大な拍手をいただくことができた。この曲は、歌いやすく、山陽小野田の特徴を生かして創られた曲なので、今後、当団体でも機会があるごとに、歌い継いでいこうと思っている。</p>	

With～心と音をつないで～



〈高泊たけの子オーケストラ〉



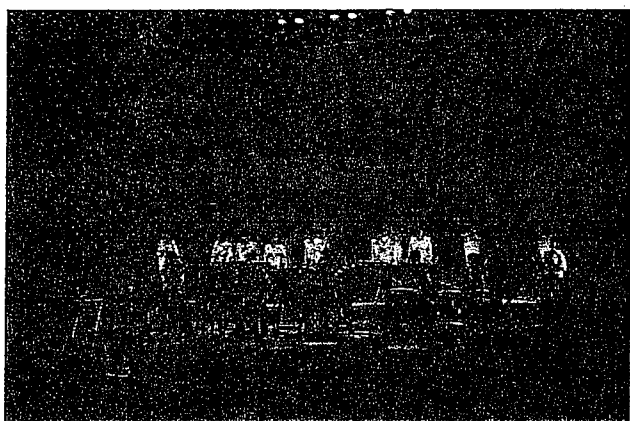
〈山口伝承センター箏教室〉



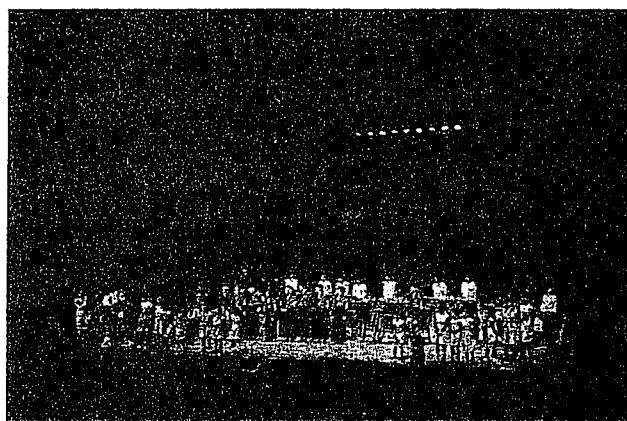
〈ONODAグラスアンサンブル〉



〈竜王太鼓保存会〉



〈太鼓とガラスのコラボレーション〉



〈山陽小野田物語を披露〉

平成27年度 事務事業評価シート 課・局・室・所(係) 市民課 住民係 No 18

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	7	効率的で健全な行財政基盤づくり	2	電子自治体の推進と行政サービスの向上	1	市民サービス・窓口サービスの向上
	実施計画名			事務事業名		
6	通知カード・個人番号カード関連事務委任事業		1	通知カード・個人番号カード関連事務委任事業		

事業概要	番号法の施行により、平成27年10月から個人番号が通知カードにより付番・通知され、平成28年1月から希望者には、個人番号カードが交付される。市町村の事務負担の軽減や費用の抑制の観点から、地方公共団体情報システム機構がカード発行等関連事務を一括して行い、その費用に相当する金額を支払う。	対象	住民基本台帳に記載されている全市民
		手段	カード発行関連事務に要する費用に相当する金額を交付金として国から受け機構に支払う
		意図	全国の市区町村が機構に一括して業務を委託して行うことにより、統一的事務が行える

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	負担金、補助及び交付金	33,213,000	18,149,000
	合計	33,213,000	18,149,000

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)	
	国庫支出金	100%	33,213,000	18,149,000
	県支出金			
	地方債			
	その他			
一般財源				
合計		33,213,000	18,149,000	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	2.7	15,574,937

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	通知カード発送件数			設定しない 29,288件		設定しない
2	個人番号カード交付件数			設定しない 1,583件		設定しない
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	
	自治体関与の妥当性	妥当である	個人番号カードの交付は、番号法により市町村長が行う法定受託事務とされている
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度		
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	全国の市区町村が機構に一括して業務を委託することで単価を抑えることができる



課題	平成28年1月中旬以降に発生したカード管理システムの不具合及び通信集中によるカード管理システムへの接続不良等のため、個人番号カードの交付事務に大きな支障が生じた。個人番号カードの早期交付に向けて効率的な取組に努める。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	繰越明許費 (H27年度→H28年度) 15,064,000円
------	---------------------------------

単位:円

個人番号カード等交付関連事務委任事業

	全体事業費	H27	H28繰越
事業費	33,213,000	18,149,000	15,064,000
国庫支出金	33,176,000	18,149,000	15,027,000
県支出金			0
地方債			0
一般財源	37,000	0	37,000

別表（１）通知カード・個人番号カード関連事務の委任の内容

通知カード・個人番号カード関連事務の委任（交付金の中）に含まれる内容は、次のとおりです。

(1) 個人番号カード発行等事業を行うためのプロジェクト管理事業
ア プロジェクト管理費
(2) 通知カード等の作成・発送事業
ア 設備費
イ 通知カードに関わる印刷費
ウ 通知カード等の郵送費（機構→住民）
エ 交付申請書の郵送費（住民→機構）
(3) 個人番号カードの申込処理事業
ア 設備費
イ 申込受付業務にかかる人件費
ウ 不備通知書に関わる印刷費
エ 不備通知書の郵送費（機構→住民）
(4) 個人番号カードの製造・発行事業
ア 設備費
イ 個人番号カードの製造費用
ウ 個人番号カードの発行に関わる費用
エ カード交付通知書に関わる印刷費
オ 個人番号カード+交付通知書の梱包作業に係る費用
カ 個人番号カード+交付通知書の自治体への郵送費（機構→自治体）
キ カード交付通知書の郵送費（自治体→住民）
(5) 個人番号カード機能の一時停止等のためのコールセンター事業
ア 設備費
イ コールセンター運営に係る費用

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	2	高齢者・障がい者が安心して自立できる環境づくり	5	社会保障の充実	1	低所得者福祉の充実
	実施計画名			事務事業名		
11	生活困窮者自立支援事業		1	生活困窮者自立支援事業		

事業概要	生保受給に至る直前の生活困窮者に対する自立に向けた各種支援事業。支援を受けようとする者は実施事業者に申し込みをする。実施事業者は市関係課及び外部関係機関・団体で構成される支援調整会議において支援方法を調整し、支援を実施。		対象	生活保護に至る直前の生活困窮者
			手段	外部委託により実施
			意図	対象者の自立再生

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	生活困窮者自立支援事業委託料	9,285,000	9,283,680
	備品購入費	327,000	326,700
合計		9,612,000	9,610,380

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金	3/4,2/3	7,287,000
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源		2,325,000
合計		9,612,000	9,610,380

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.2	1,153,699

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	支援者数			61		随時
2	就労者数			3		随時
3						

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

妥当性	目的の妥当性	妥当である	生活困窮者自立支援法第1条の規定による
	自治体関与の妥当性	妥当である	生活困窮者自立支援法第3条の規定による
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	生活困窮者自立支援法第2条の規定による
有効性	目標達成度		
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	生活困窮者自立支援法第3条の規定による
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	



課題	任意事業のうち就労準備支援事業を実施しているが、今後は家計相談事業やこどもの貧困対策に関連した学習支援事業の実施も検討する必要がある。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	目標設定にそぐわない事業
------	--------------

一般会計予算決算常任委員会における社会福祉課事業に関する資料(平成27年度実績)

No.	23	事務事業名	生活困窮者自立支援事業
委託先		委託事業内容	
山陽小野田市社会福祉協議会		自立相談支援事業	

事業実績

相談者の状況

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計
男	—	—	7	7	16	1	1	32
女	1	2	9	9	3	3	2	29
計	1	2	16	16	19	4	3	61

相談内容の状況

相談内容	件数
病気・健康・障害に関すること	12
住まいに関すること	9
収入・生活費に関すること	45
家賃・ローンの支払に関すること	9
税金・公共料金の支払に関すること	7
債務に関すること	6
仕事探し、就職に関すること	27
仕事上の不安やトラブルに関すること	2
地域との関係に関すること	0
家族との関係に関すること	4
子育てに関すること	1
介護に関すること	2
ひきこもり・不登校に関すること	4
DV・虐待に関すること	0
食べるものがない	2
その他	4
合 計	134

相談結果の状況

相談結果	件数
支援終了(目標達成、他の制度への移行)	17
支援中断(行方不明、支援拒否など)	0
支援継続(見守り中を含む)	44
合 計	61



平成27年度 事務事業評価シート 課・局・室・所(係) 社会福祉課 地域福祉課 No 19-2

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	2	高齢者・障がい者が安心して自立できる環境づくり	5	社会保障の充実	1	低所得者福祉の充実
	実施計画名			事務事業名		
11	生活困窮者自立支援事業		2		住居確保給付金支給事業	

事業概要	65歳未満で離職等による所得の減少により、住宅を失うまたは失う恐れのある者に対し、生活保護支給基準を上限として最長9か月間家賃を助成。		対象	離職等により住宅を失うまたは失う恐れのある65歳未満の者	
			手段	申請により家賃を助成	
			意図	住居を確保することにより就職活動を支援する	

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	扶助費	556,000	503,400
	合計	556,000	503,400

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)	
	国庫支出金	3/4	417,000	377,000
	県支出金			
	地方債			
	その他			
一般財源		139,000	126,400	
合計		556,000	503,400	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.05	288,425

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	支援者数			4人		随時
2	支援延べ月数			16か月		随時
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	生活困窮者自立支援法第1条の規定による
	自治体関与の妥当性	妥当である	生活困窮者自立支援法第3条の規定による
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	生活困窮者自立支援法第2条の規定による
有効性	目標達成度		
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	生活困窮者自立支援法第5条の規定による
	受益者負担の適正化	適正である	生活困窮者自立支援法施行規則第11条の規定による
	コスト効率	適正である	



課題		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期

特記事項	目標設定にそぐわない事業
------	--------------

一般会計予算決算常任委員会における社会福祉課事業に関する資料(平成27年度実績)

No.	23	事務事業名	生活困窮者自立支援事業
委託先		事業内容	
—		住居確保給付金支給事業	

事業実績

申請者の状況

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計
男					1			1
女			1	2				3
計	0	0	1	2	1	0	0	4

申請者の世帯別支給状況

世帯員数	支給限度額／月	支給件数	支給額／月	支給期間
単身世帯	30,000円	1	12,800円	3か月
2人世帯	36,000円	1	18,000円	2か月
3人世帯	39,000円	1	39,000円	3か月
4人世帯	39,000円	1	39,000円	8か月
5人世帯	39,000円			
6人世帯	42,000円			
7人以上の世帯	47,000円			

施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	2 高齢者・障がい者が安心して自立できる環境づくり	1 高齢者福祉の充実	1 生涯現役社会づくりの推進
	実施計画名		事務事業名
	第28回全国健康福祉祭山口大会交流大会開催事業	第28回全国健康福祉祭山口大会交流大会開催事業(市誕生10周年記念市主催事業)	

事業概要	平成27年10月に本市及び山口県内で開催される、第28回全国健康福祉祭やまぐち大会(ねんりんピックおいでませ！山口2015)の円滑な大会運営を図る。本市では、ふれあい交流大会のサッカー競技や健康づくり教室、おもてなしイベントを実施する。併せて、市誕生10周年記念市主催事業として、開始式において特別表彰事業として3月22日生まれの方に市内在住のガラス造形作家が作成したガラス工芸品を贈呈した。	対象	第28回全国健康福祉祭やまぐち大会交流大会参加者
		手段	市実行委員会の設立・運営や先催地視察、及び平成26年度以降の本大会の開催
		意図	生涯現役社会づくりの推進

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	50,000	32,400
	負担金、補助金及び交付金	5,722,000	2,896,122
合計		5,772,000	2,928,522

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	まちづくり魅力基金	50,000	32,400
	一般財源		5,722,000	2,896,122
合計		5,772,000	2,928,522	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	1.4	8,075,893

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	ねんりんピックおいでませ！山口2015サッカー競技の参加者数 (7ブロック28チームによるリーグ戦の開催)			560	良い	
				492		
				87.8%		
2	ねんりんピックおいでませ！山口2015サッカー競技の観客数			500	良い	
				700		
				120.00%		
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	全国健康福祉祭開催要綱により、都道府県・市町村の関与が明記されている。
	自治体関与の妥当性	妥当である	全国健康福祉祭は高齢者福祉に寄与する。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	概ね60才以上の高齢者が対象である。
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	市を主体とした実行委員会による大会運営を行う必要がある。
	受益者負担の適正化	適正である	山口県実行委員会からの補助金、共催市(下関市・山口市)からの負担金を活用する。
	コスト効率	適正である	



課題	
今後の方向性	事業の終了
	改善時期

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	1	安心して子どもを生き育てることができる環境づくり	1	次世代育成支援の充実	1	地域子育て支援体制の充実
	実施計画名			事務事業名		
1	地域子育て支援事業	1	地域子育て支援センター事業			

事業概要	市内5箇所の保育園(焼野・須恵・さくら・姫井・貞源寺第二)で月曜日から金曜日までに5時間開設。子育て世代の交流の場を提供し、子育て相談の受付。子育て支援に関する講習会の実施。また、近隣の児童館に出張し、育児相談及び育児講習を実施。	対象	未就学児及び保護者
		手段	育児相談会・子育て講座の実施
		意図	育児不安の解消 育児中の母親のリフレッシュ。少子化の歯止め

歳 出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	地域子育て支援センター事業費	37,100,000	36,965,000
合 計		37,100,000	36,965,000

歳 入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金	1/3	12,366,000
	県支出金	1/3	12,366,000
	地方債		
	その他		
	一般財源		12,368,000
合 計			37,100,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.15	865,274

交付税算入	無	会計種別	一般	經常
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		※上段:目標 中段:実績 下段:達成率				
		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
		1	延べ利用者数(実績数)	19,664人	22,885人	23,000人
		22,885人	23,309人	20,833人		
		116.00%	101.90%	90.6%		
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	地域の子育て支援機能の充実。子育ての不安の緩和を目的としており妥当
	自治体関与の妥当性	妥当である	子ども・子育て支援交付金交付要綱により実施
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	育児中の親子が対象
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	子育て負担を軽減し、子どもを安心して生き育てることができる環境づくりに貢献している
効率性	実施主体の適正化	適正である	市内5か所の保育所への業務委託で実施
	受益者負担の適正化	適正である	子育て講座等で、必要に応じ材料費等の実費徴収がある。
	コスト効率	適正である	市の負担割合が3分の1である



課題	利用者数が減少し目標を下回っている。利用者が減少した原因を検証し、事業の実施体制等に問題があれば改善を図る。		
今後の方向性	事業の進め方等に改善が必要	改善時期	28年度中に改善に着手

特記事項	
------	--

平成27年度子育て支援センター事業実績

	年間延べ利用者数		平均的な利用親子数 (1日当たり組数)		年間相談件数		年間子育て情報誌 発行回数		年間子育て講座実施 回数(月1回以上)	
	人	人	組	組	件	件	回	回	回	回
焼野保育園	2,860	人	6	組	29	件	12	回	96	回
さくら保育園	4,363	人	9	組	93	件	12	回	16	回
須恵保育園	4,114	人	9	組	24	件	12	回	46	回
姫井保育園	4,695	人	16	組	32	件	7	回	64	回
貞源寺第二保育園	4,801	人	10	組	120	件	12	回	32	回
合計	20,833	人	50	組	298	件	55	回	254	回

市内子育て支援センター一覧

	名称	時間	育児相談	活動	情報誌発行	その他
焼野保育園	子育て支援センター つくし	月～金曜日 10:00～15:00	随時 (電話・面接)	おやつ作り、伝承遊び(けん玉、お手玉、かるた)創作クラブ、体操クラブ、3B体操	つくしだより発行	絵本の貸出
さくら保育園	さくら保育園子育て支援センター「ほっぺくらぶ」	月～金曜日 9:30～14:30 (保育室・園庭開放)	随時(電話) 第1・第3木曜日(面接)	園庭・室内開放、おやつ作り、自由遊び、季節の工作、手芸、親子体操、給食試食会、手遊び、わらべ歌、絵本の読み聞かせ	ほっぺだより発行	児童館出張支援・ 育児講座
須恵保育園	子育て支援センター 「須恵ふれあい広場」	月～金曜日 9:30～12:00 13:00～15:30	月～金 随時 (電話、面接)	季節の遊び、親子の交流の場、絵本、わらべ歌、手作りおもちゃの作成	ふれあいだよりの発行	児童館出張支援・ 絵本の貸出
姫井保育園	子育て支援センター 「はっぴい」	月～金曜日 10:00～16:00	月～金 随時 (電話、面接)	自由遊び、手遊び、ベビーマッサージ、絵本読み、わらべ歌、おしゃべりタイム、園庭開放、製作等 母親対象:クッキング、手芸講習	はっぴいだより発行	児童館出張
貞源寺第二保育園	子育て支援センター (ひよこルーム)	月～金曜日 10:00～15:00	月～金 随時 (電話、来園)	園庭、遊戯室を開放し、親子で交流	ひよこだより発行	育児講座・公民館 出張支援

5年間の利用者数の推移

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
年間利用者数(人)	16,592	17,501	19,664	22,885	23,369	20,833
伸び率(%)	-	105.5	112.4	116.4	102.1	89.1

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	1	安心して子どもを生み育てることができる環境づくり	2	仕事と子育ての両立支援	3	児童福祉施設の充実
	実施計画名			事務事業名		
21	保育所運営事業及び保育所運営支援事業	4	施設型給付幼稚園等運営事業			

事業概要	子ども・子育て支援新制度に移行した私立幼稚園に対し、公定価格(運営費)を施設型給付費として支給する。平成27年度は、市内では1園が新制度に移行。	対象	新制度に移行した私立幼稚園に通園する児童
	手段	新制度に移行した私立幼稚園に施設型給付費を支給する	
	意図	幼稚園の適正かつ円滑な運営を支援、保育環境の充実を図る	

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	私立幼稚園運営費負担金	41,873,000	40,004,840
合計		41,873,000	40,004,840

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金	1/2	12,125,000
			12,052,305
	県支出金	1/4,1/2	12,996,000
			12,932,921
	地方債		
	その他		
	一般財源		16,752,000
			15,019,614
合計			41,873,000
			40,004,840

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.15	865,274

交付税算入	有	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	市内の1号認定児童が利用する私立幼稚園数			1園	目標達成度	
2	市内の1号認定児童が利用する管外幼稚園・こども園の数(公立・私立)			4園 (うち公立1園)		
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	新制度に移行した私立幼稚園の運営を支援するもので妥当である
	自治体関与の妥当性	妥当である	子ども子育て支援法に基づき自治体を実施すべき事業である
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	満3歳以上の児童で教育を希望する児童が対象であり妥当
有効性	目標達成度		目標設定になじまない
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	子育て家庭への教育環境の整備
効率性	実施主体の適正化	適正である	行政機関以外に実施主体になりえない事業
	受益者負担の適正化	適正である	所得に応じた保育料の負担あり
	コスト効率	適正である	市の負担割合 全国統一分1/4 地方単独分1/2



課題			
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--

■ 子ども・子育て支援新制度における私立幼稚園の選択肢

選択肢	位置づけ	施設の認可・指導監督等		財政措置	保育料	市内の私立幼稚園の移行状況		
		認可	確認			平成26年度 (新制度開始前)	平成27年度	
新制度に移行	① 「施設型給付」を受ける認定こども園 (幼保連携型) (幼稚園型)	(幼保連携型) 学校と児童福祉施設としての位置づけ  (幼稚園型) 学校に保育機能を認定	県が認可、指導監督	給付の支給対象として市が確認、指導監督	・各児童の保育時間、教育時間に対応する施設型給付費(市が窓口)	市が決定	—	0園
	② 「施設型給付」を受ける幼稚園				・標準時間に対応する施設型給付費(市が窓口)		—	1園
移行しない	③ 「施設型給付」を受けない幼稚園	学校教育を提供する機関		—	・私学助成(県が窓口) ・幼稚園就園奨励費(市が窓口)	幼稚園の設置者が設定	6園	5園

70

■ 平成27年度 施設型給付幼稚園等運営事業 実績

	位置づけ	幼稚園名	定員	利用児童数(4/1)	年間利用延児童数	施設型給付費
市内	「施設型給付」を受ける幼稚園	小野田小百合幼稚園	140人	61人	822人	37,561,530円
市外	「施設型給付」を受ける幼稚園	西宇部小百合幼稚園	240人	3人	36人	1,369,140円
	「施設型給付」を受ける認定こども園	長府幼稚園	164人	1人	12人	405,610円
	「施設型給付」を受ける認定こども園	伊佐中央幼稚園	140人	1人	12人	668,560円
計				66人	882人	40,004,840円

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	1	安心して子どもを生み育てることができる環境づくり	2	仕事と子育ての両立支援	2	放課後児童対策の充実
	実施計画名			事務事業名		
20	児童クラブ事業		1	放課後児童対策事業		

事業概要	市内12小学校区において、児童館及び小学校の空き教室を利用し、児童クラブ事業を実施している。平日は放課後から午後5時まで開所。土曜日及び長期休業期間は午前8時30分から午後5時まで開所。なお、1時間延長保育あり。	対象	小学1年生から6年生の児童
		手段	放課後及び長期休暇中に児童を預かる
		意図	児童の健全育成と保護者の就労支援

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	保育業務委託料	68,001,000	61,580,813
	庁用器具費	253,000	244,127
	通信運搬費	194,000	193,954
	光熱水費	370,079	370,079
	その他	343,921	315,328
合計		69,162,000	62,704,301

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金	1/3	17,878,000
	県支出金	1/3	17,878,000
	地方債		
	その他	保育料	15,680,000
	一般財源		17,726,000
合計		69,162,000	62,704,301

人件費概算	人工数(人役)	0.5
	人件費(円)	2,884,248

交付税算入	無	会計種別	一般	經常
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	受入率(児童クラブ受入児童数÷申込児童数)	100%	100%	100%	96.90%	
		100%	99.50%			
2					普通	
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	就労等により保護者が昼間に家庭にいない児童の健全な育成を図ることを目的とし妥当である
	自治体関与の妥当性	妥当である	子育て支援に関する事業は自治体が積極的に関与すべき事業である
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	小学校へ通う児童を持ち就労する保護者が対象であり妥当
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	子育て世代の就労環境の整備
効率性	実施主体の適正化	適正である	山陽小野田市社会福祉協議会に業務委託
	受益者負担の適正化	適正である	3,000円/月の負担がある。(非課税世帯を除く)
	コスト効率	適正である	事業委託料は市の負担割合1/3、利用者負担あり



課題	利用者からの要望がある延長保育の拡充を検討。また、年次的な施設の拡充整備が必要。		
今後の方向性	事業の統合、規模、内容、実施主体の見直し等が必要	改善時期	28年度中に改善に着手

特記事項	
------	--



平成27年度 児童クラブ事業実績

	本山	赤崎	須恵	小野田	高泊	高千帆	有帆	厚狭	出合	厚陽	埴生	津布田	計
1 クラス数 (クラス)	1	2	2	1	2	2	1	2	1	1	1	1	17
2 利用児童の状況 (人)	48	69	83	60	67	93	48	122	29	17	35	8	679
4/1 申込者数	48	69	83	60	67	105	48	129	29	17	35	8	698
うち 1～3年	48	68	83	60	67	105	48	128	25	16	32	7	687
うち 4～6年	-	1	-	-	-	-	-	1	4	1	3	1	11
待機児童数	0	0	0	0	0	12	0	7	0	0	0	0	19
年間延保育児童数	7,519	10,862	13,096	8,938	11,558	12,220	9,100	14,990	3,735	2,602	3,893	1,172	99,685
1日平均利用児童数	26.1	37.8	45.5	31.1	40.1	42.5	31.6	52.1	13.0	9.0	13.6	4.1	347
3 委託料実績 (千円)	5,568	6,591	7,360	4,995	7,012	7,219	4,440	7,532	3,599	2,403	2,801	2,061	61,581

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	1	安心して子どもを生み育てることができる環境づくり	1	次世代育成支援の充実	3	子育て負担の軽減
	実施計画名			事務事業名		
11	乳幼児医療費等支援事業	2	子ども医療費助成事業			

事業概要	平成26年8月に開始した事業。 小学1年生から小学3年生までの児童の医療費自己負担部分のうち、1割を助成。ただし、所得制限あり。		対象	小学1年生から小学3年生の児童
			手段	医療費自己負担部分のうち1割を助成
			意図	対象者の保健の向上に寄与し、生活の安定と福祉の増進を図る

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	10,000	324
	通信運搬費	123,000	96,572
	審査事務手数料	1,095,000	1,094,791
	扶助費	10,000,000	8,229,281
合計		11,228,000	9,420,968

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源割合内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	高額療養費	0	6,428
	一般財源		11,228,000	9,414,540
合計		11,228,000	9,420,968	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.15	865,274

交付税算入	無	会計種別	一般	經常
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	受給者数		945人	955人		
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	対象児童の保健の向上、生活の安定及び福祉の増進を図ることを目的としており妥当。
	自治体関与の妥当性	妥当である	行政機関以外が実施主体になりえない事業。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	平成28年8月以降、対象児童を中学3年生までに拡大の予定。ただし、所得制限あり。
有効性	目標達成度		対象者に対する適切な助成が求められる事業であり、目標設定にはなじまない。
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	子育て負担の軽減に貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	行政機関以外が実施主体になりえない事業。
	受益者負担の適正化	適正である	所得制限により対象者を適正に判断している。
	コスト効率	適正である	必要最低限の費用負担である。



課題	子育て世代の経済的負担の軽減を図るため、平成28年8月以降、小学3年生までとしていた対象者を中学3年生までに拡大。		
今後の方向性	事業の進め方等に改善が必要	改善時期	28年度中に改善に着手

特記事項	市単独事業
------	-------

子ども医療費助成の推移

	平成 26 年度	平成 27 年度
受給者 (全対象者に対する割合)	945 人 (56.4%)	955 人 (58.7%)
延べ件数	5,520 件	12,254 件
扶助費	3,817,896 円	8,229,281 円

※制度開始 平成 26 年 8 月から

他市の状況 (平成 28 年度の状況)

市名	子ども医療費助成制度	
下関市	対象	中3まで
	助成割合	1割
	所得制限	なし
宇部市	対象	中3まで
	助成割合	1割
	所得制限	あり
山口市	対象	小6まで (H28.10~中3まで拡充予定)
	助成割合	3割
	所得制限	あり
萩市	対象	小6まで
	助成割合	3割 (ただし一部自己負担あり)
	所得制限	あり
防府市	対象	小6まで
	助成割合	3割
	所得制限	なし
下松市	対象	小6まで (H28.8 拡充)
	助成割合	3割
	所得制限	なし (H28.8 拡充)
岩国市	対象	小6まで
	助成割合	3割
	所得制限	あり
光市	対象	高3まで (ただし小4以上は入院のみ)
	助成割合	3割
	所得制限	あり
長門市	対象	小6まで
	助成割合	3割
	所得制限	なし (H28.8 拡充)
美祢市	対象	小6まで (H28.8 拡充)
	助成割合	3割
	所得制限	あり
周南市	対象	小6まで (H28.4 拡充)
	助成割合	3割
	所得制限	あり
山陽小野田市	対象	中3まで (H28.8 拡充)
	助成割合	1割
	所得制限	あり

※ (平成 28 年 10 月制度開始)

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	2	高齢者・障がい者が安心して自立できる環境づくり	5	社会保障の充実	1	低所得者福祉の充実
	実施計画名			事務事業名		
17	就労自立給付金支給事業		1	就労自立給付金支給事業		

事業概要	概ね6ヶ月以上の雇用と最低限度の生活を維持するための収入を得ることができると認められることにより生活保護を脱却した者に、申請により就労自立給付金を支給。支給額の上限は単身世帯10万円、複数世帯15万円。	対象	就労により生活保護を脱却した者
		手段	申請により支給
		意図	生活保護脱却後の負担増による生活の不安定を支える

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	扶助費	1,500,000	100,000
	合計	1,500,000	100,000

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)	
	国庫支出金	3/4	1,125,000	75,000
	県支出金			
	地方債			
	その他			
一般財源		375,000	25,000	
合計		1,500,000	100,000	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.65	3,749,522

交付税算入	無	会計種別	一般	経常・臨時
-------	---	------	----	-------

活動指標または成果指標		※上段:目標		中段:実績		下段:達成率	
		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)	
1	申請件数			1		随時	
2							
3							

妥当性	目的の妥当性	妥当である	生活保護脱却者の脱却直後の負担増を緩和し、再度生活保護に至ることを防止する
	自治体関与の妥当性	妥当である	生活保護法第19条の規定による
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	就労による生活保護脱却者
有効性	目標達成度		
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	生活保護法第19条の規定による
	受益者負担の適正化	適正である	支給上限額が設定されているため、支給額を超える額は自己負担となる
	コスト効率	適正である	

課題			
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	目標設定にそぐわない事業
------	--------------

一般会計予算決算常任委員会における社会福祉課事業に関する資料(平成27年度実績)

No.	23	事務事業名	生活困窮者自立支援事業
-----	----	-------	-------------

委託先	委託事業内容
特定非営利活動法人ワーカーズコープ	就労準備支援事業

事業実績

支援者の状況

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計
男					2			2
女								0
計	0	0	0	0	2	0	0	2

支援結果の状況

相談結果	件数
支援終了(目標達成、他の制度への移行)	0
支援中断(行方不明、支援拒否など)	0
支援継続(見守り中を含む)	2
合計	2

支援の状況

支援の主な内容	件数
生活リズムの確保	2
ボランティア活動を通じて人との接し方の確認	2

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	1	安心して子どもを生み育てることができる環境づくり	3	母子保健対策の充実	1	母子保健サービスの充実
	実施計画名			事務事業名		
3	母子健康診査事業		4	妊婦健康診査事業		

事業概要	平成21年2月「妊婦健康診査に係る公費負担の拡充」(厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長通知)を受けて公費での妊婦健康診査を14回に拡充し実施。		対象	妊婦
			手段	医療機関と委託契約し妊婦健康診査を実施する
			意図	妊婦の経済的負担の軽減と正期出産をめざす

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	137,808	124,740
	役務費	5,600	7,934
	妊婦健康診査委託料	51,034,900	48,698,060
	負担金・補助・交付金	467,840	209,460
合計		51,646,148	49,040,194

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	51,646,148	49,040,194
合計		51,646,148	49,040,194

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.55	1,328,447

交付税算入	有	会計種別	一般	経常
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	妊婦健康診査補助券交付申請者件数	随時	随時	随時	普通	随時
		532件	546件	511件		
2	妊娠届出数に対する妊婦健康診査補助券(14回分)を利用した1回目の健診受診率	100%	100%	100%	普通	100%
		99.7%	98.6%	99.1%		
		99.7%	98.6%	99.1%		
3	妊娠届出数に対する妊婦健康診査補助券(14回分)を利用した11回目(妊娠36週)の健診受診率	100%	100%	100%	普通	100%
		86.8%	88.8%	88.3%		
		86.8%	88.8%	88.3%		

妥当性	目的の妥当性	妥当である	
	自治体関与の妥当性	妥当である	母子保健法による
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	妊婦の経済的負担の軽減に貢献している
効率性	実施主体の適正化	適正である	母子保健事業は市町村事業である
	受益者負担の適正化	適正である	事業目的から適正である
	コスト効率	適正である	診療報酬単価に準じている



課題	妊娠後期は、妊婦健康診査補助券の利用率が低い。妊婦健康診査の定期受診の重要性を母子健康手帳交付時に確実に伝えるとともに、妊婦健診結果に基づき保健指導を強化する。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	3	生涯を通じた健康づくり・地域医療体制の整備	2	地域医療の充実	1	地域医療体制の充実
	実施計画名			事務事業名		
17	地域医療推進事業		1	二次救急医療体制支援事業		

事業概要	宇部・山陽小野田・美祢地域の広域医療圏内にある9つの救急医療機関において、365日体制で二次救急医療に対応する。必要な経費は3市がそれぞれ人口に応じた負担を行う。		対象	輪番制で二次救急を実施している医療機関
			手段	かかった経費を各市の人口割で負担する
			意図	広域の二次救急医療を確保し、地域医療の充実に資する。

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	負担金、補助及び交付金	8,730,000	8,729,815
	合計	8,730,000	8,729,815

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
一般財源	8,730,000	8,729,815	
合計	8,730,000	8,729,815	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.2	1,153,699

交付税算入	有	会計種別	一般	経常
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		※上段:目標		中段:実績		下段:達成率	
1	協力医療機関	H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)	
		10施設	10施設	10施設		10施設	
		9施設	9施設	9施設		9施設	
2	協力医療機関での二次救急稼働日数	90.00%	90.00%	90.0%	かなり良い	365日	
		365日	365日	366日		366日	
		365日	365日	366日		366日	
3		100.00%	100.00%	100.00%			

妥当性	目的の妥当性	妥当である	二次救急医療体制の継続維持につながるため。
	自治体関与の妥当性	妥当である	広域圏での二次救急医療体制の継続に資するため。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	二次救急医療体制を支えているため。
有効性	目標達成度	達成している	一年中受診できる体制が維持されているため
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	

課題			
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項			
------	--	--	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	3	生涯を通じた健康づくり・地域医療体制の整備	2	地域医療の充実	1	地域医療体制の充実
	実施計画名			事務事業名		
17	地域医療推進事業		2	地域医療連携情報ネットワーク運営負担事業		

事業概要	全国的に医師不足であり、診療体制の縮小が余儀なくされる中、地域の限られた医療資源を効果的・効率的に活用するためには、「医療機関完結型」ではなく「地域医療連携による地域完結型医療」の推進が重要となっている。そのため、医療圏に点在する患者情報を集約、共有し、医療資源の最適化を図るとともに、地域における質の高い一貫した地域医療体制の整備を図る。		対象	宇部・山陽小野田・美祢圏域地域医療連携システム運用会議
			手段	3市の人口に応じて経費を負担する。
			意図	地域完結型医療の実現を図る。

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	負担金	310,000	310,000
	合計	310,000	310,000

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
一般財源	310,000	310,000	
合計	310,000	310,000	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.05	288,425

交付税算入	無	会計種別	一般	経常
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標	H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
			98件		
1 退院情報連携システム利用件数		157件			
2 参加病院・診療所数		238箇所	238箇所	普通	238箇所
		97箇所	97箇所		
		40.76%	40.76%		
3					

妥当性	目的の妥当性	妥当である	
	自治体関与の妥当性	妥当である	地域の医療連携に有効である
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	



課題		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期

特記事項	
------	--



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	3	生涯を通じた健康づくり・地域医療体制の整備	1	健康づくりの推進	1	地域ぐるみの健康づくりの充実
	実施計画名			事務事業名		
9	健康づくり計画推進事業		3	健康づくり計画推進事業(健康フェスタ市誕生10周年記念市主催事業)		

事業概要	平成21年度に山陽小野田市SOS健康づくり計画を策定。SOS健康づくり計画運営委員会、健康・情報ステーション、健康づくり推進協議会の活動と協働し、計画に基づき健康づくりに関する事業を展開し、1年の集大成として健康フェスタを開催している。平成27年度は健康フェスタで市誕生10周年記念として記念講演を実施する。(拡大事業)		対象	市民	
			手段	健康フェスタで市誕生10周年記念講演を行う	
			意図	市民の健康に対する意識の向上を図る	

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	30,000	20,000
合計		30,000	20,000

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	30,000	20,000
合計		30,000	20,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.1	576,850

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	講演会参加者数			100人	悪い	
2				50人		
3				50.0%		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

妥当性	目的の妥当性	妥当である	健康フェスタでの健康づくりに関する講演会の実施は市民の健康づくりに寄与できる
	自治体関与の妥当性	妥当である	
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	検討が必要	事前PRや健康フェスタのイベントスケジュールについて検討が必要
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	地域ぐるみの健康づくりに貢献
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	

課題	記念講演の参加者が少なく、周知方法等に課題が残った。		
今後の方向性	事業の終了		改善時期

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	3	生涯を通じた健康づくり・地域医療体制の整備	1	健康づくりの推進	2	保健サービスの充実
	実施計画名			事務事業名		
8	成人健康診査事業		1	成人健康診査(肝炎・生保等健康診査)		

事業概要	健康増進法第19条の2に基づき ①肝炎ウイルス検診、②健康診査、③訪問健康診査 を集団健診、個別健診及び医師の訪問で実施し、疾病の早期発見を行い、生活習慣の改善や適正医療の必要性について知る機会とする。	対象	他の制度等で健診を受けていない市民
		手段	集団健診、個別健診または医師による訪問診査
		意図	疾病の早期発見を行い適正な医療管理に導く

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	24,000	16,200
	健康診査委託料	387,000	141,744
合計		411,000	157,944

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金	2/3	210,000
	地方債		
	その他		
	一般財源		201,000
合計		411,000	157,944

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.1	374,686

交付税算入	有	会計種別	一般	経常
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	生保受給者の健康診査受診者数	11人	12人	15人		
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	健康増進法による
	自治体関与の妥当性	妥当である	健康増進法による
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	健康増進法による
有効性	目標達成度		
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	肝炎ウイルス検診については、県にて同様の事業が実施されているため平成27年度は未実施。
------	---

平成27年度 事務事業評価シート 課・局・室・所(係) 健康増進課 成人保健係 No 30-2

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	3	生涯を通じた健康づくり・地域医療体制の整備	1	健康づくりの推進	2	保健サービスの充実
	実施計画名			事務事業名		
8	成人健康診査事業		2	成人健康診査(がん検診・女性の健康診査)		

事業概要	健康増進法第19条の2に基づき健診を実施。 ①がん検診(胃・大腸・肺・子宮・乳・前立腺) ②女性の健康診査		対象	他の制度等で健診を受けていない市民
			手段	集団健診または医療機関で行う個別健診
			意図	疾病の早期発見を行い適正な医療管理に導く

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	80,000	52,000
	需用費	541,000	512,709
	役務費	261,000	260,927
	健康診査委託料	99,937,366	99,937,366
合計		100,819,366	100,763,002

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	受益者負担金	14,313,400	14,462,300
	一般財源		86,505,966	86,300,702
合計		100,819,366	100,763,002	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	1.25	5,997,635

交付税算入	有	会計種別	一般	経常
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25		H26		H27		目標達成度	H28(目標)
1	集団健診の実施回数			10回	10回	10回	100.0%	普通	10回
			10回	10回	100.0%				
2	個別健診の受託医療機関数			52か所	51か所	51か所	98.1%	普通	51か所
			52か所	51か所	100.0%				
3	国が示した受診率に対する本事業のがん受診率(前立腺がんを除く)(H26からは市の目標受診率)			50%	24.5%	25.6%	94.1%	普通	26.7%
			19.9%	24.9%	24.1%				
				101.6%					

妥当性	目的の妥当性	妥当である	健康増進法による
	自治体関与の妥当性	妥当である	健康増進法による
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	健康増進法による
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	健康増進法による
	受益者負担の適正化	適正である	自己負担額有り
	コスト効率	適正である	



課題	平成28年2月、がん検診実施の指針についての一部改正が行われ、平成28年度から胃がんの対象者や受診間隔及び乳がんの検査内容が変更となる。これらの変更点を実施機関である市内の医師会をはじめ市民へ周知徹底する必要がある。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	3	生涯を通じた健康づくり・地域医療体制の整備	1	健康づくりの推進	2	保健サービスの充実
	実施計画名			事務事業名		
8	成人健康診査事業		3	成人健康診査(がん検診クーポン事業)		

事業概要	子宮頸がん検診:20歳の女性、乳がん検診:40歳の女性、大腸がん検診:40歳以上の者 5歳間隔 上記対象者へ受診勧奨、がん検診手帳及び無料クーポン券の交付を個別に行い健康診査を実施。 子宮・乳の未受診者へ無料クーポン券を送付して実施。	対象	子宮頸・乳・大腸がん検診の国が定めた年齢の者
		手段	がん検診手帳及び無料クーポン券を個別郵送して実施
		意図	疾病の早期発見を行い適正な医療管理に導く

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	需用費	713,000	626,056
	役務費	984,000	701,630
	健康診査委託料	4,318,906	4,318,906
	合計	6,015,906	5,646,592

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金	872,000	872,000
	地方債		
	その他		
一般財源	5,143,906	4,774,592	
合計	6,015,906	5,646,592	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)	交付税算入	有	会計種別	一般	臨時
	0.35	4,671,415					

活動指標または成果指標		※上段:目標		中段:実績		下段:達成率	
1	本事業における市の目標受診率に対する受診率 (子宮頸がん検診) (H25は国の目標受診率)	H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)	
		50%	30%	30%		30%	
		26.5%	17.9%	11.9%			
2	本事業における市の目標受診率に対する受診率 (乳がん検診) (H25は国の目標受診率)	50%	30%	30%	普通	30%	
		21.8%	13.5%	15.7%			
		43.6%	45.0%	52.3%			
3	本事業における市の目標受診率に対する受診率 (大腸がん検診) (H25は国の目標受診率)	40%	20%	20%		-	
		13.6%	12.4%	12.6%			
		34.0%	62.0%	63.0%			

妥当性	目的の妥当性	妥当である	感染症予防事業費等国庫負担(補助)金交付対象事業
	自治体関与の妥当性	妥当である	感染症予防事業費等国庫負担(補助)金交付対象事業
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	感染症予防事業費等国庫負担(補助)金交付対象事業
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	健康増進法による
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	

課題	新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業として実施。 平成28年度の対象者は、子宮頸がん検診=20歳、乳がん検診=40歳のみ。大腸がん検診無し。 また、検診手帳の交付が必須ではなくなったため無料クーポン券のみの送付とする。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	3	生涯を通じた健康づくり・地域医療体制の整備	1	健康づくりの推進	2	保健サービスの充実
	実施計画名			事務事業名		
8	成人健康診査事業		4	成人健康診査(結核検診)		

事業概要	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律53条の2の規定に基づき胸部レントゲン検診を実施。	対象	65歳以上の市民
		手段	集団健診または医療機関で行う個別健診
		意図	結核の発症を早期に発見し、他者への感染を未然に防ぐ

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	8,000	3,250
	役務費	96,000	96,000
	レントゲン撮影委託料	770,000	680,400
合計		874,000	779,650

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	874,000	779,650
合計		874,000	779,650

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.25	1,239,360

交付税算入	有	会計種別	一般	経常
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25		H26		H27		目標達成度	H28(目標)
1	集団健診の実施箇所数		110か所	110か所	101か所	101か所	90か所		良い
			110か所	101か所	91.8%	90か所	89.1%		
					30か所	30か所	28か所	28か所	
2	個別健診の受託医療機関数		30か所	30か所	30か所	28か所	28か所	良い	28か所
			30か所	30か所	100.0%	100.0%	100.0%		
					50%	50%	50%		50%
3	市が目標とする受診率に対する受診率		32.8%	33.7%	35.7%	35.7%	71.4%	良い	50%
			65.6%	67.4%					

妥当性	目的の妥当性	妥当である	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律による
	自治体関与の妥当性	妥当である	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律による
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律による
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律による
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	



課題	受診者の動向として、巡回検診の減少と医療機関での受診増加がみられる。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	4	斎場・霊園の整備
	実施計画名			事務事業名		
20	山陽小野田市新火葬場建設事業	1	山陽小野田市新火葬場建設事業			

事業概要	昭和55年に建設された小野田・山陽両斎場とも築30年以上が経過しており、施設の老朽化が著しい状況である。合併特例債を利用して、小野田・山陽両斎場を統合し、新しい火葬場を建設する。	対象	新火葬場
		手段	合併特例債を利用し、2箇所の斎場を統合し、新しい火葬場を建設する。
		意図	老朽化している施設を更新するとともに、両斎場を統合することにより、効率的な運営を図る。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	用地購入費	12,003,000	12,002,400
	調査設計委託料	11,042,000	2,800,000
	火葬炉技術審査委託料	500,000	255,960
	報償費	20,000	14,000
	合計	23,565,000	15,072,360

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債	合併特例債	14,300,000	14,300,000
	その他			
	一般財源		9,265,000	772,360
合計		23,565,000	15,072,360	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	1	5,768,495

交付税算入	有	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	新火葬場建設に向けての条件整備を行い、年次の計画に従い事業を推進する。		基本計画の策定 基本計画の策定	用地購入等 計画どおり	普通	基本設計・造成工事
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	基本方針、計画により、市には必ず必要な施設であるとしている。
	自治体関与の妥当性	妥当である	墓地及び埋葬等に関する法律に基づく経営である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	概ね達成している	概ね建設スケジュールに沿っている。
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	火葬業務は、市固有の業務である。
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	関係業者と幾度となく協議を重ね、経費節減に向けて努力している。



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当 改善時期

特記事項	平成27当初の調査設計委託料11,042,000円のうち、平成28年度に8,076,680円繰越している。
------	---

## 山陽小野田市新火葬場建設事業

### <27年度事業内容>

#### ○用地取得（個人所有分）

- ・市内大字厚狭字西目峠 17 番 (8,466 m<sup>2</sup>) 所有者 2 名  
取得費用：8,466 m<sup>2</sup> × 1,200 円/m<sup>2</sup> = 10,159,200 円
  - ・市内大字厚狭字西目峠 15 番 2 (1,536 m<sup>2</sup>) 所有者 2 名  
取得費用：1,536 m<sup>2</sup> × 1,200 円/m<sup>2</sup> = 1,843,200 円
- ∴ 計 10,002 m<sup>2</sup> 12,002,400 円

#### ○基本設計・実施設計請負業者選定

- ・プロポーザルにて決定  
請負業者：(株) 山下設計関西支社  
契約金額：51,840,000 円 (税込) (予算は、H28 年度計上)  
契約期間：H28. 1. 13 ~ H29. 1. 31  
委員報償：6,000 円 (3 回 × 2,000 円 × 1 人)

#### ○火葬炉設置工事請負業者選定

- ・プロポーザルにて決定  
請負業者：(株) 宮本工業所  
契約金額：205,200,000 円 (税込) (予算は、H30 年度計上予定)  
契約期間：H28. 3. 9 ~ H31. 3. 22  
委員報償：8,000 円 (2 回 × 2,000 円 × 2 人)

#### ○火葬炉技術審査委託料

- ・火葬炉業者提案の火葬炉設備能力の技術審査委託  
請負業者：(有) E I C  
委託料：255,960 円

#### ○造成設計委託料

- ・建設用地造成工事のための造成設計業務委託  
請負業者：西京測量設計 (株)  
契約金額：10,876,680 円 (税込)  
契約期間：H27. 11. 11 ~ H28. 6. 30  
委託料：2,800,000 円 (H28 へ繰越 8,076,680 円)

∴ H27 決算額 15,072,360 円

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり	5	生活交通の充実	2	地域公共交通の利用促進
	実施計画名		事務事業名			
1	生活交通推進事業		5	JR小野田線100周年記念事業		

事業概要	平成27年度は、JR小野田線100周年を迎えるため、JR美祿線・小野田線利用促進協議会で記念行事を開催する。	対象	市民等
		手段	記念行事の開催
		意図	JR小野田線100周年を契機とし、さらなる利用促進を図る。

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	負担金	500,000	499,681
	合計	500,000	499,681

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
一般財源	500,000	499,681	
合計	500,000	499,681	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.2	1,153,699

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	記念行事参加者数			3,000人	普通	
2				1,984人		
3				66.1%		

妥当性	目的の妥当性	妥当である	本市の生活交通であるJR小野田線の100周年であり、妥当と判断する。
	自治体関与の妥当性	妥当である	生活交通の活性化を図る事業であり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	概ね妥当である	
有効性	目標達成度	概ね達成している	記念行事を通じ、小野田線を広くPRすることができた。
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	生活交通の活性化を図る事業であり施策貢献できる事業である。
効率性	実施主体の適正化	適正である	JR美祿線・小野田線利用促進協議会を実施主体とした。
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	

課題	平成27年10月31日に100周年記念企画列車「ハロウィンスイーツ列車in小野田線」を運行し、参加者は勿論、小野田駅各駅及び沿線にファンが集まり、100周年の記念となった。また、11月14日、15日におのだサンパークにおいて「開業100周年記念イベント」を開催した。目標の3,000人には届かなかったものの、約2,000人の来場者があり、小野田線100周年を祝い、写真や映像で思い出を共有できたなど来場者に好評だった。今後も、当該協議会を通じて小野田線の利用促進に努める。
今後の方向性	事業の終了
	改善時期

特記事項	当該事業は平成27年度のみのものであるが、引き続き、小野田線利用促進事業の中でPR等を行っていく。
------	---



## 「JR小野田線開業100周年記念イベント」概要

### 1 目的

記念イベントを実施することにより、本市の産業発展の礎となったJR小野田線の歴史を振り返るとともに、今後の利用促進に繋げることを目的とする。

### 2 主催

JR美祢線・小野田線利用促進協議会

### 3 イベント内容

#### <記念イベント>

開催日：平成27年11月14日（土）～15日（日）

会場：おのだサンパーク 2階大催事場

内容：

- ・JR小野田線関連資料展示（歴史民族資料館所蔵資料）
  - ・フォトコンテスト、児童絵画作品展示
  - ・車両模型（Nゲージ）展示・運転
  - ・製作コーナー【ぬり絵、ペーパークラフト、プラレール等】
  - ・体験コーナー【制服試着記念撮影】
  - ・祝100周年 横断幕の作成
- ※来場者にメッセージを自由に書いてもらう。  
⇒11月25日に小野田駅で掲示。

#### <企画列車運行>

開催日：10月31日（土）

会場：小野田線・本山支線を運行

内容：

- ・スイーツ列車

小野田駅を出発し、宇部新川、本山支線を経由して小野田駅まで戻る。  
市内のお菓子店にご協力いただき、列車内でスイーツ（タルト、ゼリー等）を食べることのできる企画列車を運行する。

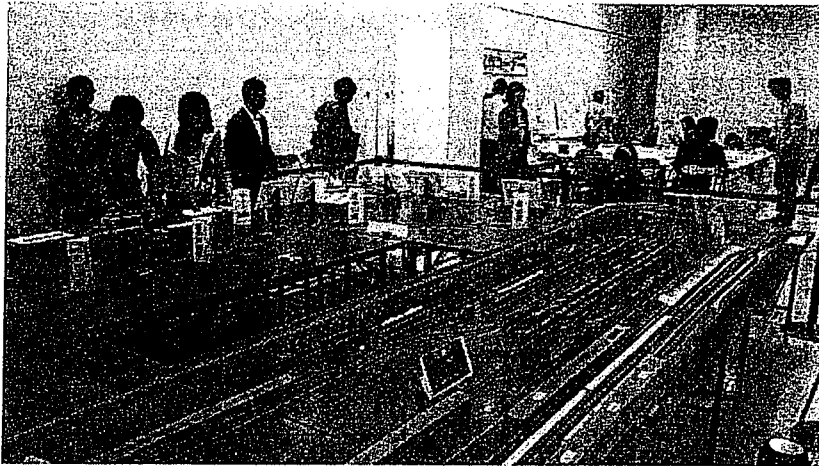
#### <100周年出発式>

開催日：11月25日（水）

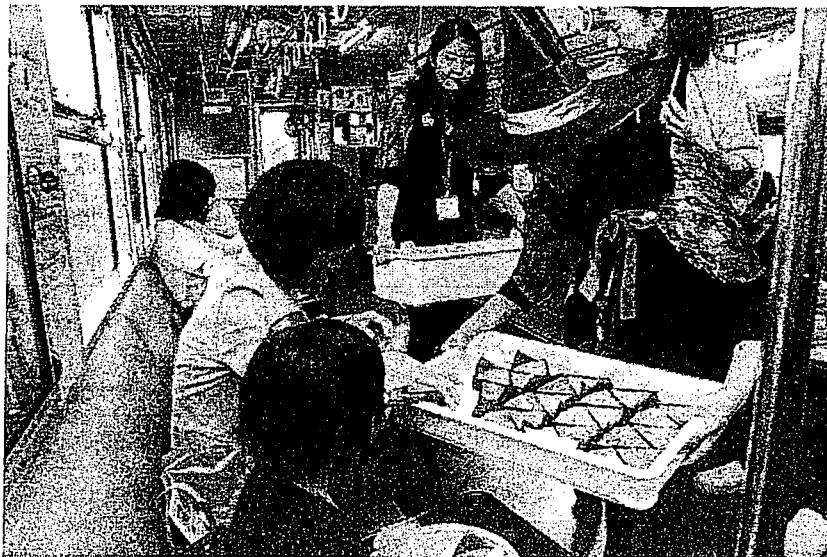
会場：JR小野田駅

内容：小野田線100周年を記念し、列車の出発式を開催。

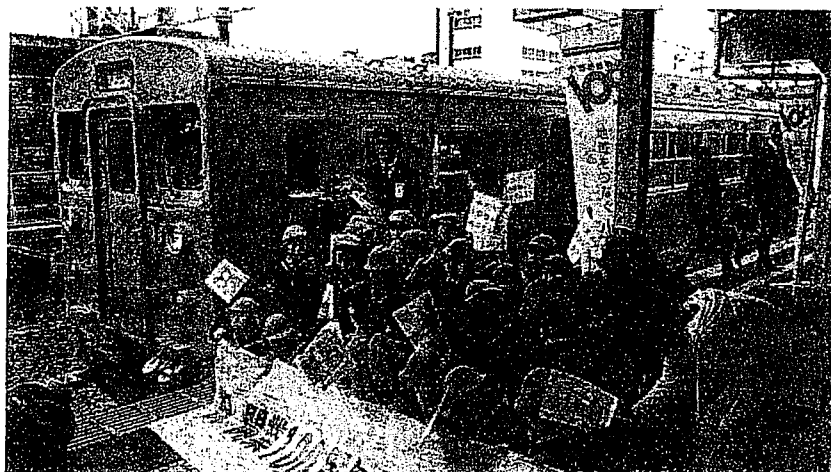
記念イベント



スイーツ列車



出発式



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり	5	生活交通の充実	2	地域公共交通の利用促進
	実施計画名			事務事業名		
1	生活交通推進事業		8	地域公共交通網形成計画作成事業(地域公共交通総合連携計画の見直し)		

事業概要	平成26年2月に地域公共交通会議を設置し、平成28年3月に本市の公共交通のマスタープランとなる「山陽小野田市地域公共交通網形成計画」を策定した。本計画に基づき、地域の実情に合わせた持続可能な公共交通の形成を図る。	対象	地域公共交通会議、事業者、市民
		手段	地域公共交通会議を開催、計画の策定
		意図	持続可能な公共交通を形成するため

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	負担金(公共交通会議)	1,250,000	1,250,000
合計		1,250,000	1,250,000

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	1,250,000	1,250,000
合計		1,250,000	1,250,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.5	2,884,248

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	計画の策定			計画策定	良い	
				策定済		
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	市民の生活交通の確保や利便性を図る事業あり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	本市の公共交通網を見直す作業であり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	市民の生活交通の確保や利便性を図る事業あり、妥当である。
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	地域公共交通の利用促進や既存交通の機能向上や交通機関の円滑な運営を図るものである。
効率性	実施主体の適正化	適正である	市民の生活交通の確保や利便性を図る事業あり、適性である。
	受益者負担の適正化	適正である	市の計画策定に係るものであり、適正である。
	コスト効率	適正である	



課題 平成28年3月に策定した「山陽小野田市地域公共交通網形成計画」に基づき、「利用し易い地域公共交通」となるよう、平成32年度までの計画期間内で事業を検討し、今後の実施に繋げていく。

今後の方向性	事業の終了	改善時期	
--------	-------	------	--

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり	5	生活交通の充実	2	地域公共交通の利用促進
	実施計画名			事務事業名		
1	生活交通推進事業		7	デマンド型交通運営事業		

事業概要	厚狭北部地域の27自治会の住民を対象に、平成27年1月からデマンド型交通(乗合予約車両)を導入し、地域の交通不便の解消を図り、市民の生活交通手段の確保に努めている。 平成28年3月時点登録者数258人		対象	厚狭北部の市民
			手段	北部を2エリアにおいて、自宅と厚狭駅周辺の目的地をつなぐ輸送サービスを実施する。
			意図	生活交通の維持

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	需用費	270,000	105,169
	役務費	67,000	64,224
	デマンド型交通運行業務委託料	6,974,000	5,989,638
	合計	7,311,000	6,159,031

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他	雑入	1,337,000
一般財源		5,974,000	5,503,031
合計		7,311,000	6,159,031

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.125	721,062

交付税算入	有	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		※上段:目標		中段:実績		下段:達成率	
1	一日当たりの乗車人数	H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)	
			33人	33人			
			7人	18.4人			
2			21.20%	55.8%	普通		
3							

妥当性	目的の妥当性	妥当である	市民の生活交通手段の確保を図る事業であり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	市民の生活交通手段の確保を図る事業であり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	市民の生活交通手段の確保を図る事業であり、妥当である。
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	市民の生活交通手段の確保を図る事業、公共交通の活性化を図る事業であり貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	概ね適正である	1乗車当たり、300円としている。
	コスト効率	概ね適正である	生活交通手段であるため、市民が利用しやすい運賃を設定している。

課題	引き続き、広報紙・ホームページなどによる周知活動が必要である。 平成27年度は、対象地区エリアの世帯にアンケート調査を行い、運行内容の検証を行った。 今後は、運行サービスを向上させるため、個人病院への乗り入れを検討する。		
今後の方向性	事業の進め方等に改善が必要	改善時期	28年度中に改善に着手

特記事項	
------	--

デマンド型交通利用状況(H27年度)

【登録者数(人)】

平成27年度	
松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線	湯の峠・陽光台・山川線
151人	107人

【利用者数(人)】

《総数》

平成27年度	
松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線	湯の峠・陽光台・山川線
1,226人	1,423人

《1日平均》

平成27年度	
松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線	湯の峠・陽光台・山川線
9人	10人

※一日平均 = 利用者総数 / 144日(運行日数)

《便別》

			平成27年度	
			松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線	湯の峠・陽光台・山川線
上 り	1便	7:40 (7:50)	19人	124人
	2便	9:00	560人	603人
	3便	13:30	71人	36人
下 り	1便	10:30	373人	588人
	2便	12:00	89人	32人
	3便	15:30	114人	40人

【運行回数・稼働率】

《全便》

			平成27年度	
			松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線	湯の峠・陽光台・山川線
運行回数			482回	457回
稼働率			55.8%	52.9%

《便別》

			平成27年度			
			松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線		湯の峠・陽光台・山川線	
			運行回数	稼働率	運行回数	稼働率
上 り	1便	7:40 (7:50)	15回	10.4%	91回	63.2%
	2便	9:00	143回	99.3%	141回	97.9%
	3便	13:30	56回	38.9%	30回	20.8%
下 り	1便	10:30	138回	95.8%	141回	97.9%
	2便	12:00	62回	43.1%	24回	16.7%
	3便	15:30	68回	47.2%	30回	20.8%

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり	5	生活交通の充実	2	地域公共交通の利用促進
	実施計画名			事務事業名		
1	生活交通推進事業		6	地方バス路線維持対策事業		

事業概要	バス事業者3社に対して補助金を交付し、市民の日常生活に必要なバス路線を維持する。		対象	バス事業者
			手段	地方バス路線維持費補助金の交付
			意図	市民の生活交通の維持、充実を図る。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	補助金	132,529,000	132,529,000
	使用料及び賃借料	38,000	37,360
合計		132,567,000	132,566,360

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金	上限額	4,963,000
	地方債		
	その他		
	一般財源	127,604,000	127,603,360
合計		132,567,000	132,566,360

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.2	1,153,699

交付税算入	有	会計種別	一般	経常
-------	---	------	----	----

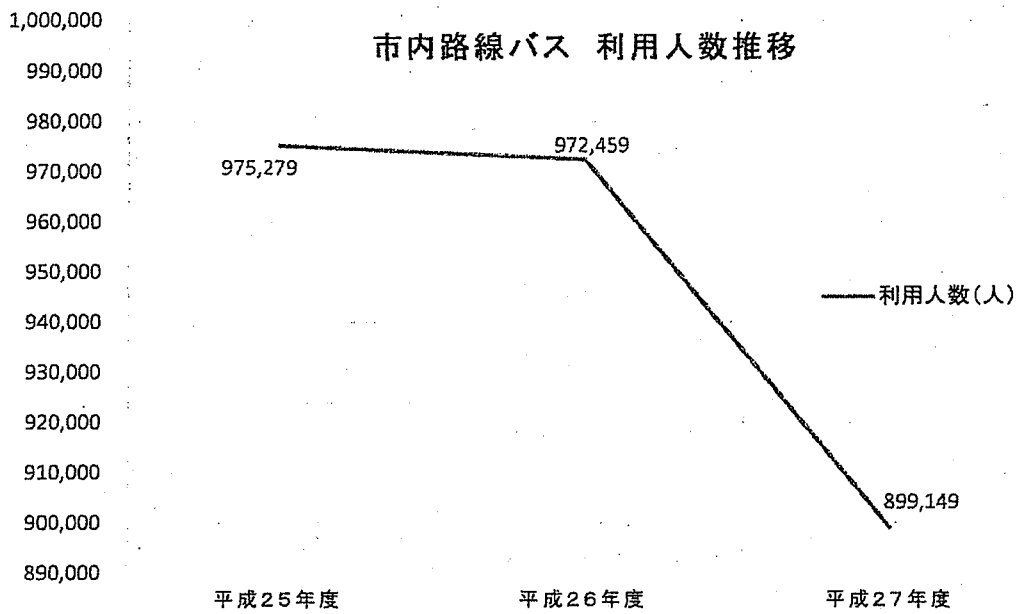
活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	1日当たりのバス利用者数	できるだけ多く 2,672人	できるだけ多く 2,664人	できるだけ多く 2,463人	目標達成度	できるだけ多く
2					普通	
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	バス路線を確保して、市民の生活交通の利便性を図る。
	自治体関与の妥当性	妥当である	生活交通の維持のため必要である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	バス路線維持のため妥当である。
有効性	目標達成度	概ね達成している	利用者数は減少しているが、バス路線の維持につながっている。
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	生活交通の充実を図る事業であり、貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	補助金交付要綱に基づき、適正に交付している。
	受益者負担の適正化	適正である	補助金交付要綱に基づき、適正に交付している。
	コスト効率	適正である	補助金交付要綱に基づき、適正に交付している。

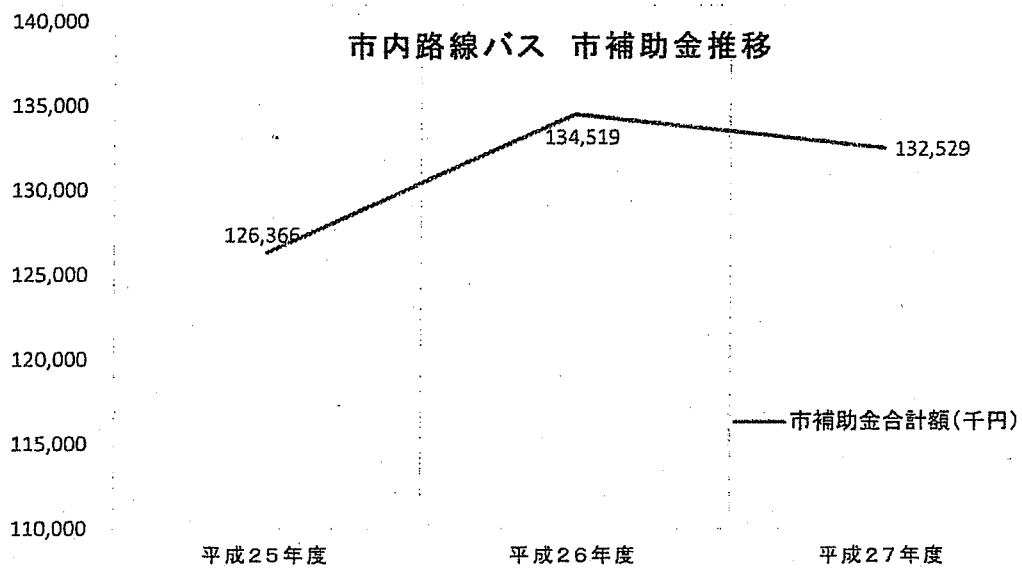
課題	バス利用者の減少により、地方バス路線維持費補助が高額化しており、負担となっている。バス路線については、高齢化や合併に伴う生活圏域の広域化等により、市民の移動手段のニーズは多様化しており、効率的、効果的な移動手段が必要となっている。 市民の移動手段を確保し、将来的に持続可能な地域公共交通を形成するため、山陽小野田市地域公共交通網形成計画に基づき事業を展開する。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--

## バスの利用状況について



	平成25年度	平成26年度	平成27年度
利用人数(人)	975,279	972,459	899,149



		平成25年度	平成26年度	平成27年度
市補助金合計額(千円)		126,366	134,519	132,529
内 訳	船木鉄道(千円)	108,762	117,400	112,682
	サンデン交通(千円)	15,800	15,510	18,299
	宇部市営(千円)	1,804	1,609	1,548

※年度は10月1日～9月30日(例:平成27年度:26.10.1～27.9.30)

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	12	魅力と活力ある産業の振興	2	商業・サービス業の活性化	2	商業振興支援の充実
	実施計画名			事務事業名		
8	商業振興支援事業	7	山陽小野田市地域通貨事業			

事業概要	介護ボランティア(いきいき介護支援サポーター)事業におけるボランティア登録者のポイントを地域通貨で発行し、市内の商業振興を図る。利用できる協力店については、登録事業所とし、地域通貨の換金については、小野田商工会議所、山陽商工会議所、小野田民主商工会で行う。	対象	介護支援ボランティア
		手段	介護ボランティアのポイントを地域通貨に交換、協力店で使用
		意図	地域経済の発展、市民の社会貢献活動支援

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	印刷製本費	320,000	64,800
	地域通貨業務委託料	22,000	0
合計		342,000	64,800

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	342,000	64,800
合計		342,000	64,800

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.15	865,274

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	地域通貨発行額(円)			20,000円	悪い	300,000円
				4,000円		
				20.0%		
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	地域経済の発展、市民ボランティアの増進につながるものであり、妥当と判断する
	自治体関与の妥当性	妥当である	地域の経済発展につながる事業であり、妥当と判断する。
	対象(受益者)の妥当性	検討が必要	流通量を増やすためには、対象者を増やす必要がある。
有効性	目標達成度	検討が必要	流通量を増やすためには、対象者を増やす必要がある。
	類似事業の存在	存在する	プレミアム付商品券発行事業
	上位施策への貢献度	貢献している	魅力と活力ある産業の振興に貢献できる事業である。
効率性	実施主体の適正化	検討が必要	商業振興を図る事業であるが、本来の地域通貨事業を行うには検討が必要
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	



課題	現状の介護ボランティア員を対象として発行する地域通貨(商品券)制度は、社会貢献事業としての意味合いはあるが、流通量の増加は見込めず、商業振興としての意味合いが弱い。ため、当事業の見直しを図り、商業振興施策に繋がる仕組みについて検討する。		
今後の方向性	事業の統合、規模、内容、実施主体の見直し等が必要	改善時期	28年度中に改善に着手

特記事項	
------	--



# 「山陽小野田市 地域通貨」事業の概要について

## 1 目的

---

市が発行する地域通貨を流通させることにより、市内における社会貢献活動を支援するとともに、本市経済の活性化を図ることを目的とする。

## 2 交付対象者

---

平成27年度は、山陽小野田市の介護支援ボランティア（いきいき介護サポーター）事業におけるボランティア登録者を対象とする。

## 3 登録事業者

---

小野田商工会議所、山陽商工会議所、小野田民主商工会の会員のうち、登録申請した事業所

※地域通貨を使用して買い物などをする人に対して、加盟店のお店が分かるようにチラシ、ホームページで周知するとともに、加盟店にステッカーを貼ってもらい、地域通貨が使えるお店であることを周知する。

## 4 発行する通貨

---

発行する地域通貨は、次のとおりとする。

- ・ 名称（単位）： n（ねたろう）
- ・ 地域通貨の発行形式：紙幣発行形式
- ・ 紙幣の有効期限は発行日より6か月とする。表面に発行日、有効期限を記入する。  
※地域通貨を現金と交換することはできない。（買い物時のつり銭はでない）

※換算レート 1n（ねたろう）＝ 1円

※発行券種類 1,000n（1,000円）

500n（500円）

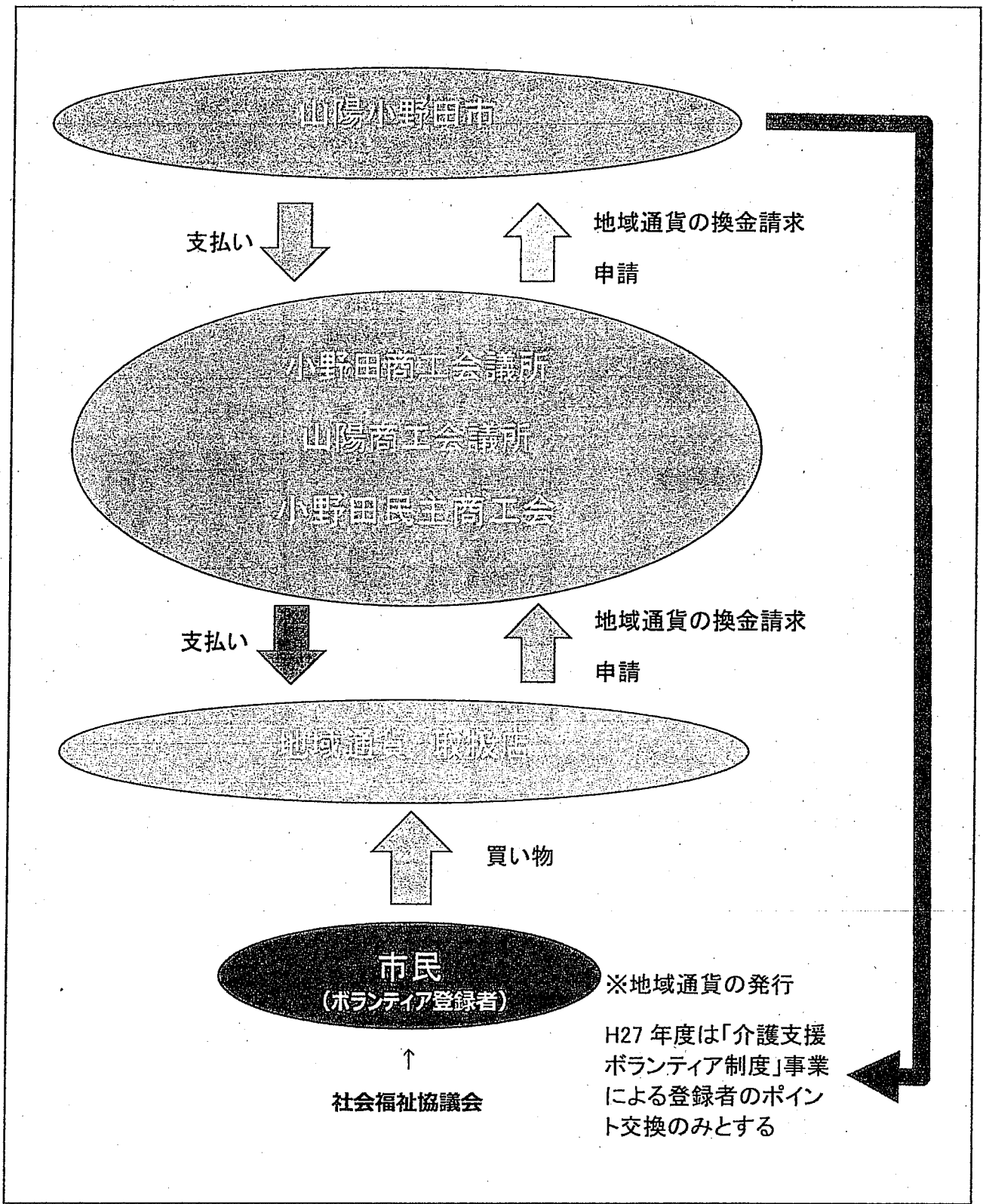
100n（100円）の3種類

【偽造防止策】①蛍光インク（ホロブラフ等）を使用

②通し番号を記載する。

③発行日及び有効期限を記載する。

○地域通貨の流れ



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	12	魅力と活力ある産業の振興	7	観光・交流の振興	2	情報発信・誘客体制の強化・充実
	実施計画名			事務事業名		
	観光推進組織支援事業		観光協会運営支援事業 (観光パンフレット作成含む)			

事業概要	観光に関わる様々な人材が所属する山陽小野田観光協会の運営を財政的・人的に支援することを通し、交流人口の増加を促し、観光振興を図る。		対象	山陽小野田観光協会
			手段	運営補助金交付、事務局業務
			意図	交流人口の増大による観光振興

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	負担金、補助及び交付金	3,485,000	3,485,000
	合計	3,485,000	3,485,000

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
一般財源	100	3,485,000	3,485,000
合計		3,485,000	3,485,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	1.05	6,056,920

交付税算入	無	会計種別	一般	経常・臨時
-------	---	------	----	-------

活動指標または成果指標		※上段:目標 中段:実績 下段:達成率				
1	市の観光客数	H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
		920,000人	980,000人	980,000人		990,000人
2	山陽小野田名産品認定数(3月31日現在)	977,051人	968,010人	975,492人	良い	
		103%	99.00%	99.54%		
3	県内外での観光及び名産品PRの出展件数	30品目	32品目	33品目		34品目
		31品目	29品目	34品目		34品目
		103.30%	90.00%	103.00%		10件
		5件	5件	7件		
		5件	9件	10件		
		100.00%	180.00%	142.00%		

妥当性	目的の妥当性	妥当である	市の観光振興に最も寄与する団体であり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	市の観光振興に最も寄与する団体であり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	市の観光振興に最も寄与する団体であり、妥当である。
有効性	目標達成度	達成している	観光情報発信や、名産品推奨などを実施し、観光振興を図っている。
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	観光事業を多く実施している。
	受益者負担の適正化	適正である	会費のみでは十分な財源が確保できないので、補助金交付は適正である。
	コスト効率	概ね適正である	事務局職員を市職員が兼ねているが、自主運営移行まで当面やむをえない。

課題	山口県内の自治体において、法人格を有する観光協会等が多い中、本市においても協会の法人化について検討が必要である。		
今後の方向性	事業の進め方等に改善が必要	改善時期	29年度以降、改善する予定

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり	5	生活交通の充実	1	生活道路の整備
	実施計画名			事務事業名		
5	小規模土木事業		1	小規模土木事業		

事業概要	生活に密接する公共性の高い道路等を整備する自治会に補助金を交付する。 事業費限度額:200万円 補助率:80%		対象	市民(自治会)
			手段	自治会の事業を審査し、補助金を助成
			意図	市民の生活環境の向上を図る

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	負担金、補助及び交付金	41,321,000	41,321,000
	合計	41,321,000	41,321,000

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
一般財源	100	41,321,000	41,321,000
合計		41,321,000	41,321,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	1.15	6,633,769

交付税算入	無	会計種別	一般	経常・臨時
-------	---	------	----	-------

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

1 実施件数	活動指標または成果指標	H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
		50	55	65	かなり良い	55
		47	51	74		
	94.00%	93.00%	114.0%			
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	住民のニーズが高く、事業は妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	公共性の高い道路等を整備することへの助成は妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	自治会を対象としているので妥当である。
有効性	目標達成度	達成している	待機件数は増えてはいるが、事業費不足の結果であり、概ね達成している。
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	事業は市民の生活環境の向上に貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	自治会を対象としているので適正である。
	受益者負担の適正化	適正である	補助金の割合は適正である。
	コスト効率	適正である	工事費の見積りをチェックしており適正である。



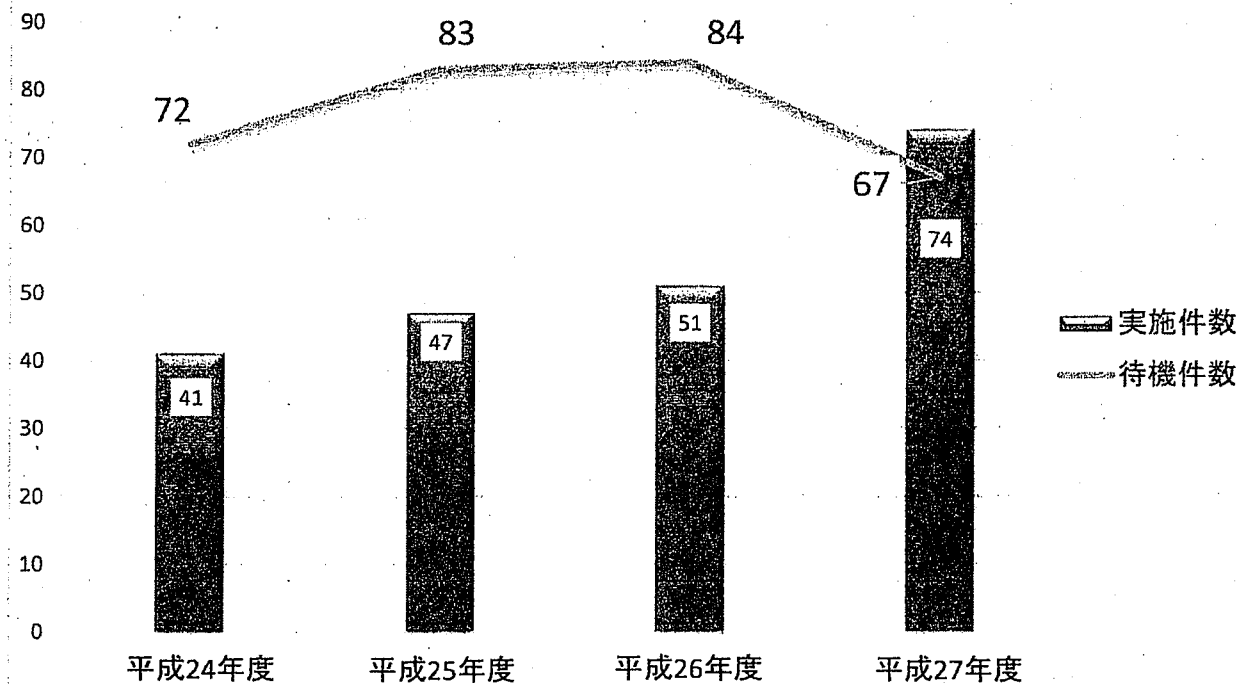
課題	平成28年度申請受付分より補助率を70%としている。需要の高い事業のため、実施まで数年待ちの状態が続いており、検討が必要である。		
----	--	--	--

今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	
--------	------------------	------	--

特記事項	
------	--

年度	決算額	実施件数	待機件数
平成24年度	30,194,000	41	72
平成25年度	27,790,000	47	83
平成26年度	34,714,000	51	84
平成27年度	41,321,000	74	67

### 小規模土木事業年次推移



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	4	市民が安心して暮らせる環境づくり	5	交通安全と治安の確保	2	交通安全環境の整備
	実施計画名			事務事業名		
3	通学路安全対策事業		1	通学路安全対策事業		

事業概要	小・中学校の通学路の安全確保を目的に、道路管理者と学校・保護者・警察等が連携して行なった合同点検により抽出された要対策箇所について、防災・安全交付金を活用して、路側帯や歩道の整備を行なう。	対象	自転車、歩行者(児童・生徒)
		手段	路側帯の整備(路肩の拡幅、カラー舗装化、側溝の蓋掛け)、歩道の整備
		意図	通学路の安全環境向上

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	工事請負費	29,282,920	16,285,960
	公有財産購入費	2,378,202	2,378,202
	補償補填及び賠償金	717,089	717,089
	合計	32,378,211	19,381,251

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金 55%	17,493,000	10,518,000
	県支出金		
	地方債 90%	10,200,000	7,700,000
	その他		
一般財源 5%	4,685,211	1,163,251	
合計	32,378,211	19,381,251	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.25	1,442,124

交付税算入	有	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	路側帯整備延長		整備延長 144m	整備延長 90m		整備延長
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	路側帯の整備は通学路の安全向上につながるものであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	市道は市が整備すべきであり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	道路利用者の多くは市民であり、妥当である。
有効性	目標達成度		
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	道路整備により安全環境は向上しており、貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	市道は市が整備すべきであり、適正である。
	受益者負担の適正化	適正である	市道の整備は市の負担で行なうものであり、適正である。
	コスト効率	適正である	施工金額を指名競争入札で決定しており、適正である。

課題	社会資本整備総合交付金の交付額が減ってきており、事業進捗に影響が出ている。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	平成28年度へ工事請負費12,996,960円繰越
------	---------------------------

## 1. 平成27年度通学路危険箇所対策箇所数(参考)

中学校区	市道関係箇所数	対策済
高千帆中学校区	15	3
小野田中学校区	12	2
竜王中学校区	3	1
厚狭中学校区	10	5
埴生中学校区	7	1
厚陽中学校区	0	0

## 2. 上記の内通学路安全対策事業にて完了または、整備中の路線

完了: 市道小野田山手1号線、市道日の出町船越線、市道長沢大須恵線

整備中: 市道須賀大須恵線、市道高泊千崎線

対策完了箇所: 市道小野田山手1号線(小野田中学校区)



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	13	活気にみちた往来の盛んなまちの基盤づくり	1	適正な土地利用の推進	2	市街地の整備
	実施計画名			事務事業名		
13	コンパクトなまちづくりモデル推進事業		1	コンパクトなまちづくりモデル推進事業		

事業概要	山口県創設の「コンパクトなまちづくりモデル事業」に採択された厚狭駅周辺について、基本構想を策定し、それを基に事業を進めていくモデル地区を設定するための基本計画の策定やまちづくりの先行的な取り組みであるコーポラティブ方式の導入について検討していく。		対象	厚狭駅周辺	
			手段	コンパクトなまちづくりモデル事業に基づく整備	
			意図	厚狭駅周辺地区に相応しい良好な市街地の形成	

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	合計	0	0

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
一般財源			
合計	0	0	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.8	4,022,989

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25		H26		H27		目標達成度	H28(目標)
1	基本構想の策定	調査	完了	完了		企画作成 未作成 0%	普通		市民説明会
		完了	100%	完了	100%				
2	コーポラティブ住宅の推進に向けた企画調整								
3	魅力を高める施策の検討								協議

妥当性	目的の妥当性	妥当である	有効な土地利用と市街化の進展に寄与するものであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	モデル事業として市が施行すべきであり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	

課題	戸建住宅の分譲を進めるためには、まちの魅力を高める施策が必要である。 戸建住宅整備計画を進めるためには、地権者との合意形成が必要である。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	13	活気にみちた往来の盛んなまちの基盤づくり	1	適正な土地利用の推進	2	市街地の整備
	実施計画名			事務事業名		
5	JR小野田駅周辺地区整備事業	1	小野田駅前土地区画整理区域整備事業			

事業概要	住民意向調査や地元説明会等により、合意を得た後、道路や公園などを直接買収方式により整備し、区画整理事業と同等の整備水準とすることで、土地利用制限の解除を行う。事業メニューは、都市再生整備計画事業(旧まちづくり交付金事業)を予定している。	対象	小野田駅前土地区画整理事業区域の未施行区域
		手段	直接買収方式による整備を行う。
		意図	駅前地区に相応しい良好な市街地の形成を図る。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	計画策定委託料	1,300,000	1,242,000
合計		1,300,000	1,242,000

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	1,300,000	1,242,000
合計		1,300,000	1,242,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.6	3,461,097

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
		(随時)	(随時)	(随時)		(随時)
1	合意形成に向けた住民への説明会等の開催回数	0	3	7		
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	有効な土地利用と市街化の進展に寄与するものであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度		
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	

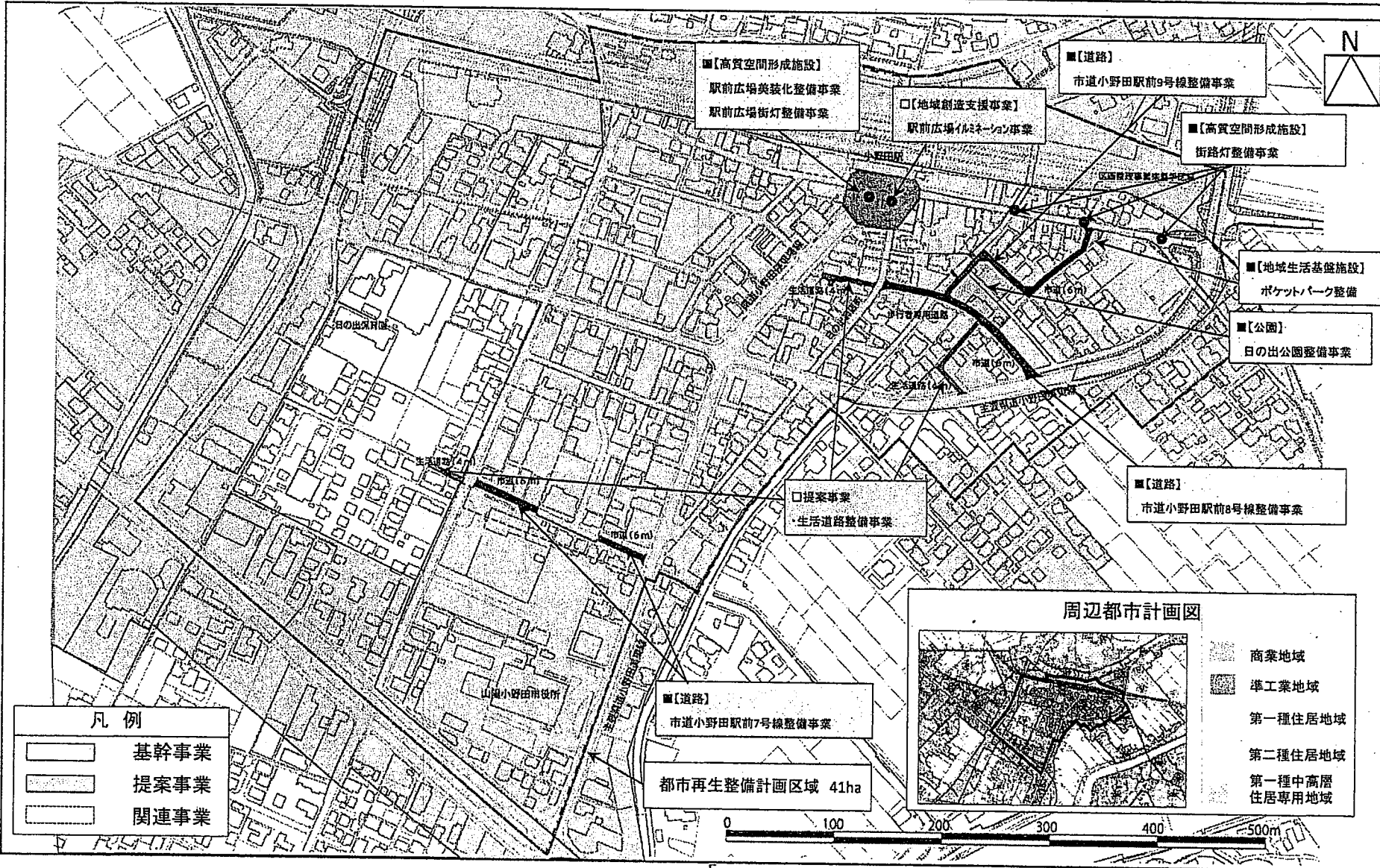


課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	平成27年度に小野田駅前地区都市再生整備計画を策定した。
------	------------------------------

# 小野田駅前地区(山口県山陽小野田市) 整備方針概要図

目標	大目標 小野田駅前地区の活気と活力の再生と人口定住を促進する市街地の整備 目標① 駅前広場の環境整備を行い、駅前の賑わいを向上させます 目標② 道路、公園などの整備を行い、安全で快適な居住環境を提供します	代表的な指標	駅前商店街通りの通行者数	229 人 ⇒ 260 人
			計画区域内の居住人口	1,331 人 ⇒ 1,384 人
				⇒
				⇒



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり	2	公園・緑地の整備・保全	1	都市公園の整備・管理
	実施計画名			事務事業名		
2	開設公園維持管理事業		1	江汐公園管理運営事業		

事業概要	公園施設の維持管理、破損箇所の補修、有料公園施設の受付及び料金徴収、公園内の行為許可、公園内の占用許可などを行う。平成25年4月1日から指定管理者制度による管理運営を行っている。		対象	江汐公園	
			手段	指定管理者制度による管理運営	
			意図	快適な公園環境の整備・管理	

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	江汐公園指定管理者委託料	24,686,000	24,685,714
合計		24,686,000	24,685,714

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	24,686,000	24,685,714
合計		24,686,000	24,685,714

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.25	1,392,925

交付税算入	有	会計種別	一般	経常
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	来園者数	160,000	160,000	176,000	普通	176,000
		162,634	174,249	174,985		
		102%	109%	99%		
2						
3						

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

妥当性	目的の妥当性	妥当である	公園施設は市により維持管理すべきである。
	自治体関与の妥当性	概ね妥当である	
	対象(受益者)の妥当性	概ね妥当である	
有効性	目標達成度	概ね達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	公園の整備保全を達成し、誰もが快適に暮らせるまちづくりに貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	公園施設は市により管理すべきである。
	コスト効率	概ね適正である	



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	
------	--

江汐公園利用者状況

単位：人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比	
テニス	27	市内	285	359	262	344	290	326	346	352	317	247	239	193	3,560	103.00%
		市外	255	291	201	310	362	253	247	135	169	152	129	216	2,720	
		県外	0	5	2	0	14	2	2	0	0	0	0	0	3	
		小計	540	655	465	654	666	581	595	487	486	399	368	412	6,308	
	26	市内	354	275	208	366	290	322	303	323	257	248	284	238	3,468	
		市外	111	352	206	239	374	157	154	185	165	177	178	336	2,634	
		県外	6	0	0	0	2	0	0	0	6	6	0	2	22	
		小計	471	627	414	605	666	479	457	508	428	431	462	576	6,124	
	25	市内	267	312	228	331	273	287	389	378	224	247	268	314	3,518	
		市外	238	306	222	217	246	199	180	130	171	170	162	300	2,541	
		県外	0	0	54	2	67	4	0	0	17	0	0	0	144	
		小計	505	618	504	550	586	490	569	508	412	417	430	614	6,203	
キャンプ	27	市内	23	172	8	131	122	22	25	0	0	5	0	4	512	131.40%
		市外	14	80	20	2	42	68	76	20	2	0	1	14	339	
		県外	2	27	5	0	8	23	7	8	0	0	0	19	99	
		小計	39	279	33	133	172	113	108	28	2	5	1	37	950	
	26	市内	11	81	5	84	0	5	15	38	60	0	0	0	299	
		市外	24	127	7	8	16	37	30	32	10	2	19	17	329	
		県外	1	47	1	0	5	31	0	2	0	0	0	8	95	
		小計	36	255	13	92	21	73	45	72	70	2	19	25	723	
	25	市内	33	35	8	110	0	0	25	0	0	0	0	0	211	
		市外	29	111	32	0	13	20	13	18	2	6	5	30	279	
		県外	7	33	0	2	15	7	0	3	0	0	0	0	67	
		小計	69	179	40	112	28	27	38	21	2	6	5	30	557	
講義室	27	24	90	100	24	435	60	283	0	50	0	40	0	1,106	66.35%	
	26	194	173	60	140	80	40	640	113	60	0	0	167	1,667	89.48%	
	25	60	225	113	60	105	50	212	908	20	50	35	25	1,863	-	
来園者数	27	22,670	19,340	12,521	9,196	6,012	14,633	16,586	15,049	8,110	9,051	10,683	22,770	166,621	100.53%	
	26	25,750	18,775	12,650	8,370	7,650	11,060	13,070	13,530	7,600	11,120	11,450	24,710	165,735	107.61%	
	25	25,571	18,170	11,570	6,630	5,810	8,320	14,150	12,820	8,280	11,990	11,440	19,260	154,011	-	
総合計	27	23,273	20,364	13,119	10,007	7,285	15,387	17,572	15,564	8,648	9,455	11,092	23,219	174,985	100.42%	
	26	26,451	19,830	13,137	9,207	8,417	11,652	14,212	14,223	8,158	11,553	11,931	25,478	174,249	107.14%	
	25	26,205	19,192	12,227	7,352	6,529	8,887	14,969	14,257	8,714	12,463	11,910	19,929	162,634	-	

様式第4号

平成28年(2016年)5月31日

山陽小野田市長 様

江汐公園指定管理者  
株式会社 晃 栄  
代表取締役 井 上 雄 治 印

江汐公園における平成27年度の公園管理に関する事務について、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第7項の規定により、下記のとおり報告します。

記

報告する事項

- 1 利 用 実 績 報 告 書
- 2 維 持 管 理 実 務 実 績 報 告 書
- 3 自 主 事 業 実 施 報 告 書
- 4 修 繕 箇 所 報 告
- 5 利 用 状 況 分 析
- 6 収 支 決 算 書
- 7 自 己 評 価

# 利用実績報告書

平成27年度

施設名	江汐公園
指定管理者の名称	株式会社 晃栄

利用実績

(1) 利用件数

有料施設利用件数									
キャンプ場利用			テニス場利用			講義室利用			合計
一泊	デイ	小計	一般	減免	小計	一般	減免	小計	
78	51	129	547	91	638	39	3	42	809

(2) 利用人数

有料施設利用人数										他来園者数	合計
キャンプ場利用			テニス場利用			講義室利用			合計		
一泊	デイ	小計	一般	減免	小計	一般	減免	小計			
459	491	950	4,887	1,421	6,308	806	300	1,106	8,364	166,621	174,985
内幼児	内幼児	計									
24	31	55									

(3) 地域別利用状況

キャンプ場	市内	市外	県外	テニス場	市内	市外	県外
件数	30	61	38	件数	313	314	11
人数	512	339	99	人数	3,560	2,720	28

(4) 施設使用料

有料施設利用金収入									
キャンプ場利用			テニス場利用			講義室利用			合計
一泊	デイ	小計	一般	減免	小計	一般	減免	小計	
82,800	81,800	164,600	1,488,920	205,600	1,694,520	43,590	1,665	45,255	1,904,375

(4) その他(備品・電気代等)

有料施設利用金収入		
キャンプ場その他	講義室その他	合計
16,980	4,500	21,480

2. 維持管理業務実績報告

管理業務項目	実施箇所	規模単位	年間実施回数	時期
巡回業務	園内全域	一式	毎日	毎日実施
受付業務	テニスコート・キャンプ場の有料施設の申請許可、使用料徴収他	一式	毎日	12/28～1/3定休日以外全て実施
点検業務	管理棟内外	一式	毎日	12/28～1/3定休日以外全て実施
	浄化槽(点検・調整)	2箇所	週1回	毎週月曜日実施
		5箇所	2か月1回	4・6・8・10・12・2月実施
	トイレ汲み取り	3箇所	随時	5・2月実施
	浄化槽(法定検査)	7箇所	年1回	12月実施
	浄化槽(清掃)			3月実施
	キャンプ場内、テニスコート内	一式	利用後随時	巡回時実施
	電気工作物の定期点検	一式	毎月1回	4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月
	遊具	一式	年2回 月1回	6・3月実施 巡回時目視点検実施
	消防設備の機能点検総合点検	一式	年2回	5・2月実施
清掃業務	管理棟内外清掃	一式	毎日	毎日実施
	第1・2駐車場ゴミ拾い	一式	毎日	毎日実施
	舗装敷きの外周園路、第1・2駐車場落葉清掃・ゴミ拾い	一式	週1回	落葉清掃:4・5・8・9・11・12・1・2・3月実施 ゴミ拾い:巡回時実施
	園内全域の園路際側溝・駐車場の側溝等清掃	一式	年1～2回以上	9・10・11・12・1・2月実施
	各トイレ清掃	一式	週3回以上	毎週月・水・金曜日実施
	テニスコート・トイレ・更衣室・ベンチ等	一式	週3回以上	毎週月・水・金曜日実施 巡回時実施
	キャンプ場の炊飯棟、サイト等	一式	随時	巡回時実施
緑地管理業務	外周園路及びアスファルト舗装園路周辺の草刈(全域)	一式	年3回以上	6・7・10・11・12・1・2月
	どんぐりの森・さくらの森等の散策道(園路)の草刈	一式	年2～3回	5・6・7月実施
	アスファルト舗装内雑草の薬剤処理	一式	年2回	6・7・10・11月実施
あじさい園	あじさい園周辺草刈及び植栽箇所の除根	一式	年3回	6・9・11月実施
	施肥・液肥散布	一式	年1回	6・10月実施
	あじさい剪定	一式	年1回	8・9・10月実施
バラ園	施肥(果実リサイクル堆肥、海藻粉砕物等)	一式	年3回	4・7・9・10・2月実施
	害虫天敵線虫散布・病害忌避資材散布	一式	年7回	4・5・6・7・8・9・10・11・2・3月実施
	除根	一式	年4回	4・5・6・7・8・9・10・11・12・3月実施
	剪定	一式	年4回	5・6・7・8・9・10・11・1・2・3月実施
キャンプ場	バラ補植	一式	年1回	5・11・12・1月
	サイト内の芝刈及び草刈	一式	年3回	6・7・8・11月実施
	サイト内の芝生の除草剤散布	一式	年1～2回	11月実施
第1・2駐車場管理	サイト内の芝生の施肥	一式	年1回	実施せず
	周辺・植樹帯内の草刈	一式	年3回	6・7・10月実施
自由広場ゲートボール場	芝刈	一式	年3回	6・10月実施
	芝生地除草剤散布	一式	年1～2回	実施せず
	芝生施肥	一式	年1回	実施せず
芝生広場 グリーン広場 管理棟前	芝刈	一式	年3～8回	4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月実施
	芝生除草剤散布	一式	年1～2回	実施せず
	芝生施肥	一式	年2～3回	6・10月実施
	芝生エアレーション	一式	年2回	6・9月実施
テニスコート	オーバーシード	一式	年1回	9月実施
	周辺法面草刈	一式	年1～2回	4・11月実施
	コート内のブラシ掛け等	一式	随時	実施せず
江汐公園進入口	テニスコート内砂入れ	一式	随時	実施せず
	中央分離帯 草刈	一式	初年度1回	6・10月実施
園内全域の樹木管理	園内全域の中低木剪定(主にツツジ類)	一式	年1回	6・7・8・9・10月実施
	園内にある高木で特に剪定を必要とするもののみ	一式	年1回	5・6・7・8・9・11月実施
	園内にある樹木で害虫の発生が予想されるもののみ防除	一式	年1～2回	-
	園内にある樹木で樹勢が悪いものを樹勢回復作業	一式	年1回	2・3月実施
台風等の対策など臨時措置	園内の全施設、台風前後の措置(倒木伐採、養生掛け・撤去等)	一式	随時	8・9・10・11月実施
各施設の補修	各施設及び園路舗装等補修	一式	随時	遊具補修、台風による外灯修理他
売店業務	飲食物の販売、キャンプ場備品の販売	一式	週5日以上営業	12/28～1/3定休日以外全て実施
夜間啓蒙	管理棟機械整備	一式	毎日	毎日実施

3. 自主事業実績報告

自主事業名	自主事業の概要	実施日 (実施時間)	参加人数 (観客数)	備考
第47回つつじまつり	式典、餅まき 飲食バザー EJIOスタンプラリー つつじ山観察会	4/20 (日)	5000人	雨天の為規模縮小
第19回 あじさいまつり	講義室でのあじさい展示 バードウォッチング 苗木抽選会 飲食バザー 苗木販売 (あじさい・バラ)	6/14(日)	2500人	
第21回 アドベンチャーワー ルド	子供対象 カブトの採集・飼育講習会、夏 休みの工作教室、お楽しみイ ベント	7/18 (土)	1000人	
第24回 椿まつり inEjio	早春のふれあいを求めて 椿の展示 苗木抽選会 もちまき ステージ発表 飲食バザー フリーマーケット グランドゴルフ大会 バードウォッチング つばきART	3/21 (月・休)	8000人	
Ejioウォークラリー	秋の江汐を満喫 ウォークラリー大会 (テニス・火お越し・ニュー スポーツ体験ほか)	10/12 (月・祝)	40人	



4. 修繕箇所報告

①修繕の実績

※消費税抜き金額

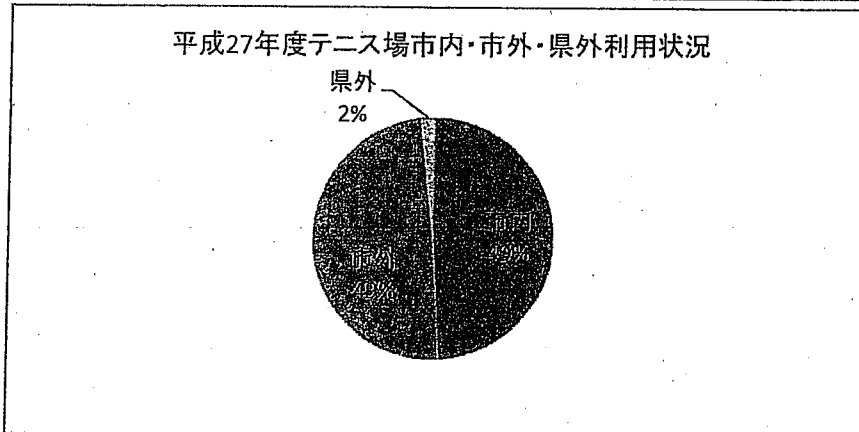
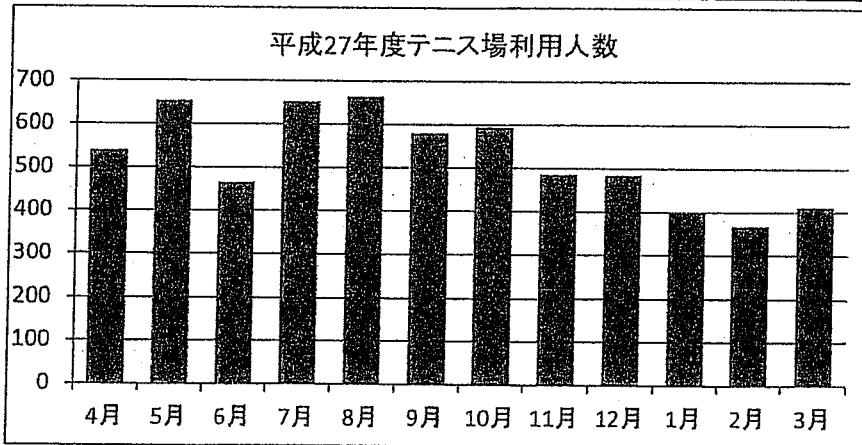
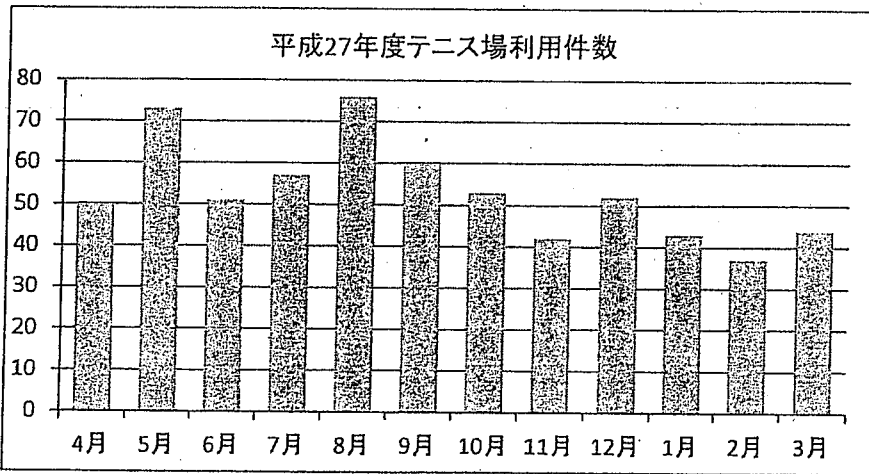
公園施設名	修繕内容	修繕額 (円)	備考
管理棟	男子トイレ手洗器修理	23,300	
冒険の森	ローラーすべり台修理	15,640	
管理棟	男子トイレ給水管漏水修理	8,800	
冒険の森	ローラーすべり台修理	70,000	
第一駐車場身障者トイレ	女子トイレドア開閉修理	14,000	
貸自転車	自転車修理	5,370	
冒険の森	ローラーすべり台修理	34,000	
管理棟	蛍光灯安定器交換工事	28,000	
第一駐車場身障者トイレ	男子トイレ出水不良修理	24,500	
第一駐車場身障者トイレ	凍結による自動水栓修理	73,500	
冒険の森	凍結による給排水破損修理	105,000	
第二駐車場及びキャンプ場トイレ	凍結による給排水破損修理	39,700	
あじさい園	凍結による男子トイレ修理	46,600	
冒険の森	ローラーすべり台修理	37,000	
合計	13件	525,410	

②修繕を要する箇所

公園施設名	修繕内容	所要見込額 (円)	備考
合計	件		

5. 利用状況分析

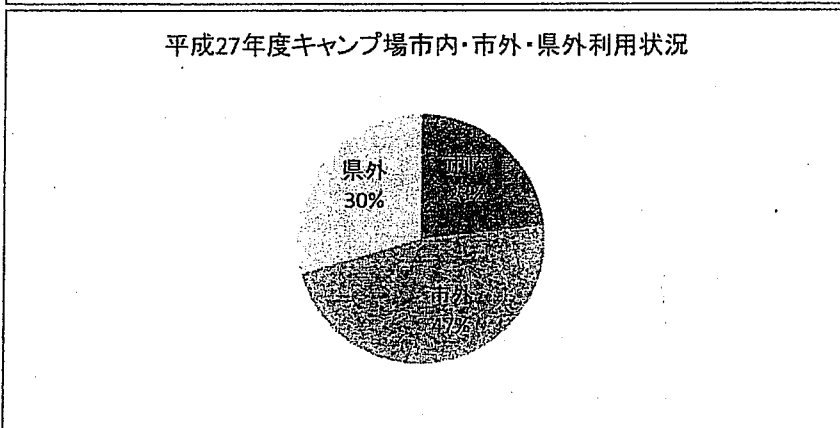
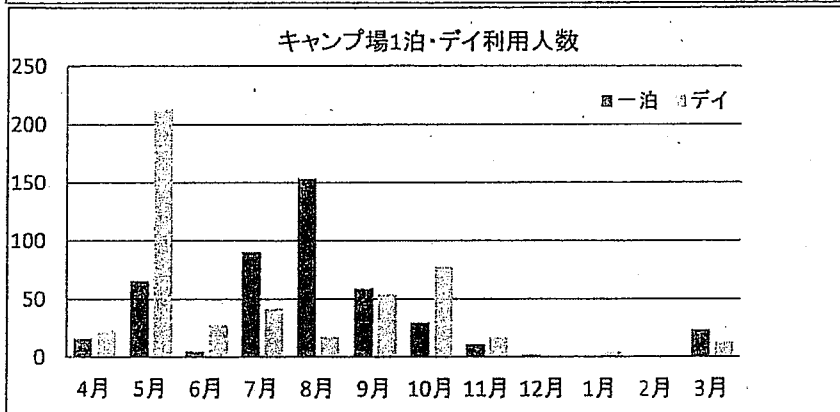
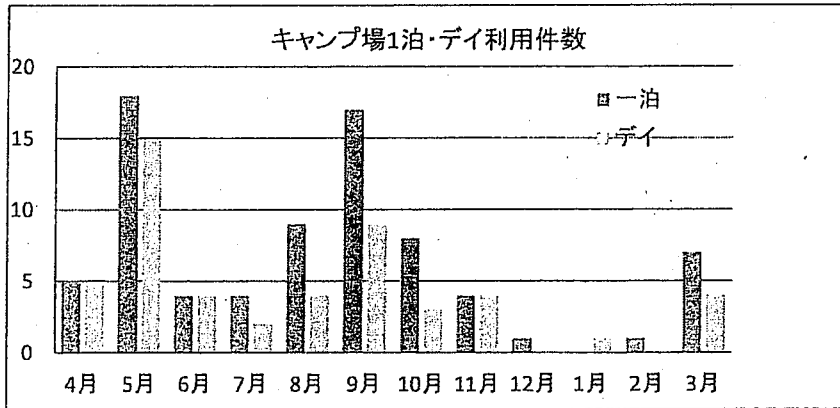
平成27年度テニス場利用状況



- ・ 利用件数・人数とも26年度とほぼ同じ数である。
- ・ コート面の状態が悪化してきており、利用者のけがや事故が懸念される。
- ・ 自己都合や無断のキャンセルが多い（特に土・日・祝日）。

5. 利用状況分析

平成27年度キャンプ場利用状況



- ・ 26年度に比べて、利用件数・人数ともに増加した。特に夏場の利用が多かった。
- ・ 秋から春にかけてイノシシがサイト内の地面を掘り返すため、芝の修復や整地に苦労した。

## 6. 収支決算書

※消費税抜き

## I 収入

単位：円

区 分	平成27年度
(1) 指定管理料	22,857,142
(2) 利用料金等 (①+②+③)	14,473,728
① 有料公園施設使用許可関連収入	1,786,450
② 売店及び自動販売機収入	12,635,461
③ その他	51,817
収入合計 (A)	37,330,870

## II 支出

単位：円

区 分	平成27年度
(1) 人件費	14,113,512
労務費	12,544,938
法定福利費他	1,568,574
(2) 管理費	25,922,938
① 需用費	4,396,994
水道光熱費	3,328,931
車両燃料費	146,735
消耗品費	395,918
修繕費	525,410
② 役務費	217,828
通信費	75,273
保険料	136,999
広告宣伝費	5,556
③ 施設維持管理費 (委託料)	15,256,148
緑地管理費	13,511,063
警備委託料	240,000
浄化槽維持管理費	1,000,000
電気保安管理委託料	156,000
消防用設備他保守点検	48,000
遊具点検	120,000
汲み取り	89,288
浄化槽法定検査	38,797
音響設備委託	53,000
④ 使用料及び賃借料	420,787
使用料・賃借料	420,787
⑤ 原材料費	4,471,406
食材・売店販売品	4,471,406
⑥ 負担金	
⑦ 事務雑費	399,848
事務用消耗品費	399,848
⑧ 租税公課	4,067
自動車税他	4,067
⑨ その他諸経費	755,860
支出合計 (B)	40,036,450

Ⅲ 収支見込

単位：円

	金額
収入合計 (A)	37,330,870
支出合計 (B)	40,036,450
収支差額	△ 2,705,580

Ⅳ 再委託実績一覧

※消費税抜き金額

再委託業務の名称	再委託業務の内容	再委託予定金額 (円)	契約の方法	委託先
施設機械警備	管理棟機械警備	240,000	継続	セコム(株)
消防設備点検	消防設備点検	56,000	継続	セコム(株)
遊具点検	遊具点検	240,000	継続	(株)ジャクエツ
自家用電気工作物	保安管理	156,000	継続	川崎電気保安管理事務所
浄化槽点検	浄化槽保守点検	1,000,000	継続	長陽衛生社
公園の維持管理	除草及びトイレ清掃・通路清掃管理	2,548,400	継続	まつば園
合計	6件	4,240,400		

## 7. 自己評価

### ・バラ園について

今年度は、バラの樹勢回復を徹底して管理をしました。  
土壌改良・新苗植付け・定期的な液肥散布を入念に行いました。春先の目立ちも良いようにかんじました。

### ・園内について

今年度は、日頃行き届かなかった、四季の丘や園路沿いの緑地管理に力を入れました。

四季の丘は、見通しも悪く足が向かないような場所でした。しかし、四季の丘はその名のとおり花が咲く樹木や野鳥を身近に感じられる場所で、いろんな人が安心して立ち寄れる癒されるような場所を目指しました。込み合った木は間引き四季で楽しめる樹木がいかされるよう管理をしました。管理をする中で、お客様から歩きやすくなりましたなどのお言葉もありました。

その他江汐公園の魅力である湖は、散策しながら江汐湖が見通せる、明るい園路を目指し管理をしました。

### ・低木管理について

園路沿いの低木の管理は、常に見通しの良い管理を徹底しました。

### ・冒険の森について

遊具周辺の土の流失等で、基礎がむき出しになって危険な所や踏圧や雨水による土流失などがある箇所は、基礎部分に土嚢や真砂土の補充・芝生補修を行いました。まだ危険な個所などはこれからも補修を行っていききたいと思います。

ローラーすべり台は、ローラーの破損がとて多く巡回時には常にチェックを行い、専門業者により修繕を徹底して行いました。

### ・イノシシ被害について

今年度は、イノシシ被害が拡大していました。キャンプ場やトンボ池・グリーン広場・つつじ山等全域に被害が出ています。被害がある場所は整地や木酢液散布や忌避剤を用いて対処してきました。どれも効果が殆どなく翌日には被害が出ていました。お客様からの不安だという問い合わせも多くありました。

### ・キャンプ場について

キャンプ場は、江汐湖に面しており、今までは水辺が見えないくらい樹木が繁茂していました。今年度は樹木を間引き江汐湖が見通せるように管理しました。どのサイトからでも江汐湖を見通せる明るいキャンプ場になったと思います。

### ・サイトの大きさについて

キャンプ場のサイトの大きさについて、近年のテントの大きさが大きくなっており、小さいサイトでは1張り張れないサイトが幾つかあります。サイトの大きさ等を調査し拡大できるところは、市へ提案してお客様が安心して安全にキャンプできるように改善していききたいと思います。

### ・幼児向けの楽しめる場所

アンケートから良くある要望で、幼児でも楽しめる場所があったらという要望が多くあります。今年度利用促進で、幼児でも楽しめるアニマルベンチの設置を考えていましたが、できませんでした。

最近の江汐公園に来られるお客様は、晴れた平日でも若い子供連れの方が多く感じます。来年度は幼児でも楽しめる空間を提供できたらと思います。それと付随して、安心して授乳やおむつ替えができる場所も改善していききたいと思います。

### ・草花管理について

今年度は管理棟周辺にプランターを増やし、いつ来ても花がある明るい公園を目指し、一年中楽しめるように管理しました。夏場の水管理には苦戦しましたが、いつ来ても楽しんでいただける空間を提供できたらと思っています。

# 指 定 管 理 者 評 価 表

施 設 名	江汐公園					
指 定 管 理 者	株式会社 晃栄					
指 定 期 間	自	H25.4.1	至	H28.3.31	指 定 期 間	3.0 年
評 価 対 象 年 度	平成27年度			施 設 所 管 課	都市計画課	
指 定 管 理 料	24,685,714 円			評 価 年 月 日	平成28年7月7日	
利 用 料 金 制 度	有			ア ン ケ ー ト	実施	
選 定 方 法	公募			単 独 指 定 回 数		

	項 目	評 価	コ メ ン ト 欄
管理運営の状況	開館日数及び開館時間は適切か	3	台風時2日ほど閉園、あとは条例、仕様書どおり
	保守管理業務は適切に行われたか	3	条例、仕様書とおり
	清掃業務は適切に行われたか	3	条例、仕様書とおり
	保安警備業務は適切に行われたか	3	条例、仕様書とおり
	外構や植栽等の管理は適切に行われたか	3	条例、仕様書とおり
	事故、苦情及び緊急時の対応は適切であったか	2	事故なし、苦情処理簿の作成を指示
	事故、苦情及び緊急時の市への連絡は適切であったか	2	適切であった。(苦情処理簿のコピーの提出を指示)
	個人情報の管理は適切か	3	適切であった。(鍵付ロッカーに保管している)
	現金の管理は適切か	3	金庫に保管(2日に1度本社に納入)
	減免申請に対する取り扱いは適正か	2	申請書を受けてないケースがある。(市の行事等)
	修繕は適切に行われたか	3	凍結による水道の修繕が多い。
	各種報告書等は遅滞なく提出されたか	1	計画書、報告書は期限を厳守すること。
人員配置等	人員配置は適切か	2	別①に詳細を記入してください
	必要な有資格者は適切に配置されているか	3	配置されている。
	労働条件は適切か	3	労働基準法は遵守されている。
	職員の資質向上を図る取組(職員研修)は適切に行われたか	2	職員研修は行っていない。(接遇、救命救急等実施すること)
事業実施	事業計画どおりに事業が実施されたか	2	計画していた事業で未実施の事業があった。
	講座やイベントは満足できる内容であったか	3	満足度チェックをするよう指示
	施設の設置目的に沿った自主事業を行ったか	3	行なっている
サービス向上	アンケート等により利用者ニーズの把握に努めているか	3	実施されている
	利用者の苦情・要望を反映させる取組を行っているか	3	行なっている
	接客態度は良いか	3	特に苦情等なし。
	HP等による広報活動は効果的に行われたか	3	頻繁に更新している。
	特定の利用者を有利又は不利に扱っていないか	3	公平に取り扱っている
	利用者の満足度は高いか	2	アンケートに満足度チェックを入れては？
	利用者サービスの向上を図る取組は行われたか	3	来園者の要望、苦情には可能な限り指定管理者が対処した。
状況用	利用状況はどうか(前年及び計画との比較)	/	別②に詳細を記入してください
	利用者増加のための取組をしたか	3	施設の充実、花が1年中咲いているように工夫
収支状況	収入の状況はどうか(前年及び計画との比較)	/	別③に詳細を記入してください
	支出の状況はどうか(前年及び計画との比較)	/	
	収支の状況はどうか(支出超過になっていないか)	/	
	収入増加の取組は行われたか	3	自動販売機の設置を行なった
	経費節減の取組は行われたか	2	

前年度	施設管理責任者(1) 施設管理従事者(2) 臨時従事者(1) 飲食販売(5) 臨時従事者(キャンプ場の宿泊利用があるときの夜勤)が、1名辞めた。正社員の従事者(社長、専務を含む)で、対応している。
計画	施設管理責任者(1) 施設管理従事者(2) 臨時従事者(1) 飲食販売(常勤1 非常勤4) 緑地管理従事者(非常勤5)
実績	施設管理責任者(1) 施設管理従事者(2) 臨時従事者(1) 飲食販売(常勤1 非常勤4) 緑地管理従事者(非常勤5)

別②(利用状況について)

単位:人・件

内 訳	H25 実績	H26 実績	H27 計画	H27 実績
来園者数	154,011	165,735	176,000	166,621
テニス場	6,203	6,124		6,308
キャンプ場	557	723		950
管理棟講義室	1,863	1,667		1,106
合 計	162,634	174,249	176,000	174,985

利用評価
1

評価	
----	--

備考	キャンプ場は利用者が毎年増えている。サイト数の増設も検討中である。
----	-----------------------------------

別③(収入状況)

単位:円

収 入	H25 実績	H26 実績	H27 計画	H27 実績
指定管理料	23,809,524	23,333,333	22,857,142	22,857,142
有料公園施設使用許可関連収入	1,704,513	1,664,492	1,450,000	1,786,450
売店及び自動販売機収入	8,873,759	11,495,410	12,100,000	12,635,461
その他収入	947	2,281	50,000	51,817
合 計	34,388,743	36,495,516	36,457,142	37,330,870

収入評価
3

評価	
----	--

備考	※消費税抜き 売店収入は大幅に増加している。
----	---------------------------

別③(支出状況)

単位:円

支 出	H25 実績	H26 実績	H27 計画	H27 実績
人件費	12,726,206	13,810,378	13,000,000	14,113,512
管理費(緑地管理費委託料)	15,668,949	15,516,148	12,250,000	13,511,063
管理費(その他委託料)	1,705,609	1,952,888	1,861,000	1,745,085
原材料費(売店仕入れ)	2,903,185	5,216,395	4,000,000	4,471,406
管理費(その他)	5,689,469	5,999,737	5,295,000	6,195,384
合 計	38,693,418	42,495,546	36,406,000	40,036,450

支出評価	1	収支評価	3
------	---	------	---

評価	
----	--

備考	※消費税抜き 人件費、管理費(緑地管理委託料)が計画より大幅に増加している。
----	---

総合評価
85



<p>特に評価される点</p>	<p>管理棟付近の花壇やプランターに常に花が咲いており、以前より管理棟周辺が華やかで利用客にも好印象をあたえている。 園路周辺の間伐を行なったことで、何か出てきそうな暗いイメージだった園路が見通しが利き歩きやすくなった為、ウォーキングや散歩をする利用者が増加している。このように公園のイメージが全体的に明るくなり利用者の増加につなげているところは評価できる。</p>
<p>改善すべき点</p>	<p>3年連続の赤字である。昨年度より赤字額は減少したが、人件費、管理費(緑地管理委託料)が27年当初の計画より大幅に超過している。理由としては台風対応や冬季の水道管の凍結の対応で突発的なものだが、昨年度のモニタリングでは経費節減と収入増で黒字を目指すとしていたので、改善すべき点である。 各種報告書の提出が遅れることが多かった。期限厳守で提出すべき。</p>
<p>その他</p>	<p>平成26年度のバラ園の壊滅状態から1年が経過し27年度はバラ園の樹勢回復に力を入れたようだが、まだ市民の方からバラ園の状態があまり良くないとの連絡があった。江汐公園は山陽小野田市の公園の中でも注目されている公園なので各施設の充実をはかってほしい。</p>

評価基準

基準	点数
該当なし	-
計画を大きく下回っている 期待する水準を大きく下回っている 達成度イメージ 60%未満	0
一部分を除き事業計画どおりである 一部分を除き期待する水準どおりである 達成度イメージ 60%～79%	1
ほぼ事業計画どおりである ほぼ期待する水準どおりである 達成度イメージ 80%～99%	2
事業計画どおりである 期待する水準どおりである 達成度イメージ 100%以上	3

利用状況及び収入状況について

基準	点数
該当なし	-
前年度実績 $\geq$ 実績 かつ 計画 $>$ 実績	0
前年度実績 $<$ 実績	1
計画 $\leq$ 実績	2
前年度実績 $<$ 実績 かつ 計画 $\leq$ 実績	3

支出状況について

基準	点数
該当なし	-
前年度実績 $\leq$ 実績 かつ 計画 $<$ 実績	0
前年度実績 $>$ 実績	1
計画 $\geq$ 実績	2
前年度実績 $>$ 実績 かつ 計画 $\geq$ 実績	3

収支状況について

利益率 = 収入実績 ÷ 支出実績

利益率	点数
0.6未満	0
0.6～0.7未満	1
0.7～0.9未満	2
0.9～1未満	3
1以上	4

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり	2	公園・緑地の整備・保全	1	都市公園の整備・管理
	実施計画名			事務事業名		
2	開設公園維持管理事業		5	都市公園施設整備事業		

事業概要	山陽小野田市公園施設長寿命化計画に基づき、今後進展する公園施設の老朽化に対する安全性の確保、機能の確保及びライフサイクルコスト削減の観点から健全度がD判定(緊急度高)・C判定(緊急度中)となっている公園施設のうち重要度・利用度の高い施設の計画的な更新・補修を行う。	対象	公園
		手段	公園施設の劣化状況に合わせて更新や補修を行う。
		意図	公園施設の長寿命化を図り、市民が長期にわたり安全・安心して利用できる。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	調査設計委託料	2,592,000	2,592,000
	工事請負費	13,205,000	13,204,890
合計		15,797,000	15,796,890

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金	50%	6,790,000	6,790,000
	県支出金			
	地方債	1/2×0.9	6,100,000	6,100,000
	その他			
	一般財源		2,907,000	2,906,890
合計			15,797,000	15,796,890

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	1,730,549

交付税算入	有	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標	※上段:目標 中段:実績 下段:達成率	
	H25	H26
1 浜河内緑地トイレの改修		
2 小野田中央公園体育館屋根の改修		
3 その他公園施設の改修		

H27	目標達成度	H28(目標)
設計完了	かなり良い	工事
100%		
工事完了		
100%		
工事完了		工事
100%		

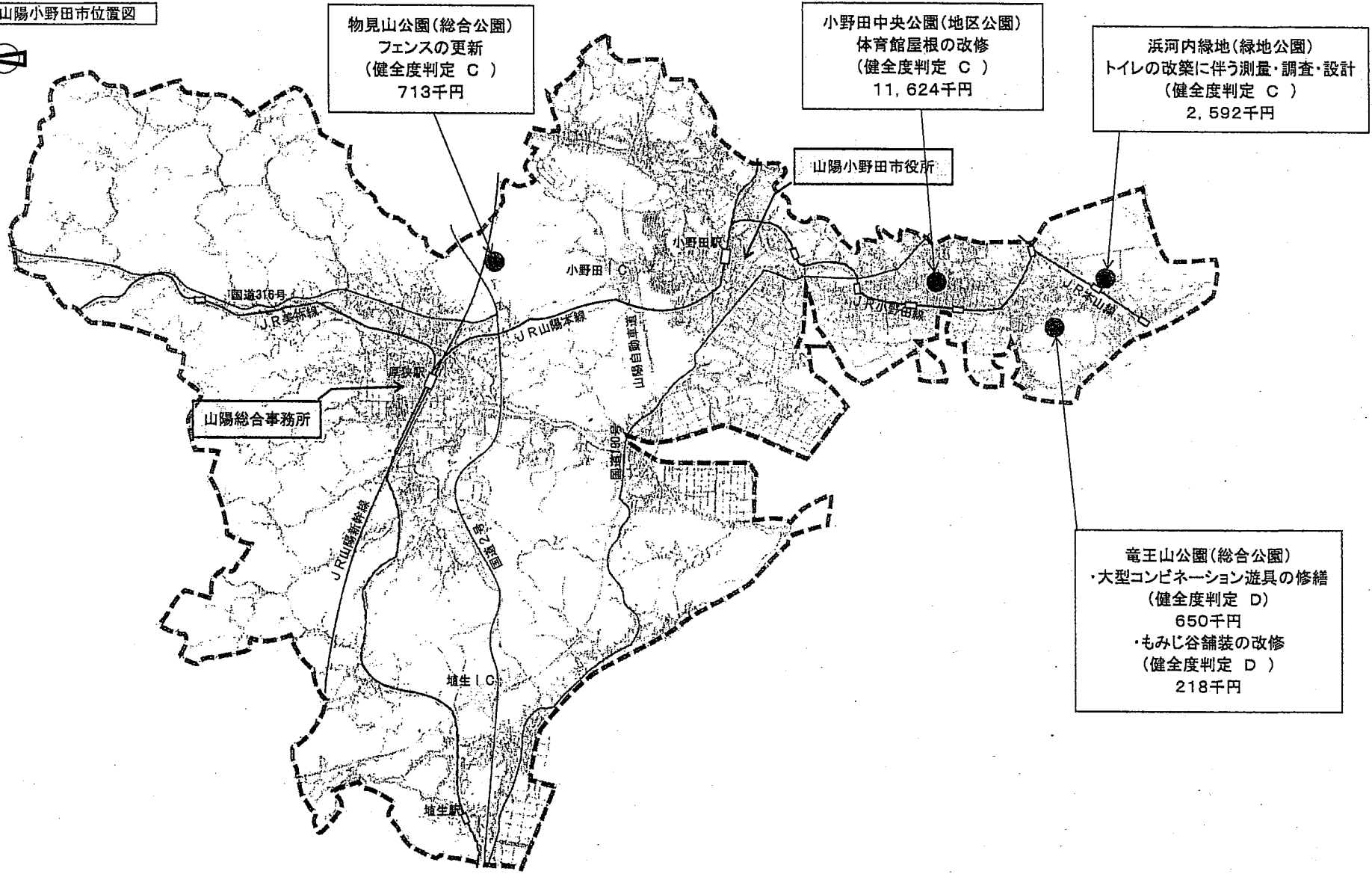
妥当性	目的の妥当性	妥当である	公園施設の長寿命化を図るためであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	市管理の都市公園であり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	市全域の整備であり、妥当である。
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	山陽小野田市公園施設長寿命化計画に基づき、実施する。
効率性	実施主体の適正化	適正である	市が主体で実施すべきであり、適正である。
	受益者負担の適正化	適正である	社会資本総合整備計画に基づき補助率1/2の国庫補助金により、適正である。
	コスト効率	適正である	全国的な傾向であり、適正である。



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	
------	--

山陽小野田市位置図



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり	1	良質な居住の確保	5	住まいづくりの推進体制づくり
	実施計画名			事務事業名		
2	住宅リフォーム助成事業		1	住宅リフォーム資金助成制度		

事業概要	リフォームを行う民間住宅の所有者に対し、山陽小野田市住宅リフォーム資金助成金交付要綱に基づき助成金を支給する。助成金の額は工事費の10%、限度額7万円で、市内業者の施工によるものに限る。		対象	自らが居住する家屋のリフォーム工事を行う家屋の所有者
			手段	市広報紙等で広く募集し、工事完了後、助成金を支給する
			意図	地域経済の活性化と住環境の向上

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	住宅リフォーム助成金	10,000,000	10,000,000
	合計	10,000,000	10,000,000

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
一般財源	10,000,000	10,000,000	
合計	10,000,000	10,000,000	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	1.15	3,980,888

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	助成件数	173件	170件	173件		
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	
	自治体関与の妥当性	妥当である	
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度		
	類似事業の存在	存在する	介護保険又は障がい者福祉制度による住宅改修(バリアフリー化)
	上位施策への貢献度	貢献している	
効率性	実施主体の適正化	適正である	
	受益者負担の適正化	適正である	
	コスト効率	適正である	



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	
------	--

施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	14 意欲のある人づくり 実施計画名	2 義務教育の充実	1 教育環境の整備
7 学校施設整備事業	10 知的障害特別支援学級設置事業		

事業概要	現在、小野田地区には、知的障害特別支援学級の集合体として、赤崎小学校・竜王中学校松原分校が設置されている。国は、平成26年1月に「障害者の権利に関する条約」を批准し、障がいのある子どもと障がいのない子どもが、できるだけ同じ場所で学ぶことができる権利を認め、それを実現するための環境を整備する方針を示した。本市では保護者から、居住している校区の小・中学校に知的障害特別支援学級を設置してほしいとの要望が高まっている。これらのことから、小野田地区の各小・中学校に、必要に応じて、知的障害特別支援学級を開校した。	対象	松原分校以外の小野田地区の小・中学校
	手段	教室内の間仕切り、パソコンや室内遊具その他の必要な教材備品の配備	
	意図	居住地校区の学校に通学したい障がいのある子どもとその保護者の要望に応じるとともに、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学び、生活することを通して、互いに人格と個性を尊重し支え合う心を育てることを目的としている	

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	備品購入費	1,400,000	1,365,756
	工事請負費	1,078,000	1,077,200
	合計	2,478,000	2,442,956

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
一般財源	100%	2,478,000	2,442,956
合計		2,478,000	2,442,956

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.06	346,110

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	松原分校以外の知的障害特別支援学級の開設数(小野田地区)			5校5学級	良い	
2	松原分校以外の知的障害特別支援学級の児童生徒数(小野田地区)			5校5学級		
3				100.0%		

妥当性	目的の妥当性	妥当である	子どもと保護者の意向を反映し、インクルーシブ教育を推進するためのものであり、妥当である
	自治体関与の妥当性	妥当である	市の財産となるものの購入と施設の改修であり、妥当である
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	知的障害特別支援学級の新設が必要な学校であり、妥当である
有効性	目標達成度	達成している	小野田地区の小中学校へ5つの知的障害特別支援学級を新設した
	類似事業の存在	存在する	主に小野田地区の知的障がいのある児童生徒を対象とする、特別支援に特化した赤崎小学校・竜王中学校松原分校が設置されている
	上位施策への貢献度	貢献している	総合計画の「特別支援教育の推進」とも合致する事業である
効率性	実施主体の適正化	適正である	市の財産となるものを整備するものであり、市が行うことは適正である
	受益者負担の適正化	適正である	教育基本法により、市が全額を負担する必要があり、適正である
	コスト効率	適正である	複数の業者から見積りを徴し、比較検討して発注しており、適正である



課題			
今後の方向性	事業の終了	改善時期	

特記事項	
------	--

## ○知的障害特別支援学級設置事業

### 【事業概要】

現在、小野田地区には、知的障害特別支援学級の集合体として、赤崎小学校・竜王中学校松原分校が設置されている。

国は、平成24年7月に中央教育審議会でインクルーシブ教育システム構築の方向性を示し、平成26年1月に「障害者の権利に関する条約」を批准し、障がいのある子どもと障がいのない子どもが、できるだけ同じ場所で学ぶことができる権利を認め、それを実現するための環境を整備する方針を示した。

本市では、保護者から居住している校区の小・中学校に知的障害特別支援学級を設置してほしいとの要望が高まっている。

これらのことから、小野田地区の各小・中学校に、必要に応じて、知的障害特別支援学級を開設した。

### 【事業の内容】

知的障害特別支援学級の新設をした5校（有帆小、高千帆小、須恵小、高千帆中、小野田中）に、教材・管理備品を整備した。この中で、教室に空きがない高千帆小と小野田中では、1つの教室を2つに仕切って教室を設けた。

#### （教材・管理備品の購入）

- ・ノートパソコン
- ・アレンジ輪投げ
- ・カード類（SST、読み、数字、自立活動）
- ・CDラジカセ
- ・事務机、イス・ホワイトボード 等

#### （教室の改修）

- ・教室の間仕切り
- ・照明用配線の付け替え
- ・黒板の移設

平成27年度 事務事業評価シート 課・局・室・所(係) 学校教育課 学務係 No 47

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	14	意欲のある人づくり	2	義務教育の充実	1	教育環境の整備
	実施計画名			事務事業名		
7	学校施設整備事業		8	小学校タブレット端末整備事業		

事業概要	市内小学校には、合併前に整備されたデスクトップ型パソコンが設置されていた。どれも古く、更新する必要があった。そのため、国の「教育のIT化に向けた環境整備4か年計画」(H26年～H29年)に基づき、最新のパソコンを整備した。整備に先立ち、小学校にアンケート等を行った結果、調べ学習が主な活用用途であったため、今後の授業への汎用性等を考慮し、タブレット型のパソコンを整備した。		対象	市内小学校の児童及び教員
			手段	各小学校に無線環境を整備し、1校につき約20台を設置
			意図	IT化が急速に進展する中で、時流に即したIT教育環境を整備する

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	機械器具借上料	2,784,000	2,331,072
	合計	2,784,000	2,331,072

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
一般財源	100%	2,784,000	2,331,072
合計		2,784,000	2,331,072

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.5	2,884,248

交付税算入	有	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	タブレット端末の整備台数			250(台)	良い	-
				250(台)		
				100.0%		
2	タブレット端末を授業で活用した回数			-		1,365(回)
				-		
3				-		

妥当性	目的の妥当性	妥当である	国の「教育のIT化に向けた環境整備4か年計画」に基づいており、妥当である
	自治体関与の妥当性	妥当である	市が学校と連携して、計画的に整備していく事業であり、妥当である
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	市内小学校の児童及び教員であり、妥当である
有効性	目標達成度	達成している	平成27年度にすべての小学校にタブレット端末250台を整備した
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	総合計画の「情報活用能力の向上」及び「教育環境の整備」にも合致する事業である
効率性	実施主体の適正化	適正である	学校ニーズを踏まえて市が主体的に行う事業である
	受益者負担の適正化	適正である	教育基本法により、市が全額を負担する必要があり、適正である
	コスト効率	概ね適正である	入札により納入業者を選定しており、適正である



課題	タブレット端末をいかに授業で使いこなしていくかがポイントとなる。学校に対する支援策として、教育委員会による定期的な研修の機会を設け、活用例を示すなどして、活用の促進に努める。		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期	

特記事項	
------	--

## ○小学校タブレット端末整備事業

### (事業概要)

市内小学校には、合併前に整備されたデスクトップ型パソコンが設置されていたが、どれも古く、更新する必要があった。そのため、国の「教育のIT化に向けた環境整備4か年計画」(H26年～H29年)に基づき、最新のパソコンを整備した。

整備に先立ち、小学校にアンケート等を行った結果、調べ学習が主な活用用途であったため、今後の授業への汎用性等を考慮し、タブレット型のパソコンを整備した。

### (整備内容)

市内小学校13校にパソコン教室で使用するタブレット端末を整備した。

- ・ 1校あたり 約20台
- ・ 市内小学校で250台
- ・ 無線環境整備
- ・ デジタルテレビ・プロジェクター
- ・ 専用サーバー

### (決算額)

- ・ 2,331,072円

※平成28年2月から運用開始したため、平成27年度は2ヶ月分のリース料を支出。

※総事業費 69,932,160円(5年間)

1,165,536円/月 (60ヶ月のリース契約)

### (タブレット端末の活用例)

- ・ グループでの調べ学習
- ・ 授業へ活用(児童)(支援ソフトの活用)
- ・ 補助教材としての授業への活用(教員)
- ・ 写真・動画機能を使った学習
- ・ 特別支援学級(視覚障害)への活用
- ・ IT教育の推進



施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	4 市民が安心して暮らせる環境づくり	3 防災体制の充実	4 建築物の耐震強化
	実施計画名		事務事業名
10	学校施設耐震化事業		学校施設非構造部材耐震化事業

事業概要	小・中学校の屋内運動場等に取り付けてある吊り天井や照明器具等が地震で落下し、被害者が出ることを防ぐため、8校8棟の屋内運動場等で工事を行い、12校12棟の屋内運動場等で工事に向けた実施設計を行った。	対象	天井の高さが6mを超えかつ天井水平投影面積が200㎡を超える屋内運動場、武道場等
		手段	非構造部材の撤去・落下防止対策
		意図	災害時の児童生徒・教職員、避難住民の安全確保

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	調査設計委託料	4,214,000	4,212,000
	監理委託料	10,501,000	10,499,760
	工事請負費	186,850,000	186,848,640
	合計	201,565,000	201,560,400

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金	1/3	69,367,000
	県支出金		
	地方債	100%・75%	131,000,000
	その他		
	一般財源		1,198,000
合計		201,565,000	201,560,400

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)	交付税算入	有	会計種別	一般	臨時
	0.55	3,172,672					

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	非構造部材の点検	20棟点検完了			良い	
		完了				
		100.00%				
2	実施設計書の作成		8棟実施設計完了	12棟実施設計完了	良い	
			完了	完了		
			100.00%	100.00%		
3	非構造部材の耐震対策工事			8棟改修工事完了	良い	12棟改修工事完了
				完了		
				100.00%		

妥当性	目的の妥当性	妥当である	安全に学校生活や避難生活を送ることができるようにする必要があり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	学校教育法、学校保健安全法により、学校の設置者である市が関与することになっており、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	文部科学省等が定めた基準に基づいて対象を選定しており、妥当である。
有効性	目標達成度	達成している	予定していた実施設計、改修工事は完了しており、達成している。
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	市の総合計画の基本計画に掲げる建築物の耐震強化に該当するものであり、貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	市の施設の耐震化であり、妥当である。
	受益者負担の適正化	適正である	教育基本法により、市が全額を負担する必要があり、適正である。
	コスト効率	適正である	競争入札を経て発注しており、適正である。



課題		
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期

特記事項	
------	--

# 学校屋内運動場等非構造部材耐震化事業

## ● 工事（吊り天井のある屋内運動場等）

### 【内容】

- ・吊り天井を撤去し、屋根の野地裏に断熱材を吹き付け
- ・照明器具、バスケットゴール、スピーカー等に落下防止ワイヤを取付け
- ・非強化ガラス、非網入りガラスの飛散防止対策

### 【対象施設】

NO	学校名	施設名	NO	学校名	施設名
1	埴生小学校	屋内運動場	5	竜王中学校	屋内運動場
2	津布田小学校	屋内運動場	6	埴生中学校	屋内運動場
3	高千帆中学校	屋内運動場	7	厚陽中学校	武道場
4	小野田中学校	屋内運動場	8	小野田小学校	多目的ホール

## ● 設計（吊り天井のない屋内運動場）

### 【内容】

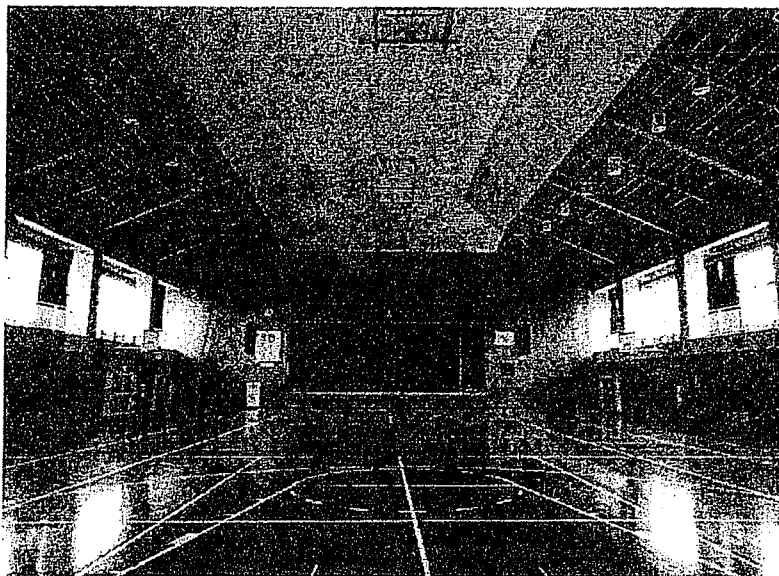
- ・照明器具、バスケットゴール、スピーカー等に落下防止ワイヤを取付け
- ・ステージ手前上部の音響反射板を撤去し、壁に変更
- ・屋内運動場両側面上にあるギャラリーの天井ボードを撤去
- ・非強化ガラス、非網入りガラスの飛散防止対策

### 【対象施設】

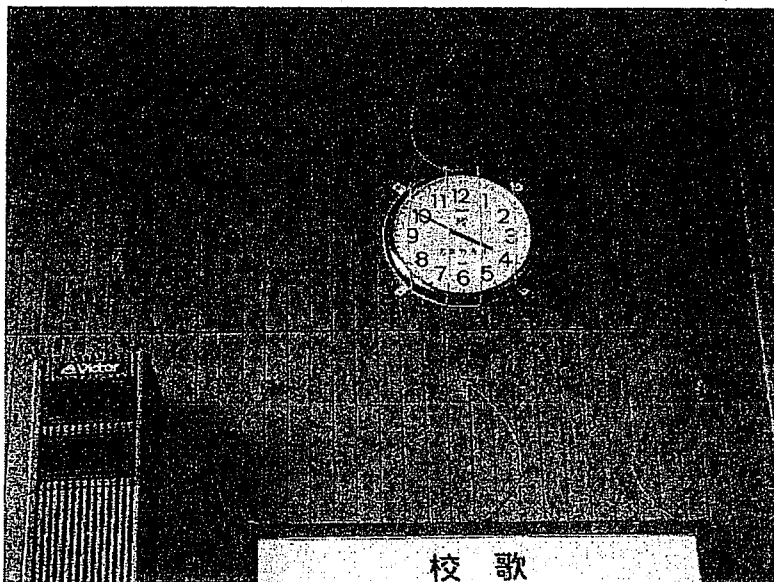
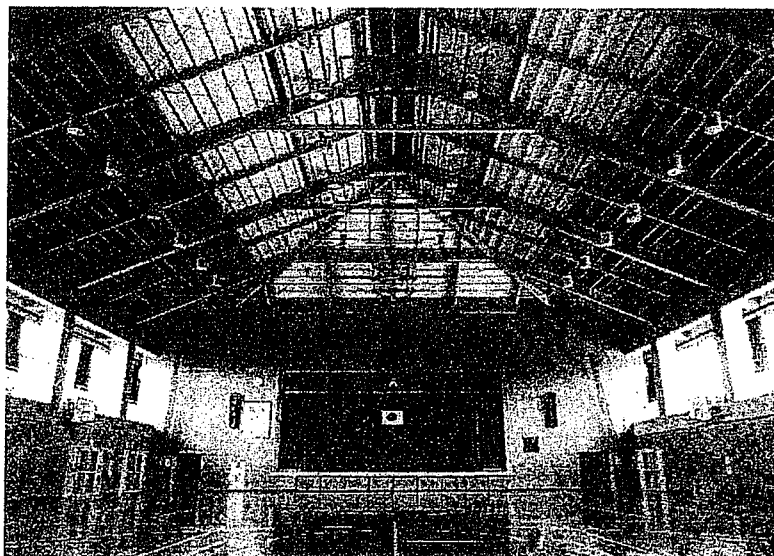
NO	学校名	施設名	NO	学校名	施設名
1	有帆小学校	屋内運動場	7	本山小学校	屋内運動場
2	高千帆小学校	屋内運動場	8	厚狭小学校	屋内運動場
3	高泊小学校	屋内運動場	9	厚陽小学校	屋内運動場
4	小野田小学校	屋内運動場	10	出合小学校	屋内運動場
5	須恵小学校	屋内運動場	11	厚狭中学校	屋内運動場
6	赤崎小学校	屋内運動場	12	厚陽中学校	屋内運動場

【施工例：小野田中学校屋内運動場】

【 施工前 】



【 施工後 】



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	1	安心して子どもを生み育てることができる環境づくり	1	次世代育成支援の充実	3	子育て負担の軽減
	実施計画名			事務事業名		
1	就園・就学助成事業	7	多子世帯応援保育料等軽減事業			

事業概要	少子化対策として、3歳未満を対象とする「多子世帯保育料等軽減事業」を改善し、幼稚園児も対象とするために創設した補助制度。これは、県と市の合同の事業であり、第3子以降の幼稚園児に対して幼稚園就園奨励費に上乗せして補助するもの。具体的には世帯の所得階層区分に応じて、第3階層の者には保育料負担額の全額(県・市1/2ずつ負担)、第4階層以上の者には半額(県・市1/4ずつ負担)を補助した。	対象	幼稚園に通う第3子以降の園児
		手段	就園奨励費を支給後の実質負担園料に対して、階層に応じ全額又は半額を補助した
		意図	幼稚園に通う子がいる多子世帯の経済的負担を軽減する

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	扶助費	5,315,650	5,315,650
合計		5,315,650	5,315,650

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金	50%	2,776,100
	地方債		
	その他	保育料	-236,550
	一般財源	50%	2,776,100
合計		5,315,650	5,315,650

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.05	288,425

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標、または成果指標	H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
	1 認定者数			目標設定不可 80(人)	
2 保護者への周知をお願いする幼稚園数			12(園) 12(園) 100%	良い	12(園)
3					

妥当性	目的の妥当性	妥当である	少子化対策の一環であり、妥当である
	自治体関与の妥当性	妥当である	幼稚園就園奨励費の上乗せ事業であり、妥当である
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	幼稚園に通う第3子以降の園児がいる世帯であり、妥当である
有効性	目標達成度	達成している	要件該当者に申請漏れがないように、幼稚園経由で周知している
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	総合計画の「子育て負担の軽減」とも合致する
効率性	実施主体の適正化	適正である	市・県が連携して行う事業である
	受益者負担の適正化	適正である	市が多子世帯に対して補助する事業であり、適正である
	コスト効率	概ね適正である	財源: 県1/2・市1/2



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	
------	--

## ○多子世帯応援保育料等軽減事業

### 1. (事業概要)

少子化対策として、3歳未満を対象とする「多子世帯保育料等軽減事業」を改善し、幼稚園児も対象とするために創設した補助制度。

これは、県と市の合同の事業であり、第3子以降の幼稚園児に対して幼稚園就園奨励費に上乗せして補助するもの。

### 2. (補助額)

幼稚園就園奨励費の所得階層区分に応じて、幼稚園就園奨励費を支給した後の実質的な保育料負担額について

- ・第3階層以下の者（市民税所得割77, 100円以下）は全額
  - ・第4階層以上の者（市民税所得割77, 101円以上）は半額
- を補助する。財源は県と市が半分ずつ負担します。

### 3. (補助対象者)

小学校3年生以下の兄弟姉妹が2人以上いる第3子以降の幼稚園児の保育料は、幼稚園就園奨励費の支給により、実質的に無料となっている。

多子世帯応援保育料等軽減事業は、兄弟姉妹の年齢を18歳までに広げることにより、補助対象世帯の拡大を図った。

### 4. (決算額)

- ・第3階層以下の者（市民税所得割77, 100円以下）  
8名 668,000円
  - ・第4階層以上の者（市民税所得割77, 101円以上）  
72名 4,884,200円
- 計 80名 5,552,200円

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	1	安心して子どもを生み育てることができる環境づくり	1	次世代育成支援の充実	3	子育て負担の軽減
	実施計画名			事務事業名		
9	保育料支援事業		1	多子世帯応援保育料等軽減事業(拡充分)		

事業概要	H26までは保育所に通う第3子以降(3歳未満)を対象とした保育料軽減事業であったが、H27から年齢制限が撤廃され保育所・幼稚園に通う全ての第3子以降の児童が対象となった。(幼稚園は学校教育課) また認可外保育施設に通う第3子以降の保育料助成も年齢制限が撤廃された。		対象	保護者が扶養する18歳未満の児童のうち保育所に通う第3子以降
			手段	対象児童の保育料を軽減または助成
			意図	多子世帯の経済的負担の軽減。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	多子世帯保育料等軽減事業費補助金	50,000	50,000
合計		50,000	50,000

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金	1/2	15,165,000	
	地方債			
	その他	保育料	-30,280,000	-31,673,410
	一般財源		15,165,000	15,861,705
合計		50,000	50,000	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.1	576,850

交付税算入	無	会計種別	一般	経常
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	保育料軽減した児童数			189人		
2	保育料助成を行った民間保育サービス入所児童数			2人		
3						

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

妥当性	目的の妥当性	妥当である	多子世帯の経済的負担の軽減を目的としており妥当
	自治体関与の妥当性	妥当である	子育て支援に関する事業は自治体が積極的に関与すべき事業である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	保育所等に通う第3子以降がいる多子世帯が対象
有効性	目標達成度		目標設定にはなじまない。
	類似事業の存在	存在しない	国による多子減免制度を補充するもの
	上位施策への貢献度	貢献している	子育て負担の軽減に貢献している
効率性	実施主体の適正化	適正である	行政機関以外に実施主体になりえない事業
	受益者負担の適正化	適正である	多子世帯の子育て支援事業であり、受益者負担になじまない
	コスト効率	適正である	負担割合 県1/2 市1/2



課題	
今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当
	改善時期

特記事項	
------	--

## 多子世帯応援保育料等軽減事業（平成 27 年度拡充）

平成 26 年度までの軽減事業から対象児童の年齢制限を撤廃し、3 人以上子どもがいる多子世帯の経済的負担の軽減を図る。

### 1. 事業概要

保護者が扶養する 18 歳未満の児童のうち、保育所及び認可外保育施設に通う第 3 子以降の児童の保育料を軽減する。

※平成 26 年度までは、対象児童を 3 歳未満とする年齢制限あり。

### 2. 軽減率

#### (1) 保育所に通う児童

・ 市民税所得割額 97,000 円未満の世帯（国の第 2 階層～第 4 階層の世帯）は全額減免

・ 市民税所得割額 97,000 円以上の世帯（国の第 5 階層以上）の世帯は半額減免

#### (2) 認可外保育施設に通う児童

・ 保育料を助成 年間限度額 50,000 円

### 3. 負担割合 県 1/2、市 1/2

### 4. 平成 27 年度実績

#### (1) 保育所に通う第 3 子以降児童の保育料軽減

	全額減免		半額減免		合計	
	人数 (人)	減免額(円)	人数 (人)	減免額(円)	人数 (人)	減免額(円)
3 歳未満	63	8,626,720	49	10,026,630	112	18,653,350
<b>3 歳以上 (拡充分)</b>	<b>95</b>	<b>14,870,550</b>	<b>94</b>	<b>16,802,860</b>	<b>189</b>	<b>31,673,410</b>
計	158	23,497,270	143	26,829,490	301	50,326,760

#### (2) 認可外保育所に通う第 3 子以降児童の保育料助成

人数 (人)	助成額(円)	
3 歳未満	1	50,000
<b>3 歳以上(拡充分)</b>	<b>1</b>	<b>50,000</b>
計	2	100,000

施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	15 家庭や地域社会の教育力の向上	1 生涯学習推進体制の充実	3 社会教育活動の充実
	実施計画名		事務事業名
11	花いっぱい運動事業	2	花いっぱい運動事業(10周年記念事業)

事業概要	市制10周年をきっかけに、市民にヒマワリの種子を無償提供し、育てていただき、開花後に採取した種子の一部を市に提供していただくことにより、次世代による緑化活動の取組を広げていく。種子の配布・回収は、市役所、公民館等にボックスを設置する他、各市民団体の総会等において配布。周知は広報等を利用した。	対象	市民、本市の花いっぱい運動に協力している花壇マイスター等
		手段	学校を通じて、児童とその家庭に種子と事業の趣旨を記した文書を配布。
		意図	市内の緑化推進、親子・異世代間の交流を通して、本市の未来の「花とみどりがあふれるまちづくり」に貢献。

支出内訳	歳出	予算現額(円)	決算額(円)
	需用費	108,000	97,620
	合計	108,000	97,620

財源内訳	歳入	予算現額(円)	決算額(円)
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他	基金	108,000
	一般財源		
	合計	108,000	97,620

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.25	1,442,124

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)	
1	ひまわりの種子配布数			10,000件	良い	10,000件	
				10,300件			
				103.0%			
2							
3							

妥当性	目的の妥当性	妥当である	市民の一体感を醸成するための事業であり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	市民の一体感を醸成するための事業であり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	広く市民一般を対象としており、妥当である。
有効性	目標達成度	達成している	
	類似事業の存在	存在しない	類似事業はない。
	上位施策への貢献度	貢献している	市総合計画に掲げる「緑化意識の高揚、緑化の推進」に貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	10周年記念事業として市が行う事業であり、適正である。
	受益者負担の適正化	適正である	種の購入のみで、育種、施肥、種の回収等は、市民が無償協力しており、適正である。
	コスト効率	適正である	苗に比べて種子はコストが安く、配布手段も学校を通じて行う等、費用を抑えており、適正である。

課題	フラワーバンクに回収された種子を今後の花いっぱい運動に活用していくこと。		
今後の方向性	事業の終了	改善時期	

特記事項	
------	--

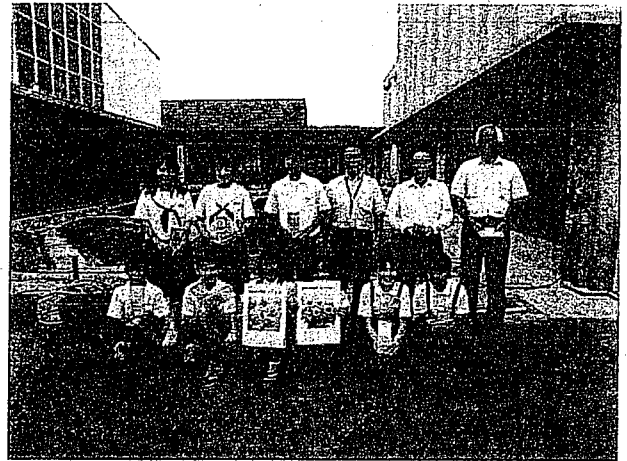


1	事業名	花いっぱい運動事業
2	市誕生10周年の趣旨	①一体感の醸成      ②躍動感あふれるまちづくり ③知名度アップ      ④10年の軌跡をたどる
3	事業の目的	「花いっぱい運動」で養った花への親しみをより多くの市民に対して広めるとともに、市民自らが花を育てその種子を次代に繋いでいく事で、まちへの愛着や緑化意識の高揚を図り、全市民で花があふれるまちづくりに取り組む
4	(1) 内容	市民に対し、種子を無料提供し、育ててもらう。また、開花後に採取した種子の一部を善意で返却してもらうことにより、10周年のひまわりとして次代の緑化活動に繋げていく。
	(2) 実施体制 (共催・後援・協力団体など)	協力：市内小・中学校、保育園、幼稚園、各地域団体、協力者 ㈱晃栄
5	(1) 予算額	総事業費 108,000 円 内訳 需用費(消耗品費) 108,000 円
	(2) 決算額	総事業費 97,620 円 内訳 需用費(消耗品費) 97,620 円
6	(1) 日時・場所	種の配布 6月1日～6月30日 種の回収 9月1日～10月30日 190号線中央分離帯 種の播種 6月25日
	(2) 対象者・参加人数	ひまわりの種配布人数 小・中学校 5,300人 公民館等窓口 5,000人
	(3) 具体的な内容・状況	ひまわりの種を小中学校全児童・生徒に配布し、また、地域の住民向けに公民館に種を配置し、育てていただいた。 メールで送っていただいた開花の様子画像を、フェイスブックに掲載することで運動の周知に努めた。
	(4) 成果・効果	10月に種のおすそ分けを呼びかけたところ、配布した以上の種が回収できた。 また、世界ジャンボリーのスカウト歓迎のため、管理会社である㈱晃栄の協力を得て市役所裏の190号線の中央分離帯に、日の出幼稚園の園児や地域団体(ふるさと・女性会)に協力していただいて、ひまわりの種をまき、ひまわりロードをつくり、ジャンボリーの歓待ムードを盛り上げることができた。
7	その他(今後の取組など)	今回提供していただいた種を、来年度も小・中学校や公民館に配布し、ひまわりの花による花いっぱい運動を次の20周年に向けて継続・拡大していく。その中で、ひまわりロードのような市民との協働の企画を実施していきたい。

# 花いっぱい運動事業



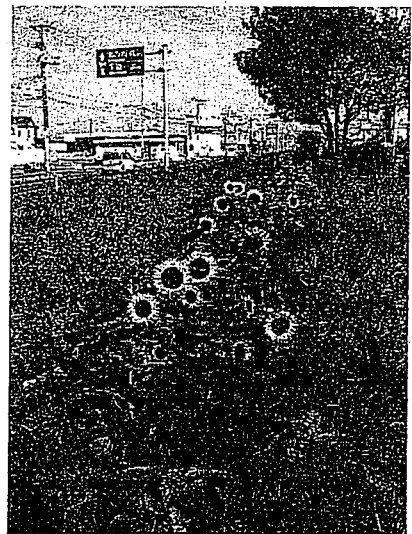
190号線中央分離帯での播種



ひまわりの種贈呈式（厚陽小・中学校）



花いっぱい運動呼びかけ用ポスター



中央分離帯での開花の様子



市民の方から送っていただいた開花の様子

実施体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	1	文化財の保護・継承	1	文化財の保護・継承
	実施計画名		事務事業名			
21	文化財保護啓発事業	2	市誕生10周年記念市主催事業「ぐる一つと山陽小野田ウォーク」			

事業概要	市内を3回に分けて「ぐる一つとウォーク」した。①焼野海岸を発、古道「木戸刈屋道」や近代化産業遺産を巡りながら、小野田のまちの魅力を再確認した。②開作の遺跡と寝太郎伝説が残る千町ヶ原を巡った。③厚狭毛利家を偲びつつ「旧山陽道」や「はぶ道」を歩き、厚狭や埴生の街の魅力を再確認した。		対象	市民・観光客
			手段	文化財を巡るウォーキング
			意図	合併10周年を迎える旧市町の風土、歴史、自然など相互理解を深め、郷土愛を醸成する。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	60,000	50,000
	需用費	60,000	51,300
	役務費	30,000	4,082
合計		150,000	105,382

歳入		予算現額(円)	決算額(円)
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他	基金等	150,000
一般財源			
合計		150,000	105,382

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.15	865,274

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

活動指標または成果指標		※上段:目標		中段:実績		下段:達成率	
		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)	
1	ウォーキング参加者			150人	普通		
2				119人			
3				79.3%			

妥当性	目的の妥当性	妥当である	この事業を通じて、市民に文化財保護を啓発することが出来た。
	自治体関与の妥当性	妥当である	文化財の保護、継承には自治体の関与が欠かせない。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	
有効性	目標達成度	達成している	予定回数を実施
	類似事業の存在	存在する	観光協会さんようおのだふるさとウォーキングほか
	上位施策への貢献度	貢献している	文化財の保護・継承に貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	文化財事業は所掌事務
	受益者負担の適正化	適正である	参加料を徴収
	コスト効率	適正である	必要最低限の経費であり適正

課題	参加者等から、類似事業との統合による規模の拡大や、この事業の発展的継続の要望があり、今後の事業展開を検討していく。		
今後の方向性	事業の終了		改善時期

特記事項	
------	--

山陽小野田市誕生10周年記念市主催事業 実施報告書

事業所管課〔社会教育課〕

1	事業名	ぐる一つと山陽小野田ウォーク
2	市誕生10周年の趣旨	①一体感の醸成 ②躍動感あふれるまちづくり ③知名度アップ ④10年の軌跡をたどる
3	事業の目的	歩きながら、観て、聞いて、触れて、味わう。これらの相乗効果で、合併10周年を迎える旧市町の風土、歴史、自然など相互理解を深め、一体感を醸成する。
4	(1) 内容	旧市町の風土、歴史、自然など相互理解を深めることができるよう、3回に分け、市内の名所、史跡を、山陽小野田語り部の会の方の解説を聞きながら、「ぐる一つと」歩いてまわり、各地域の魅力、美しい風景、歴史を再発見してもらう。各コース12km。
	(2) 実施体制 (共催・後援・協力団体など)	<共催> 山陽小野田観光協会 <協力団体> 山陽小野田語り部の会
5	(1) 予算額	総事業費 150,000円 <主な収入> 参加料 30,000円 <支出> 報償費 60,000円 (謝礼) 需用費 60,000円 (印刷製本費) 役務費 30,000円 (保険料)
	(2) 決算額	総事業費 105,382円 <主な収入> 参加料 11,900円 <支出> 報償費 50,000円 (謝礼) 需用費 51,300円 (消耗品費) 役務費 4,082円 (保険料)
6	(1) 日時・場所 第1弾：10月24日(土) 第2弾：11月7日(土) 第3弾：12月6日(日) (2) 対象者・参加人数 第1弾：30人 第2弾：36人 第3弾：53人 (3) 具体的な内容・状況	
実施状況	第1弾：「近代化産業遺産と木戸刈屋道」コース 「木戸刈屋道」や近代化産業遺産をめぐるながら、小野田の街の魅力を再確認する。(且の一里塚・且の登り窯・山手倶楽部・徳利窯・赤崎神社など) 第2弾：「開作と寝太郎」コース 開作の遺跡と寝太郎物語が残る千町ヶ原をめぐる。(浜五挺唐樋・勘場屋敷・二挺唐樋・吉部田八幡宮・寝太郎荒神社など) 第3弾：「山陽道と厚狭毛利家」コース 厚狭毛利家を偲びつつ「旧山陽道」や「埴生道」を歩き、厚狭や埴生の街の魅力を再確認する。(鴨神社・厚狭高等学校南校舎・洞玄寺・七日町道標・糸根神社など) (4) 成果・効果 歩きながら、観て、聞いて、触れて、味わう。これらの相乗効果で、郷土への理解を深めることができ、市外の参加者には当市の魅力をアピールできた。また、小野田線や山陽本線をルートに取り込むことによって、それらの利用促進につながった。	
7	その他(今後の取組など)	28年度も、ふるさと文化遺産を活用したウォーキングを開催するなど、郷土愛の醸成や市の魅力アップを目指し、公民館や観光協会と連携しながら様々な取組を進めたい。

## ぐるーっと山陽小野田ウォーク

### 第1弾：「近代化産業遺産と木戸刈屋道」コース



### 第2弾：「開作と寝太郎」コース



### 第3弾：「山陽道と厚狭毛利家」コース



施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	1	文化財の保護・継承	1	文化財の保護・継承
	実施計画名			事務事業名		
5	文化財関連施設整備事業	7	市誕生10周年記念市主催事業「幕末の女(ひと)と男(ひと) 山陽小野田編」			

事業概要	平成27年の大河ドラマ「花燃ゆ」の放送により改めて幕末の長州が着目されることになった。それに伴い、2段階に分けて、幕末・維新时期に活躍した山陽小野田ゆかりの人々にスポットをあて、山陽小野田市の歴史を伝えた。 ・第1弾 来嶋又兵衛、前原一誠や厚狭毛利家など、男性にスポットを当てた展示をした。 ・第2弾 毛利勅子や千林尼といった女性にスポットを当てた展示をした。		対象	市民、県民、歴史愛好家、観光客
			手段	特別企画展の開催
			意図	27年度に増加が予想される幕末に関心のある観光客等に山陽小野田市の歴史をPRする。当館に収蔵していない史・資料を借りて展示することで、常設展、企画展とは違う特別な企画展(有料)とする。文化財保護・継承への関心を深めていただくとともに、郷土愛を醸成する。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	旅費	5,200	5,200
	需用費	239,874	239,874
	役務費	90,000	90,000
	運送等業務委託料	598,797	596,064
	合計	933,871	931,138

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	入場料等	933,871	503,000
	一般財源			428,138
合計		933,871	931,138	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.25	810,882

交付税算入	無	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	入場者数			3,000人 2,463人 82.1%	普通	
2						
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	市の歴史を広くPRできるものであり、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	文化財の学習活動、伝承活動、市民の一体感を醸成する事業であり妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	市民、県民を対象としており妥当である。
有効性	目標達成度	概ね達成している	目標来場者の82.1%を達成している。
	類似事業の存在	存在しない	
	上位施策への貢献度	貢献している	特別企画展を通して、文化財の保護・継承に貢献している。
効率性	実施主体の適正化	適正である	10周年記念事業として市が行う事業であり適正である。
	受益者負担の適正化	適正である	入館料を徴収しており適正である。
	コスト効率	適正である	



課題	魅力ある特別展の企画を検討していく。		
今後の方向性	事業の終了	改善時期	

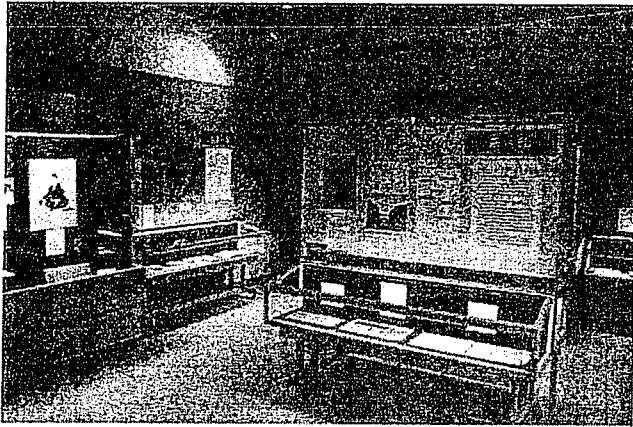
特記事項	
------	--

山陽小野田市誕生10周年記念市主催事業 実施報告書

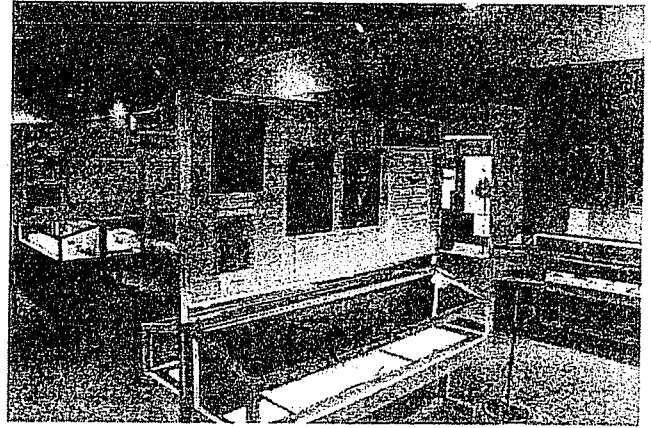
事業所管課 [ 歴史民俗資料館 ]

1	事業名	特別展『幕末の女と男 山陽小野田編』
2	市誕生10周年の趣旨	①一体感の醸成 ②躍動感あふれるまちづくり ③知名度アップ ④10年の軌跡をたどる
3	事業の目的	幕末・維新时期における本市ゆかりの人物を取り上げ、歴史を振り返ることで、将来に向かって市民一体となったまちづくりに繋がる記念事業の一環として開催する。
4	(1) 内容	第1弾「男たちの決意」 山陽小野田市ゆかりの男性にスポットをあてる。 第2弾「幕末の女子力」 山陽小野田市ゆかりの女性にスポットをあてる。 記念講演会・ギャラリートーク
	(2) 実施体制 (共催・後援・協力団体など)	<後援> 山陽小野田観光協会、NHK山口放送局、KRY山口放送、tysテレビ山口、yab山口朝日放送、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、宇部日報社、山口新聞、FMサンサンきらら <企画展協力館(資料調査・借用先)> 松陰神社(萩市)、山口県立山口博物館(山口市)、山口県文書館(山口市)、下関市立長府博物館(下関市)、美祢市歴史民俗資料館(美祢市)、美祢市立美祢図書館(美祢市)、西園寺(美祢市)、山陽小野田市厚狭図書館(山陽小野田市)、山口県立厚狭高等学校(山陽小野田市)
5	(1) 予算額	総事業費 933,871円 <主な収入> 入場料 450,000円、叢書売上料 100,000円 <支出> 旅費 5,200円 需用費 239,874円(消耗品費、印刷製本費) 役務費 90,000円(通信運搬費、手数料) 委託料 598,797円(運送等業務)
	(2) 決算額	総事業費 931,138円 <主な収入> 入場料 86,300円、叢書売上料 15,900円 <支出> 旅費 5,200円 需用費 239,874円(消耗品費、印刷製本費) 役務費 90,000円(通信運搬費、手数料) 委託料 596,064円(運送等業務)
6	(1) 日時・場所	平成27年6月26日(金)～11月1日(日)・歴史民俗資料館2階 ・第1弾「男たちの決意」6月26日(金)～8月23日(日) ・第2弾「幕末の女子力」9月11日(金)～11月1日(日) ・記念講演会『激動の時代～その時、又兵衛は～』7月24日(金) ・ギャラリートーク 6/26(金)、7/11(土)、7/29(水)、8/8(土)
	(2) 対象者・参加人数	入場者 第1弾 1,411人/49日・第2弾 1,052人/41日 記念講演会 222人、ギャラリートーク 31人
	(3) 具体的な内容・状況	第1弾：第1章 来嶋又兵衛・第2章 前原一誠・第3章 厚狭毛利家 第1章、第2章では、それぞれの生涯をつうじて、人となりをはじめ、藩役人時代の仕事、人とのつながりを紹介していった。 第3章では、毛利家一門厚狭毛利家の幕末の動きを古文書・古記録を通じてみていった。 第1章から第3章を見ることで、幕末長州の通史的理解を深めることができる展覧会となった。 第2弾：山陽小野田市ゆかりの女性にスポットをあてた。 第1章 毛利勅子・第2章 千林尼 山陽小野田ゆかりの幕末に生きた二人の女性が今に何を遺したかを見ていく展覧会となった。
	(4) 成果・効果	看板等の作成により目立つPRが広くでき、はじめて歴史民俗資料館に来館する人が多かった。また、アンケートで、「山陽小野田市にも大河ドラマに出るような有名人がいた事を知ることができてよかった」「歴史に興味があった」「次回の企画展が楽しみ」といった意見が寄せられており、今後の集客に繋がる効果があったと考える。
7	その他(今後の取組など)	特別展終了後、第1弾成果の一部を常設展示にしたほか、第2弾成果の一部を期間限定の特設コーナーで展示した。 28年度も、「くらしの中の紋様展(仮)」や「中世古文書展(仮)」といった企画展を開催する中で、山陽小野田市の歴史や文化を、より市民が身近に感じ、誇りと思えるよう努めたい。

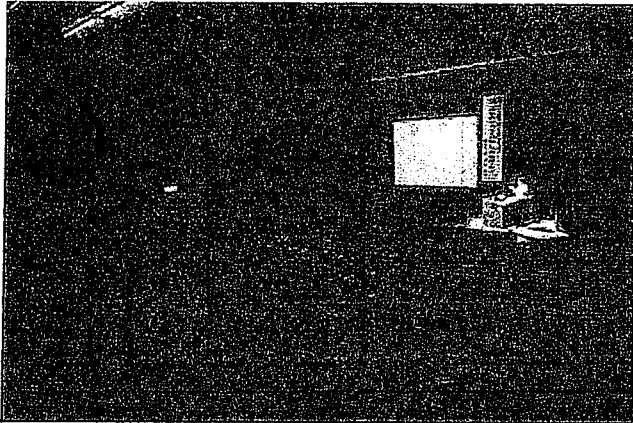
特別展『幕末の女と男 山陽小野田編』



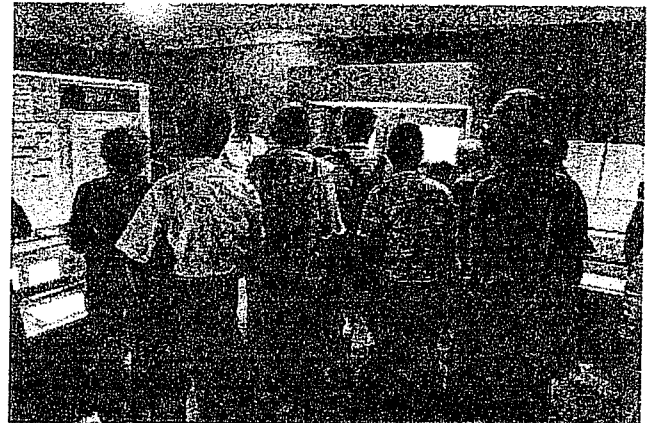
第1弾「男たちの決意」会場風景



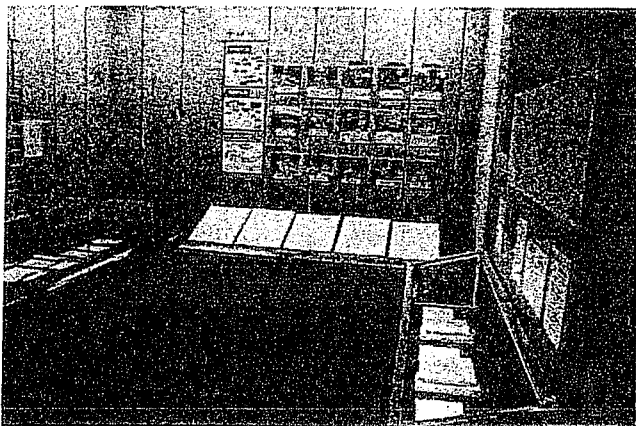
第1弾「男たちの決意」会場風景



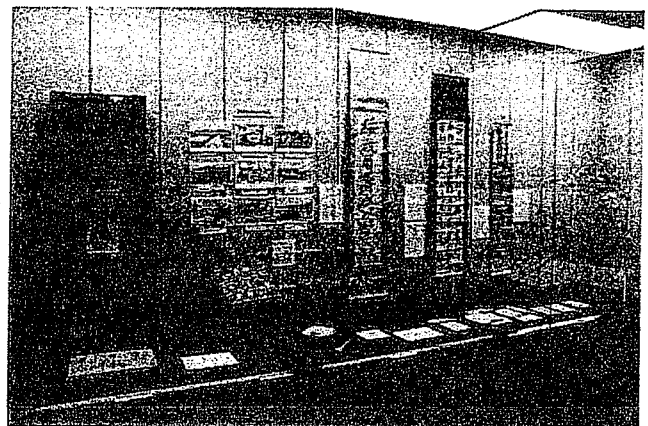
記念講演会



ギャラリートーク



第2弾「幕末の女子力」会場風景



第2弾「幕末の女子力」会場風景



施策体系	大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)
	14 意欲のある人づくり	2 義務教育の充実	3 学校給食の充実
	実施計画名		事務事業名
	学校給食施設整備事業	学校給食共同調理場建設事業	

事業概要	安全・安心な学校給食の安定的な提供は何より重要であり、本市の給食施設の衛生面と老朽化の課題解決のため、衛生面に優れたドライ方式の新しい給食施設を整備し、平成30年2学期の供用開始を目指す。平成27年度は土地の購入、基本設計・実施設計等を行った。	対象	学校給食施設
		手段	衛生面に優れたドライ方式の新しい給食施設を整備する。
		意図	全ての児童生徒に安全な学校給食を安定的に提供する。

歳出		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	土地購入費	94,938,000	94,937,357
	委託料(調査設計、地質調査ほか)	46,404,000	41,092,440
	報償費	10,000	10,000
	その他	2,872,000	1,960,456
	旅費	560,000	510,700
合計		144,784,000	138,510,953

歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
財源内訳	国庫支出金		0	
	県支出金		0	
	地方債	95%・75%	126,600,000	117,500,000
	その他		0	0
	一般財源		18,184,000	21,010,953
合計		144,784,000	138,510,953	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	2	11,536,990

交付税算入	有	会計種別	一般	臨時
-------	---	------	----	----

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標または成果指標		H25	H26	H27	目標達成度	H28(目標)
1	基本設計・実施設計の策定			基本設計・実施設計 完了 100.0%	良い	
2	工程の進捗状況					建設工事着手
3						

妥当性	目的の妥当性	妥当である	学校給食法に給食を実施するよう努める旨、規定されており、妥当である。
	自治体関与の妥当性	妥当である	市の施設を整備するものであり、妥当である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当である	市内全小・中学校の児童・生徒及び教職員に対して、給食を提供するものであり、妥当である。
有効性	目標達成度	達成している	基本設計・実施設計を計画どおり、平成27年度中に完成させた。
	類似事業の存在	存在しない	市内で唯一の学校給食センターを建設する事業である。
	上位施策への貢献度	貢献している	総合計画にも掲載されており、市の主要施策の1つでもある。
効率性	実施主体の適正化	適正である	専門性を要する設計業務を企画・提案能力を競うプロポーザル方式により選んだ設計事務所にさせており、適正である。
	受益者負担の適正化	適正である	学校給食法により、市が全額を負担することになっており、適正である。
	コスト効率	適正である	設計業務プロポーザルの審査において経費も考慮しており、適正である。



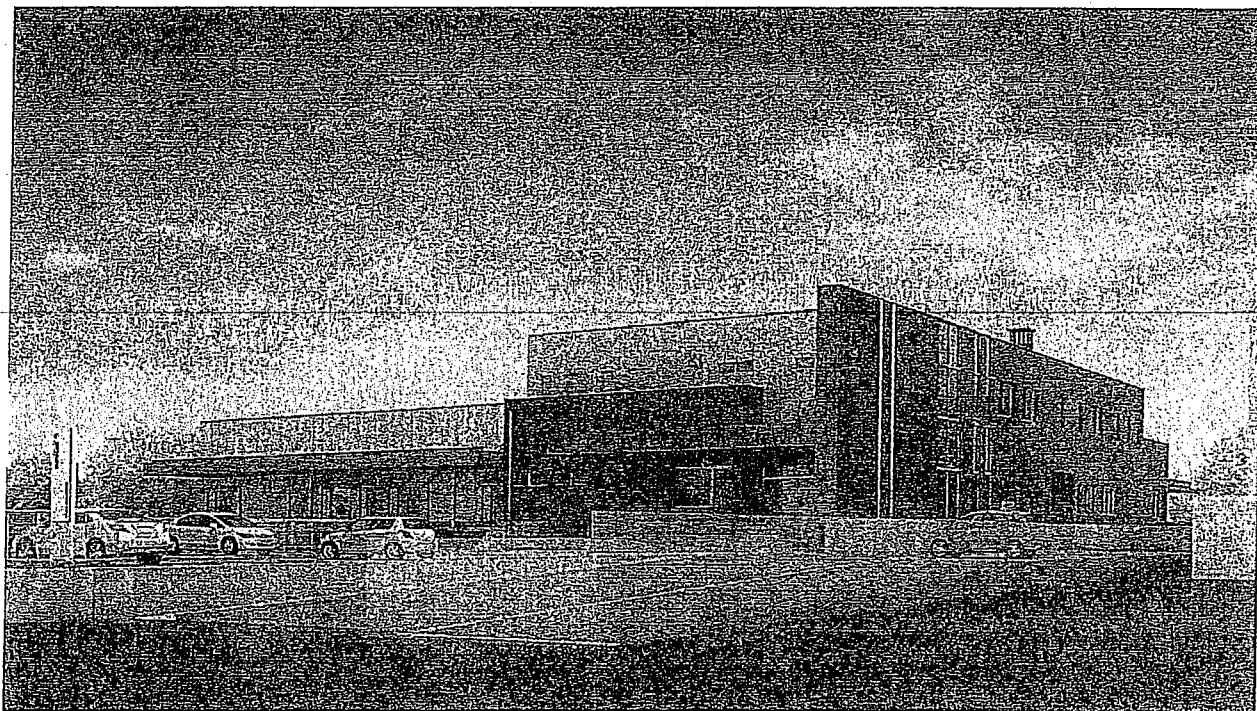
**課題** 既設の調理場における食の安全性の確保が困難な中、平成29年9月の供用開始を目指して進めていたが、その間に市の大型の公共工事が集中して行われることが見込まれ、市内業者への発注、震災復興・東京五輪開催に伴う建設作業員や建築資材の不足により、工期の延長が必要となり、供用開始を平成30年9月に1年先延ばしせざるを得なかったことは、大きな反省点である。供用開始に至るまでの今後2年間、しっかりと進捗管理し、他に誇れる施設に仕上がるよう取り組む。

今後の方向性	計画どおり事業を進めることが適当	改善時期
--------	------------------	------

特記事項	
------	--

# 山陽小野田市学校給食センター

(平成30年9月 供用開始予定)



完成予想パース（外観イメージのため、実際とは異なる場合があります）

## 設計方針

基本方針の「安全・安心な学校給食の提供」「食文化の理解」「食に関する指導内容の充実」「地産地消の推進」を理解し、次の3つを施設計画のコンセプトとします。

『安全・安心で美味しい給食を提供できる施設』

『食育の情報発信ができる施設』

『多様な献立を円滑に調理できる施設』

“世代を担う子ども達の「心」と「体」の成長を支える施設づくりを実現します”

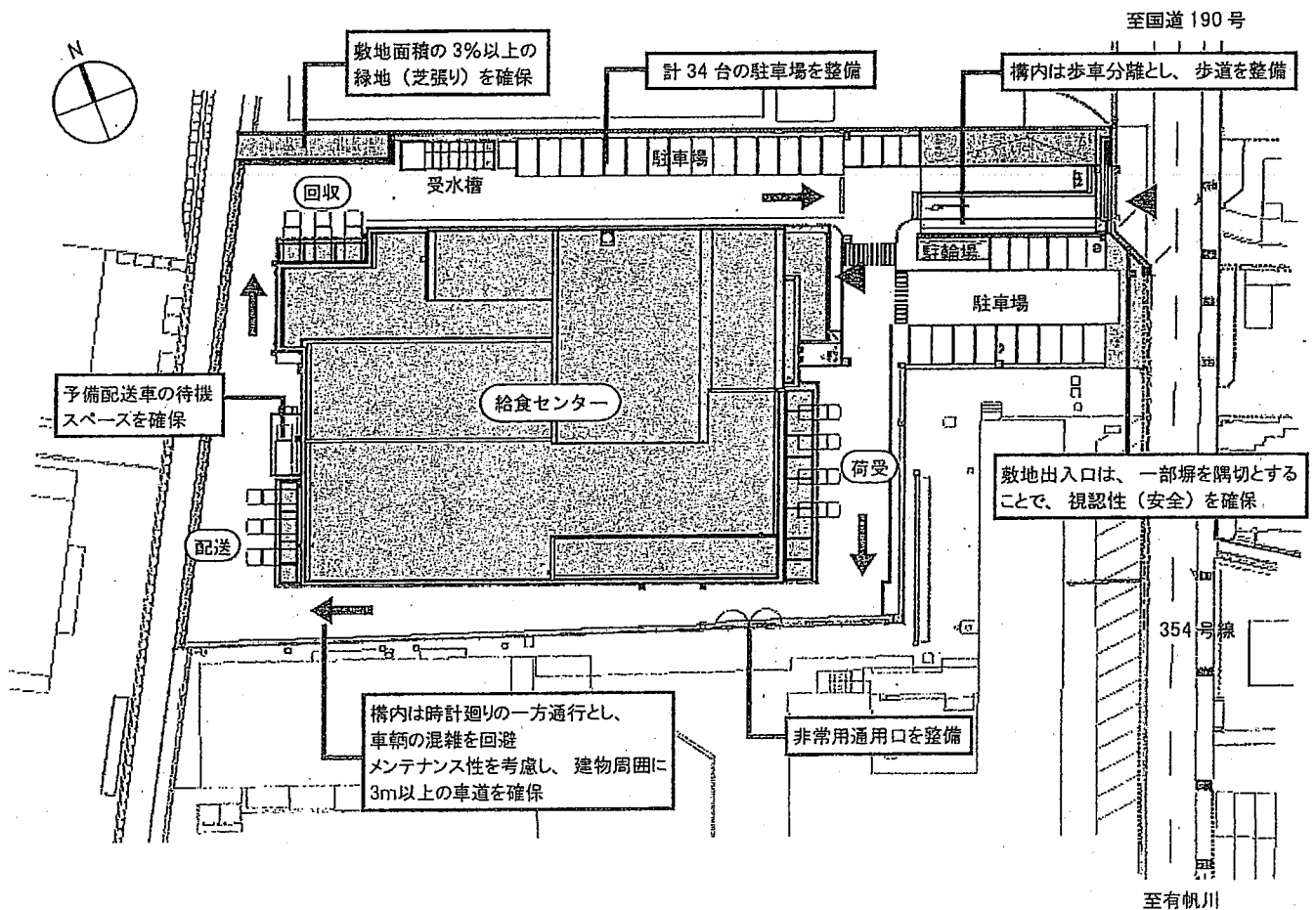
## 建物概要

地名地番：山陽小野田市大字西高泊字二西大塚地内  
 敷地面積：5,378.84 m<sup>2</sup>  
 建築面積：2,445.36 m<sup>2</sup>  
 延床面積：2,955.82 m<sup>2</sup>  
 階数：地上2階建て  
 建物高さ：10.00m  
 構造：鉄骨造  
 食数：5,500食  
 工期：平成28年10月～平成30年1月

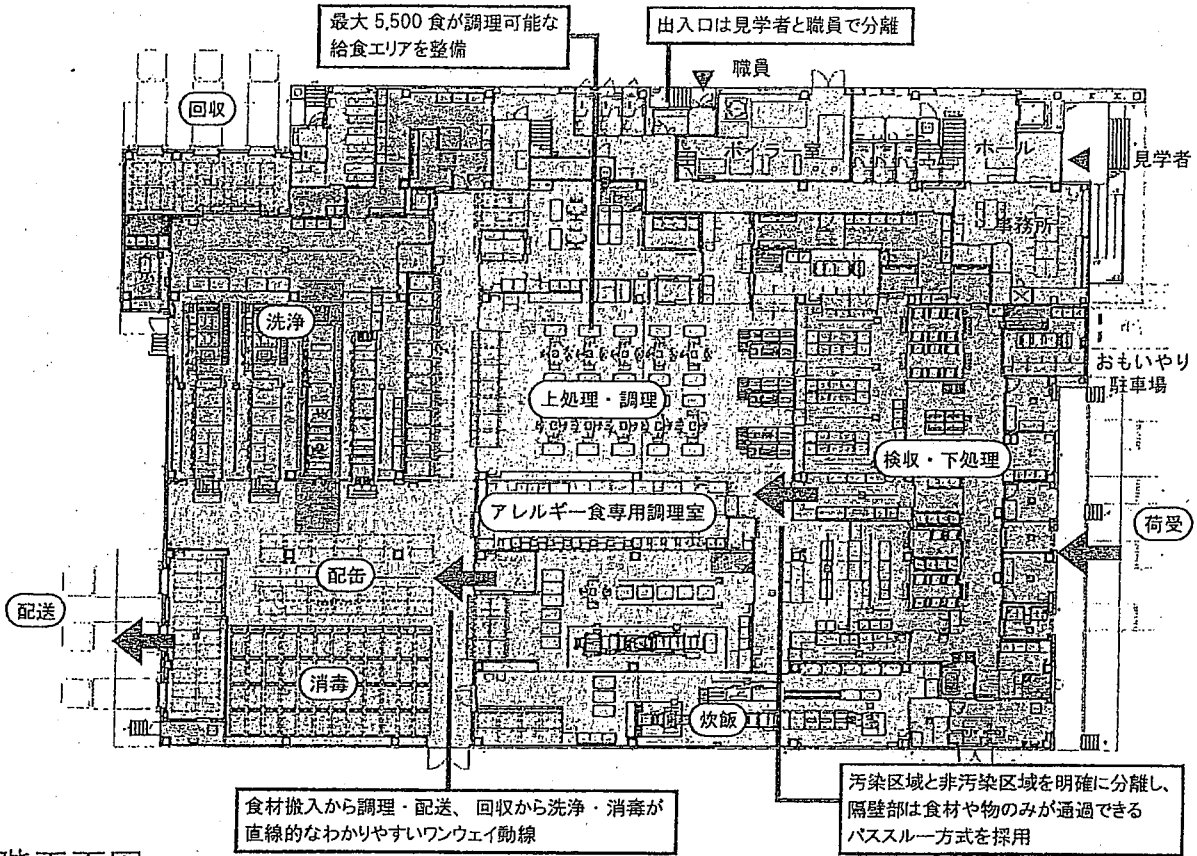
## 整備工程

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
建築工事	[進捗バー]		
外構工事		[進捗バー]	
厨房機器設置		[進捗バー]	
調理等リハーサル			[進捗バー]

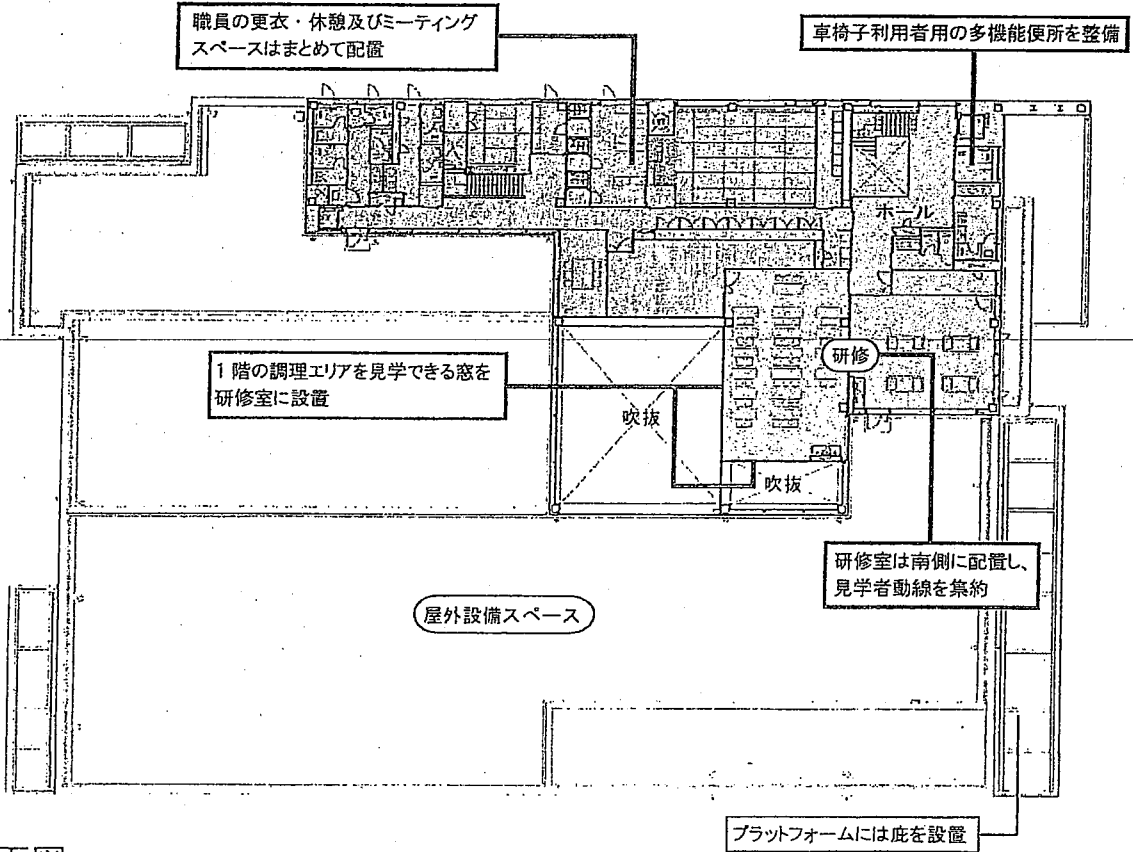
## 配置図



■ 平面図

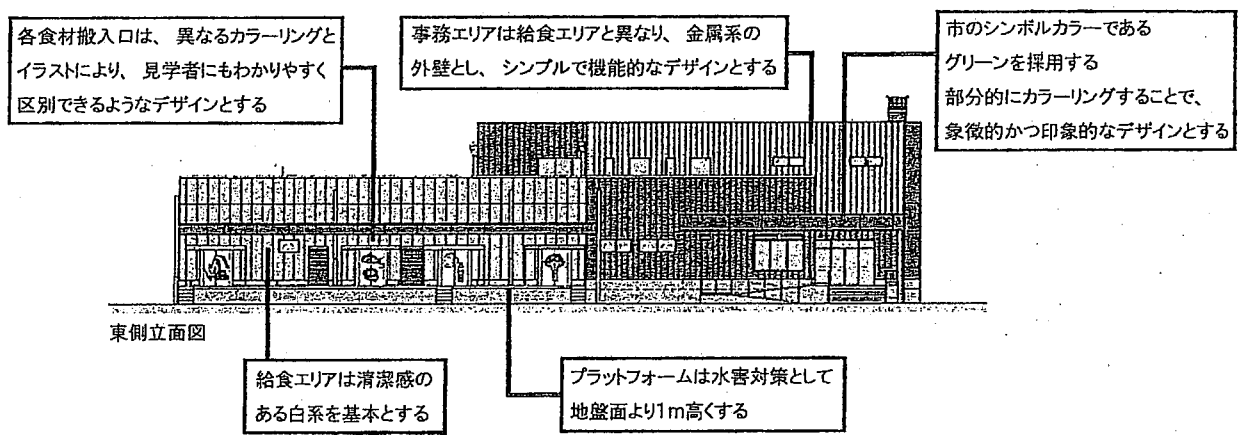
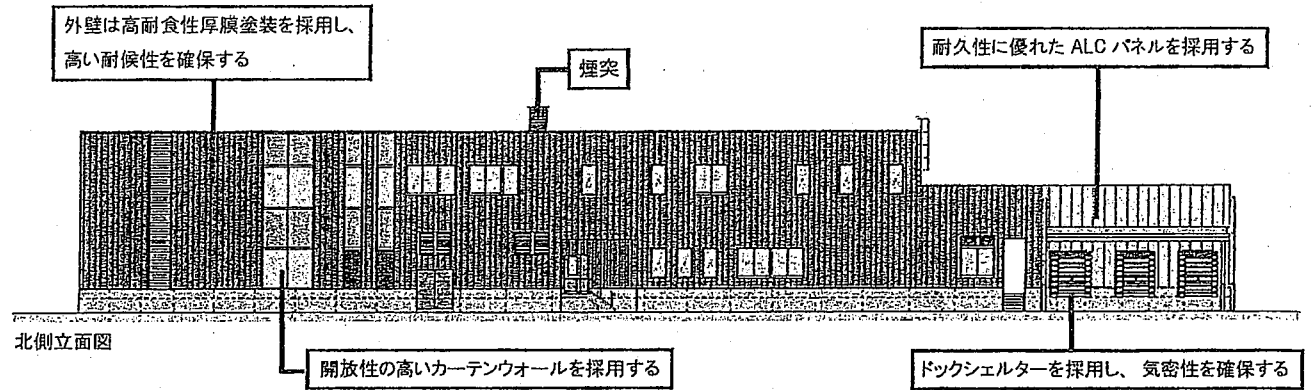


1階平面図

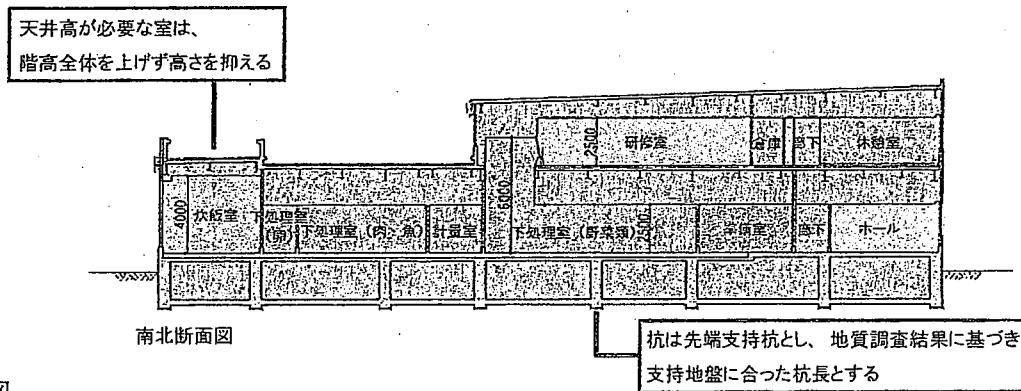
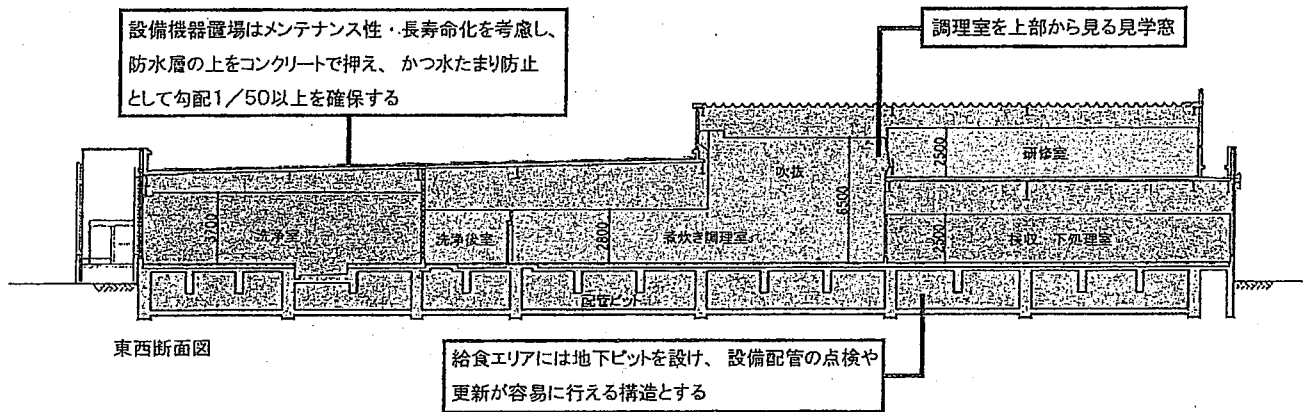


2階平面図

■ 立面・断面図



立面図



断面図